

輪になった杉から数種の樹木が伸びる不思議な木(朽木・岩谷峠付近)

# 世界の山旅

## アルパインツアー

「一人ではいけない...でも行きたい!」  
それにお応えするのが実体験に基づいた  
アルパインツアーの故づくりです。

### ヨーロッパの山脈

●開催日:3月10日(水)

朝日ハイキングから山小屋泊りのトレッキング、夏まで、変化に富んだラインナップ!  
【紹介地域】スイス、チロル、ザルツブルグ、ドニツ、ピレネー、北極など

### ヨーロッパの山旅おすすめツアー

#### スイス・アルプス3大山峰 満喫ハイキング9日間

【開催地】大阪・福岡(関西東り難行)  
出発日:6/16, 6/30, 7/14, 7/28, 8/4  
旅行代金:¥388,000~¥468,000



マッターホルン山頂を目前にハイキング

### 海外トレッキング特設説明会開催!

■会場:大阪科学技術センター(OSTEC)  
(地下鉄本町駅28番出口より徒歩5分)  
■時間:14:00~16:00  
■予約:☎06-6444-3033  
✉ osaka@alpine-tour.com

シーズンに先駆け、世界各地の山脈の魅力、美しい映像をまじえ、経験豊富なスタッフが詳しくご紹介。入場無料。ご予約は大阪支店へ。



### カナダの山脈

●開催日:3月31日(水)

【ゲストスピーカー来日】

ダイナミックなカナダの大自然を詳しくご案内!  
【紹介地域】カナディアン・ロッキー、ユーコン、アルゴンキンなど

### カナダの山旅おすすめツアー

#### 初夏のカナディアン・ロッキー 満喫ハイキング8日間

【開催地】東京 ※大阪/福岡支店内蔵前店開催あり  
出発日:6/16, 6/25, 6/30  
旅行代金:¥338,000~¥342,000



湖の鏡を流したような色のペイトレイク

### 中国の山脈

●開催日:3月30日(火)

【ゲストスピーカー来日】

眩き乱れるお花畑が魅力の中国を徹底紹介!  
【紹介地域】四姑娘山、九寨沟、黄龙、ミニヤコフ山群、チベットなど

### 中国の山旅おすすめツアー

#### 成都からカトマンズへ 横断山脈~ヒマラヤ大走破18日間

【開催地】大阪・福岡・名古屋・東京  
出発日:4/25  
旅行代金:¥612,000



ベースキャンプ付近から見る世界最高峰チョモランマ

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

### ネパール・ヒマラヤ春のしゃくなげキャンペーン

- Aコース** アンナプルナ・ダウラギリ・ゆったりトレッキングとボカラ、ヒマラヤの温泉13日間  
【発着地】大阪・福岡・名古屋・東京 【出発日】3/26, 4/2 【旅行代金】¥328,000
  - Bコース** エベレスト・ゆったりトレッキングと絶景の展望ロッジ滞在 13日間  
【発着地】大阪・福岡・名古屋・東京 【出発日】3/26, 4/2 【旅行代金】¥328,000
  - Cコース** ジョムソン街道ゆったりトレッキングとアイスフォール展望ロッジ13日間  
【発着地】大阪・福岡・名古屋・東京 【出発日】3/26, 4/2 【旅行代金】¥388,000
- その他3コース。ツアーの詳細はお問合せください。



眩き輝くしゃくなげとダウラギリ1峰

掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

**アルパインツアーサービス株式会社**  
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F  
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033  
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557  
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)  
 (函)りんくう観光) 広島/☎082(542)1660(転送)  
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

**40th Anniversary**  
 たくさんのお客様に  
支えられ  
アルパインツアーは  
創業40周年を  
迎えることができました。  
心よりお礼申し上げます。

**出張説明会** 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します。



シダに光があたり杉林に緑が映える（比良・アラキ峠付近）



幻想的な光がさす杉林（朽木・生杉付近）

## 近江の山 樹木の四季 —陽春—

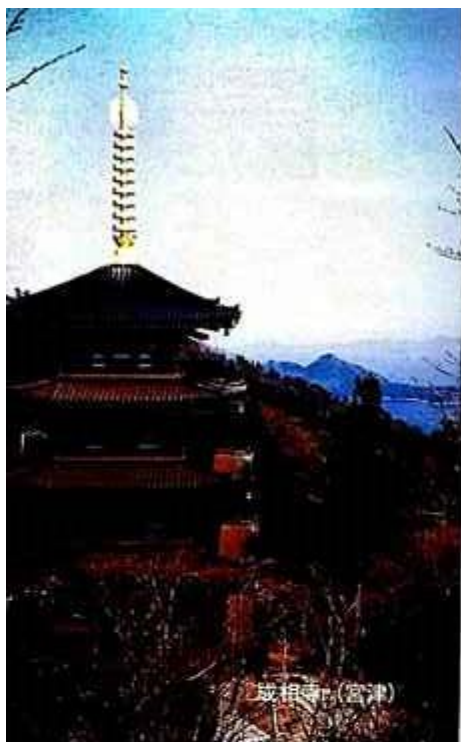
山本武人

### 変形樹・杉林三景

樹木はいろんな成長過程で変化する。山を歩いていると、変形樹に出会う。また、四季を通じて想わぬ光景に出合える。

近江の山「樹木の四季」をここ数年間、撮影してきた。これからも樹木を求めて近江の山を歩きたいと思う。

初夏から陽春まで年六回、2年間連載させていただきました。ひとまず今回で「樹木の四季」は終わり、また、時間をおいて紹介できればと考えています。次回から近江の山「花暦」（仮称）を連載予定です。



つばめきたる(宮崎)

### 玄鳥至 (つばめきたる)

つばめが南からやってくる頃  
 海の色 空の雲 光の照り返し  
 ゆっくりと やさしい時間が  
 頬を撫でるように流れてゆく  
 国をお生みになった伊弉諾命は  
 天に通うために梯子を造られた  
 命が寝ておられる間に倒れ伏した  
 それが天橋立になったとか  
 北側の傘松公園から「股覗き」  
 人が逆さになって見ると  
 天に架かる橋のように見える  
 この眺望を「斜め一文字」と呼ぶ  
 小野小町も股覗きに挑戦した  
 日本三景 松島 宮島 天橋立



伊弉の舟屋

### Photo essay

# 玄鳥至

石

題字 中田 蘭  
 撮影 由井 収  
 文 松永 恵一



桜咲く天橋立



朝日の中で

# 季節の



萌木色

# 実景

春の箱館山（湖西）

撮影 武市通治

陽春



晴れ姿



山を彩る

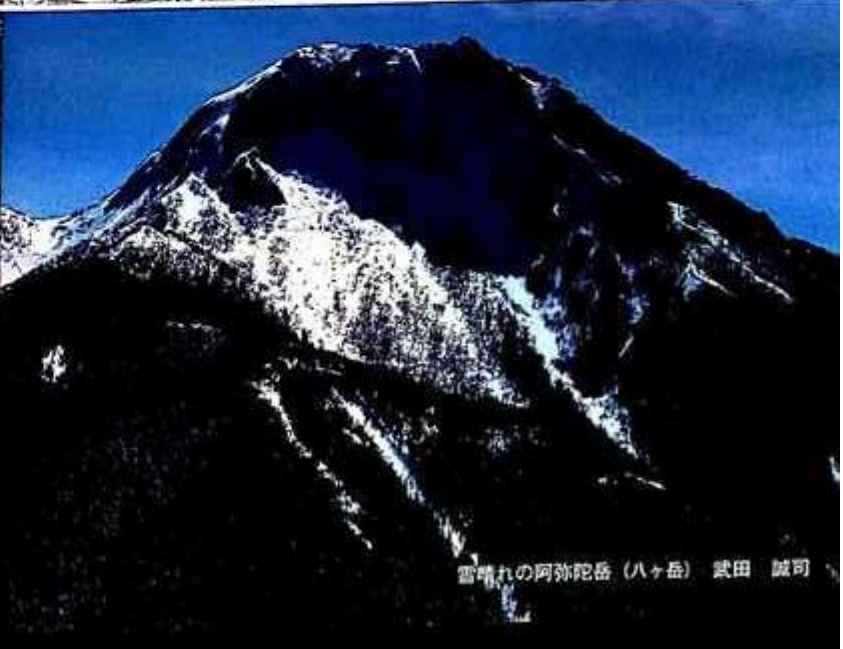
紫樹い



春の野伏ヶ岳 (和神山牧場から) 奥美濃 金谷 隆



阿弥陀岳 (八ヶ岳) 武田 誠司



雪晴れの阿弥陀岳 (八ヶ岳) 武田 誠司

- 表紙 「笹山の頂にて」(南アルプス).....松田敏男
- 口絵 近江の山・樹林の四季.....山本武人
- Photo essay「玄鳥至」.....松永恵一
- 季節の実景「春の箱館山」.....武市通治
- 金谷 昭・武田誠司・一芝義雄・松田敏男
- 「春の雪に遊ぶ」.....奥田英一郎



吉野中千本  
(西村文男)



特集

陽春に歩く山3コース.....編集室

- ①上谷山.....18
- ②乗鞍岳.....16
- ③笠置山行場めぐり.....14

紀行

- 室生古道から室生寺.....木村 太郎
- 点検道分岐からインディアン平原へ.....長宗 清司
- 難波尾山と天山城.....萩本 伸人
- 釈迦ヶ岳・竜ヶ岳・パノラマ台・王岳.....田中 明
- 武奈ヶ岳西南稜線二陸記登高.....小山 誠次

連載紀行

- 標高による山の紹介 △△111の山.....松田 敏男
- 三角点を訪ねて「海住山寺から三上山」.....磯部 純
- 文学歴史ハイク「赤れんがのまち舞鶴を訪ねて」.....松永 恵一

研究

- 旗振り通信の新研究「伊賀市で新発見の旗振り山Ⅱ」.....柴田 昭彦

レポルト

- 山の地名を歩く「虎御前山(長尾山)」.....西尾 寿一
- 無限江山「中央分水嶺、花の時期の楽しみ」.....權上 俊雄

コースガイド

- ①丹波から三角点の巻を経て府境の時へ.....長宗 清司
- ②長野東山と堂山.....磯部 純
- ③天子山.....松尾 一郎

- せせらぎ.....77
- サービスエー.....79
- 山行計画・報告.....83
- 山行係(リーダー)一覧.....106
- 新入会員紹介・訂正とお詫び.....107
- 総目次(101号-110号).....108
- 原稿募集・編集後記.....112
- 広告案内.....112

巻頭言

今年に入っても体調に変化なく良好で、これなら1・2月版冬の雪山例会も無事にこなせそうだ。先月号に書いた通りの「抗がん剤治療」と「食事療法」を今もずっと続けている。

健康の問題は新ハイ会員、読者にも関心が高く、大勢の方から声を掛けていただいた。代表自身が病気を患ってはいは何も言えないと、ハードな日常生活を止め、無理しないでのんびりと過ごすことにしているが、これからは「山歩きがいちばんの健康の源」とも考えて多くの皆さんと笑顔でハイキングを楽しみたい。新ハイ関西の今年のモットーは、「みんな笑顔で楽しいハイキング」とした。

陽春になれば、ハイキングの絶好シーズン、各リグもがんばって多くの例会を企画してもらった。苦しい登りでも笑顔で絶やさないでいつもニコニコと仲良く歩いてほしい。

新ハイ関西(代表) 村田智俊



特集

## 陽春に歩く山 3コース

— 編集室 —

- ① 上谷山 (湖北・余呉ルート)
- ② 乗鞍岳 (湖西・高島トレイル)
- ③ 笠置山行場めぐり (南山城)



特集① 湖北・余呉ルート

菅並から西尾根コースを登る

かみたにやま(うえたにやま)

# 上谷山

中般コース(★★★)

上谷山は奥深い高時川源流にありながら、湖西の新旭あたりから望むことができ、とくに印象深い。この山とはここ10年程のつきあいだが、長い間あたたためてきただけあって手応え十分で、私の40年の登山生活において唯一夜明けをした山である。

イークポイントは最初からわかっていたが、生活圏の山にそれを使ってまでして山頂に立ちたいとは思わない。あくまで湖国側から日帰りで登りたい。頂上に立つにはやぶ山の常でネマガリタケや灌木が雪に埋まる時期が早い、それも麓の車道の雪が解ける早春がベストだ。

この西尾根のポイントには、針川から尾根先端ピークまでの標高差500に近い急な登りをスムーズに上がれるかという時間的なことと、1041の針川奥と呼ばれるピークから山頂間の雪原の広い尾根で好天に恵まれるかどうかということである。

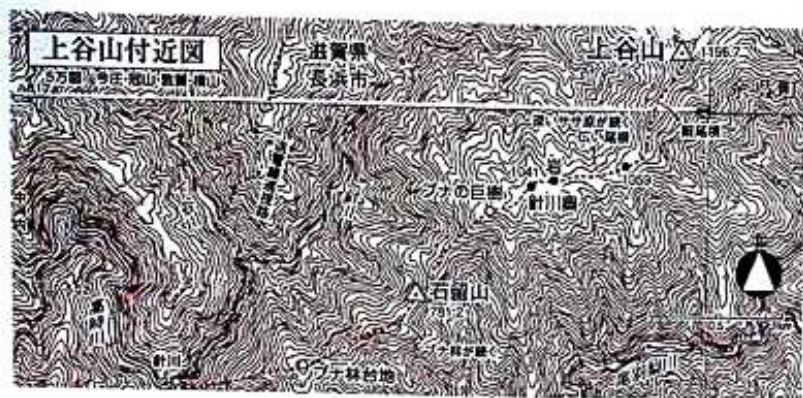
山頂からの展望は立木に邪魔されて東側のみ、南側や西側は雪原から登り切った肩のあたりからがいい。尾羽梨川越しに肩をいかせてそびえる三国岳、双耳峰の横山岳がとくに迫力があって印象的であり、琵琶湖や若狭湾を遠く望むことができるのも中央分水嶺ならではである。

針川(3時間30分) 針川奥(1時間30分) 上谷山(1時間) 針川奥(3時間) 針川  
△地図・地形図▽  
余呉トレイルマップ(ウツアイバル余呉・余呉トレイルクラブ)  
2万5千1板取 中河内

登り約5時間、下り約4時間を見込むが、下りでスノーシューの利点を活かしてスピードアップできれば快適な一日となるだろう。そうでなければ頂上を断念して針川奥で引き返すのが賢明だ。また頂上付近で霧にまかれると迷いやすく、雪原ではトレースが風で消えることが多く、目印を短い間隔で付ける必要がある。針川奥からブナ巨樹、尾根頭から針川への下り地点なども注意したい。

春先は雪の状況は毎年微妙に違うが、おおむね4月上旬がねらい目である。中河内から針川まで車で行くが、半明の先から1時間前後の車道歩きは覚悟しておきたい。

雪後の尾根を行く





マキノ林道入口にのびる岩と雪のアルペン尾根

# 乗鞍岳

のりくら  
中級コース(★★★★)

高島トレイルが開通する数年前までは登る人はまれであった。さらに西側の芦原岳に足をのばす人はさらに少なかった。電波塔が乗鞍岳の肩に立ち、芦原岳から黒河峠にかけての中央分水嶺には送電線鉄塔が多く、まるで閃電に占拠された感すらしたものだ。

外れている乗鞍岳山頂付近やヘリポートから芦原岳手前まで間のブナ林などやぶ漕ぎ同様であったが、今から思うと信じられないくらいだ。しかし、歩いてみれば三国山に並ぶほどの山野草の宝庫であることがわかり、豊かなブナ林や展望の良さもあってこの静かな山はいまや人気急上昇。シカのせいといわれているが、ササが枯れ、山野草が増えて驚くほどよく目につくようになった。

3月下旬ともなると、積雪も一気に解け始める。エドヒガンの清水桜が咲き始める4月上旬ともなると、マンサク・タムシバなどの花が咲き始める。海津大崎のソメイヨシノが満開となる中旬以降になると山の雪もほとんど消えて、ブナの林床ではトクワカソウ、道端にはカタクリ・シヨウジョウバカマなどが花を咲かせ、5月連休の頃にはイワカガミもこれに加わり、乗鞍岳山頂付近ではイワナシの花が見頃を迎える。時期は後になるが、ベニドウゲンやサラサドウダンも見事だ。

林へ入り、か細い道を進む。太い木のブナも現れて深山の面持ちとなる。登り返すと周囲が伐採された送電線鉄塔へ出て、さらにひと登りすれば芦原岳分岐へ着く。頂上までは2、3分、ここにも送電線鉄塔が立ち、歩いて来た乗鞍岳の全容が望める。ここまで1時間あまりの行程だ。

トレイル専用テープを追えば初めての人も迷うことはない。(植上) ▲コースタイム▶ 国境スキー場(2時間)乗鞍岳(1時間)芦原岳(1時間30分)黒河峠(1時間30分)白谷 ▲地図・地形図▶ 中央分水嶺・高島トレイルマップ(高島トレイル運営協議会) 2万5千1:1 駄口



分岐へ戻り、ここから道は再び立派な送電線巡視路となり、急で長い階段道をつくって狼ヶ馬場のブナ林へ。途中、鉄塔が現れるたびに琵琶湖や敦賀湾、三国山などの展望が開け、退屈することはない。谷の広い源頭の気持ちのいい場所ですと休みして、林道が越える黒河峠へ出る。芦原岳からここまで1時間30分。 後は白谷まで林道歩きました。1時間30分程かかるが、下りなのでのんびり行こう。花が多いのでゆっくり歩かせる。ただ花崗岩が風化していて法面からの落石が多いので気をつけたい。 春は日が長いのでトレイル歩きがお勧めだ。トレイルマップ片手に黄色の

イワカガミ



サクラを楽しむ自然公園ハイキング

かささぎ

# 笠置山行場めぐり

初級コース(★)

なつて上へのびている。しばらく登って行けば山道となり、一部岩の道を急登する所もあるがたいしたことはない。やがて平坦になって右手が開けてくる。やがて、ドライブウェイに出合い右折して行き、石段を登れば笠置寺に到着する。駅から約40分位だろ。

笠置寺の山門をくぐって行くと、行場めぐりの受付案内所がある。入山料(300円)を払いしおりを買って、いよいよ時計回りと逆コースに笠置山を一周してみよう。

すぐ正月堂に着き、左の大岩に「弥勒大磨崖仏」と「十三重石塔」を見る。赤矢印の遊歩道にそって行けば、「千手窟」を過ぎ、次は弘法大師が刻んだといわれる「虚空藏磨崖仏」を見上げる。このあたり大岩が点在し、見る者を圧倒する。

「胎内めぐり」「太鼓岩」を過ぎると突然展望が開けて、南方に木津川がくねるように流れる大河原周辺を見下ろす。東方には、鷲峰山・三上山を見る。

笠置山は、春はサクラ、秋はモミジの名所として名高い。4月上旬ともなれば、JR笠置駅周辺や木津川の河川敷並木は大勢の花見客で賑わう。今回は、JR笠置駅から「史の道コース」と呼ばれる東海自然歩道を経て笠置山に登り、山頂の名所旧跡を見ながら行場めぐりの周回コースを歩いてみよう。

笠置駅に遅い時間の10時過ぎに着いても一日中ゆっくりと楽しめる。ホー

ムに降り立つと木津川の桜並木、駅前では見事な枝垂れザクラが出迎えてくれ、まさにサクラの名所にふさわしい雰囲気を感じます。

笠置山へは、駅前から左に見童公園を見て、打滝川に架かる大手橋を渡り、まっすぐ行けば柳生への車道に出る。右折して商店街を行けば約200m先で笠置山へ上るドライブウェイ入口に着く。東海自然歩道の「史の道コース」はその入口を入った右側から階段道と

「ゆるぎ岩」「平等岩」からの展望も抜群だ。「蟻の戸渡り」を抜け、急な石段道を上れば二の丸跡(後醍醐天皇仮居のあった場所)で城跡ではないので休憩所があり、東屋・ベンチがある。

やがて、下方にもみじ公園を見下ろす。左右段の上は「後醍醐天皇行在所」である。春のみみじ公園はまだ新芽だらう。ここはカエデばかりでサクラは無いが、広々としていてゆつくりできる。トイレも完備されているので休憩がてら下り立ってみよう。

周回コースに戻り、「大師堂」を過ぎれば、案内所に戻る。これで行場めぐりは終わる。一周するのにゆつくり歩いて1時間もあれば十分だろう。

さて、サクラの下でお弁当にしよう。案内所を出てからまっすぐ「見沙門堂」の方へ上って行くと、右手奥に広い道がのびているのでそれをたどれば、10分程で史跡公園「六角堂跡」に出る。ここは、笠置寺と離れていて観光客はあまり来ない。シーズンにはサクラが満開で出迎えてくれる。この広場はお花見ランチタイムにちょうどよい。

帰路は、そのまま来た道をなおも先にくだつていけば、すぐにまっすぐのびる柳生への車道だが、先ほどの東海自然歩道「史の道コース」が右手からここへ上がってきているので、それを逆に伝う。槍に囲まれた自然歩道を10分もくだれば、下に公園駐車場を見てすぐに笠置寺山門の下に出る。ここから朝来た「史の道コース」を笠置駅にくだればよい。車道をくだるのは狭くて危険なので避けてほしい。



## 虚空藏磨崖仏



わかさぎ温泉「笠置いこいの館」が笠置駅から5分の所にある。この湯は筋肉痛・関節痛に効果があるという。ハイキング後の疲れた身体には最高の温泉といえよう。

\*なお、このコースは、4月6日(火)の新ハイ例会で実施する。(村田)

△コースタイム▽

JR笠置駅(10分)笠置山入口(40分)笠置寺案内所(行場めぐり1時間)案内所(10分)六角堂跡(10分)笠置寺山門下(30分)笠置山入口(10分)笠置山△地形図V2万5千II笠置山(問い合わせ)

笠置寺 ☎0743(95)2848  
わかさぎ温泉「笠置いこいの館」(第一、三水曜休み、入浴料800円、70歳以上650円) ☎0743(95)2892

万葉集の歌枕を訪ねて

# 室生古道から室生寺

室生

木村 太郎

『万葉集』の巻第十九には、花の歌が数多く収録されている。桃・李・堅香子（カタクリ）・桜・椿・花橋・梅・あやめ・山吹・藤・卯の花・萩・なでしこなどが詠まれており、まるで花図鑑を手繰るようで楽しい。

巻第十九の巻頭に載る、越中時代の大伴家持が桃の花を詠んだ歌に触れ、私も花の春を体感してみたいという思いにかられる。

室生の里には世に知られる桜、素朴ななかに靉郁とした気品の桃の花が咲くと噂を知り、室生古道を歩いて室生寺を訪ねる気になった。

仏隆寺の桜



春の園紅にほふ桃の花  
下照る道に出で立つ娘子

（巻第十九 4139）

桃の節句に近い「三月一日（太陽暦の4月15日）の暮に歌を作る」と題詞があり、紅の花色に照る道に家持がいて、清らかな娘子が樹下に立つ姿を見ている。おそらく室生古道でも昔、花

を愛で緑の樹下道をたどり、寺詣でする清い心を抱く女人の姿を見かけることがあったのであろう。

近鉄榛原駅から曾爾村役場行ききのバスで、土日便10時15分発に乗るつもりだったが、乗客が多く刻前に高井行き臨時便が出る。旧伊勢本街道高井宿のあった高井バス停に着いて、室生古道の道標に従い、室生寺の南門仏隆寺へ歩き始める。天気晴朗の日曜日、赤埴川のせせらぎが響き旅気分を高めてくれる。

大和の宇陀の真埴のさ丹付かば  
そこもか人の我を言なさむ

（巻第七 1376）

「宇陀の真赤土の色が着物に付いたら、二人が恋仲になったら、そのため他人が私の事をかれこれと噂をするだろう」と、宇陀の野で恋人と遊び戯れ合うことを自ら諷めた歌には「赤土に寄せた歌」の題詞が付く。

赤土とは朱砂（水銀）の混じる土砂のことで、朱砂を含んでいたの昔は周辺の河川が赤色に汚濁して、小字「赤

埴」の名が付いたのであろうか。

この日、高井宿から歩く行楽客の多くの野遊びは、仏隆寺の老木千年桜が目的である。桃の花が所どころに咲く上赤埴の坂道を進み、門前の石段のかりで見事に咲き誇る大和国最古の千年桜に出会う。天然記念物指定の大桜が幾本にも幹が分かれ、青空に映えている。

摩尼山の山裾に空海の高弟堅恵が創建した仏隆寺。弘法大師が唐から持ち帰った大和茶発祥の茶が植わる古寺を過ぎれば、室生寺に至る峠への登りにかかる。

参道下の駐車場は以前、三郎ヶ岳（879m）と高城山を歩いた時に車を置いた場所である。その時進んだ右手の石割峠への道は室生寺の東門長楽寺に通じる。この日は室生寺へ行くため左手に進み、スギの原木が頭上を占め、原生林の様相をおもわせる道を歩く。

唐戸峠（室生峠）に登り着いて、峠上の台地に鎮座する役行者像と宝暦年銘の石仏に手を合わせる。昔から信



室生古道・室生寺付近図

仰心篤き巡礼者を見守り続けてきた石仏と、そばには小屋があり、唐戸山(846)や高峰山(802)などの山間を越える旅人には難所の峠であった。峠下には建設重機が置かれ、林道工事中で古道の雰囲気は台無しにしている。

弘法大師ゆかりのカトラ池(唐見池)まで下りて来て、やっと古道の風情を取り戻した。物音ひとつ聞こえない静寂の池をあとにカトラ林道をたどる。辨村荷坂への道、竜鎮溪谷への分岐を見送り、天王橋を直進する。川に沿う桜並木の下でハイカー達が一服している。

腰折れ地蔵をまつる辻堂に来て新道が左にのびるが、古道は腰折れ地蔵の背中を見て右に折れ曲がる。摺鉢の底状に桜桃が咲き匂う室生の里を望み、谷間の向こうに緑の衣装をまとう室生山(621)が浮かぶ。弘法大師が里を眺めて唐の都の竹まいに似ていると感じたので、唐見ヶ辻という名で呼ばれた所である。

段々畑を縫う細い坂道をくだり、城之山桜と呼ぶ樹齢三百年の枝垂れ桜が咲く入母屋造茅葺屋根の西光寺を通る。緑色の絨毯を敷きつめた段丘の一面に花盛りの桃畑が見え、古歌に詠まれた大和ならではの絵画的田園風景が懐旧の情をゆすぶる。

大和の室生の毛桃本繁く  
言ひてしものを成らずは止まじ  
(巻第十一 283)

「大和室生の毛桃の木が根本で繁っているように、数重くあなたと誓いの言葉を書いたのだから、結ばれないはずはないわ」と、実を結ぶ桃の木に寄せて恋歌が詠まれている。

「和漢三才図会」に「五行の精、仙木なり」と言及があり、桃の花は桜よりも花の寿命が長く、永遠の愛を信じ合いたい恋人たちの心の象徴として詩歌の素材にされてきた。宝塚歌劇「花のオランダ坂」で、菊田一夫作詞の「私は桃の花が好き、いつまでもいつまでも愛の花が咲くから」と、恋人を想い歌わせた主題歌などが例になるだろう。

室生公園の脇を通り、庄屋川にあさぎり橋が架かる東海自然歩道との交点に出る。橋を越えれば室生口大野への道だが、橋を渡らずに室生寺へ歩く。門前の旅館街を抜けて朱塗りの太鼓橋を渡れば、表門に「女人高野山室生寺」の石柱が立つ。その先は現世浄土のとき花園を求めて、多くの巡礼者が足繁く訪ねた御仏の聖地である。

自然で不揃いの石段を登って行けば、素木の弥勒堂、懸崖造の金堂、本堂の権頂堂などを見る。さらに石段上には、清楚な女人のように小ぶりな五重塔が朱色鮮やかに立つ。どちらかといえば室生寺五重塔には、小さな幸を折る女人を塔下に配置し、シャクナゲのそばで運命に耐え忍ばせる構図が似合うようである。

北泉優子原作「忍ぶ糸」を撮った出目昌伸監督の東宝映画で、粗紐の織り手千賀と雇家の御曹司洋三が、家の反対を押し切ってこの五重塔の下で忍び逢う。ふたりが室生川のほとりへ移り、清流で拾いあげた小石に託して愛を誓

い合う場面は、人生の流れと水に耐える小石に変わらぬ愛を暗示させてくれ、忘れられない。

恋人役は栗原小巻と加藤剛が演じていたが、戦争に引き裂かれて結ばれない恋で終わる。結局ふたりは一緒に成れないが、室生寺で誓い合った愛情は消えない。恋人たちの心の中に幸福の



室生寺境内

五重塔は永遠に立っていたのだ。

石仏や石塔が散在する山中をたどり、三百余段の石段を踏みしめて奥ノ院に登る。室生山の山嶺は東峰の焼山と西峰如意輪山があるというが、山嶺の肩というべき奥ノ院の狭い台地に御影堂を中にして金剛殿や納経所が並ぶ。山頂には立ち入れないので、金剛殿の回廊に立ち、村里の段丘の畑を見下ろし、幾歳月変わらぬ人々の営みに思いを巡らせる。

室生寺の寺伝に天武天皇の勅願により役行者が創建、のちに弘法大師が真言道場を開いたとあるが、江戸時代に寺社奉行の裁きで真言密教派は敗訴している。興福寺大僧都の賢環が室生の竜穴で山部王の病氣平癒を祈願したのが寺の発端であり、山部王が桓武天皇に即位して室生に寺院を興せと詔を發し、賢環が創建したのが真相という。

山門前を流れる室生川東寄りの山峡に式内社室生竜穴神社があり、その山峡奥に伝説の竜穴が今も存在している。きようは室生寺西門の大野寺の枝垂れ

桜を見るため、竜穴神社へは足をのばさずに、先ほどのあさぎり橋に戻って東海自然歩道を大野寺へ歩くことにした。

室生の里花の園という小さな植物園を横に見て、村里の段丘を登って行くと開けた広場に出合う。「室生山上公園芸術の森」という野外アートの展示された森で、一番は桜が花盛りである。森を抜ければ石畳を敷く樹林の山道になり、門森峠に着くと室生寺と大野寺を結ぶ道標が立ててある。

時からは谷川の瀬音を聞きながら、展望の無い下り一辺倒になる。室生火山群に属するため、石畳道には時々火山岩が砕けた石コロ道も出てくる。傾斜がゆるくなって林道に出合い、室生川へ長谷川が注ぐ。乃渡橋から車道歩きになる。

室生川に出で左手にのびる東海自然歩道を見送る。自然歩道は室生村の成場山、都祁村の額井岳へと続いているが、川沿い道を右手に進めば朱塗りの室生路橋が見えてくる。



大野川原

て花見客の列に加わる。評判の白枝垂れ桜と紅枝垂れ桜の競艶に夢心地にさせられる。

大野寺と真向かう宇陀川対岸の柱状節理の岩壁に弥勒菩薩仏が線刻されている川原地に下りる。室生寺北門の常勤寺がある名張へ抜ける伊勢街道が宇陀川沿いに通じ、風光明媚な川原で旅人たちが憩いのときを過ごしたのだろう。この場所は一説に、大野川原として万葉集に詠まれた故地だという。

ま薦刈る大野川原の水随りに  
恋ひ来し妹が紐解く我れは

(巻第十一 2703)

「真鶴を刈りに行く大野川原の水に忍び隠れているように、心の奥底で私はひそかに恋し続けてきたが、その娘の着物の紐を私は解くのだ」と、情熱的な歌が詠まれている。

大野川は各地の河川にその名があり、一概に宇陀川の大野川原の歌とは断定できないが、愛の花の桃が詠まれた室生の里から程近く、室生川と宇陀川が合わさる大野川原なればこそ、男が娘

に寄せる愛情の行為を詠む場所に適していると考えられる。

川原から上がればバス停前の広場に、草餅やみたらし団子の露店が出ている。大野寺の土塀に枝垂れた花が降りだし、間もなく暮色に染まり始めるのだろう。

大伴家持が春苑で「桃の花と娘子」の姿を見たように、私にも花の下に立つ女人の姿がふと浮かんで見えた。それは実像というよりも、春の夕べの人恋しさゆえの幻影だったのかもしれない。  
(平成21年4月12日参)

△コースタイム△

近鉄橋原駅(バス15分)高井バス停(40分)仏隆寺(35分)唐戸峠(15分)カトラ池(40分)腰折れ地藏堂(40分)室生寺表門(15分)五重塔(15分)奥ノ院(20分)表門(45分)門森峠(45分)一乃渡橋(20分)大野寺(10分)近鉄室生口大野駅△地形図V2万5千〇初瀬・大野大野

紀行

JR新正田駅から岩籠山への新ルート

点標追分からインディアン平原へ

若狭

長宗清司

インディアン平原を含む岩籠山は、国道からは見えない。JR新正田駅から西方を見ると、正面に緑の壁のように峠が左から右下がりになり連なっている。この尾根をたどれば平原や山頂への最短コースになると読んだ。しかしその時、まだ登山道は拓かれていなかった。

私が長年温めてきた夢のルートを、地元敦賀山楽会会長の高島伸浩さんを中心に、会員の皆さんが何回も探索され作業していただき、ようやく道が拓かれた。今回、この尾根道を縦走して、点標追分を越え、インディアン平原から奥の岩籠山山頂に登り、南の標高点708mのブナ林を抜けて新設なった駄口コースをくだり、再び新正田駅に戻るブーメラン風に山を巡ることにした。

大岩大権現のご神体の巖石



駅前から国道161号に出て、すぐ右の山手に見える造成地(住宅団地)に三本見えるいちばん高い鉄塔を目指して舗装路を行く。突き当りを右折して左折して山に向かう。やがて左側に水道施設があり、その筋向かいに大岩大権現への参詣道があり、大岩前で休憩する。

この大岩大権現の由来について、境内の看板に説明があった。

「慶応二年（1866）5月15日、正田村付近では夕方から激しい大雨が降り、夜中になっても止むことがありませんでした。翌16日の朝早く、字上が谷の山が鳴り出し、ほどなく土煙をあげて土砂が流れ出すと共に、家々も震動するようになりました。（中略）同日の昼時分になって、ようやく雨が止み晴天になってきたので山に登り様子を見にいったところ、字尾の尻に大岩



が現れ出ていました。そして、この大岩が、村を直撃する大石や大木をせき止めたり、水を左右に分けたりして、村人の命を守ったということが判りました。（中略）

以後、正田村の人々は、この大岩が大権現としてあがめ、毎年旧暦の5月15日参拝をかかさずお祭るところとなりました。」

なるほど、当時の様子がうかがえる霧囲気の漂う境内に、周りを大人7・8人が両手をつなぎあわせても回し切れないほどの大きな巖があり、注連縄が掛けてある。

舗装路が100ほどで終わり、いよいよ山にかかる。踏跡を頼りに、始めは小谷をつめる。すぐに支尾根に取り付く。持ち山の地割を示す石標を追いながら高みへ向かう左側は檜の植林帯で、右は自然林。尾根の流れがよくわかる。

やがて、花崗岩の大岩が点在するやせ尾根に出くわし、岩の脇をすり抜けて高度を上げる。うまい具合に下草が

刈られていて立木のない所は格好の展望台だ。目の前には深坂峠からなだらかな尾根が続く。いちばん高い松ヶ谷山だけがひょこんと頭を出している。その奥には幾重にも山並が連なり、横山岳や金栗岳が望める。あいにくあすから寒波の襲来とかで遠景はかすんでいる。天気が良いれば白山もうかがえるのだが、きょうは見えない。

点標追分までは急登が三回、ツツジ・ツゲ・スキの灌木帯を分け入ったり、高木の下では少し気分を和らげたり交互に場面が変わる。ひたすら高度を上げて変化のある尾根を縫う。途中には、足元が不安定な灌木のなかにけもの道程度の草を分けた踏跡の脇に、リンドウが可憐に咲いていた。窪地に雪解け水が溜まって出来た小池もあり、頭上にはサワフタギの銀青色の実が鈴なりだ。左の斜面には早くもブナが見え始める。次々と舞台が変わって、けっこう飽きない楽しい縦走コースである。

点標追分(△629.5)四等三角点からは四方に視界が開け、振り返ると

敦賀湾を囲むように、西方ヶ岳を中心に敦賀半島の山々がかすんで見えた。

これから通り抜けようとする鞍部の灌木帯が波打って、風に揺れるスキの穂が目を溶びて美しい。行く手にはインディアン平原・岩籠山山頂、そして夕暮山の反射板が肉眼でもはっきり確認できる。これらを目標にさらに胸高の灌木に挑み、身をゆだねる。

インディアン平原は、いろいろな形の巨岩が吹きさらしのササ原のなかに点在し、360度展望がきく。岩籠山山頂へは空身で往復40分もあれば十分。ただし、展望はここと変わりにない。

下山は、すでに拓かれた駄口コースから。灌木帯を急下降した鞍部や次の標高708のピーク付近、これから先の右斜面一帯にはブナ林がある。

地図にも記されている大ガレを左に見て、667の手前の鞍部から主尾根を外れて、左の支尾根をくだる。以前は胸高のササ原が生い茂り視野を妨げていたが、今回はササの上部がシカの食害か、はたまた地球温暖化の影響

か、それとも酸性雨？ですっかり茶色の世界に変わって見通しが良くなっていく。二ヶ所、直角に曲がる地点も山道がくつきりと確認できる。大岩を抱くように脇をすり抜けたり、一ヶ所トラロープに頼る所もあり、急下降の連続だが、歩幅を小さく一歩一歩山の雰囲気を楽しみながらくぐれば危険はない。インディアン平原よりも格は落ちるものの展望のきく場所もあり、最後の景観が楽しめる。

杉の植林で囲まれた、点標奥野(△361.8)四等三角点を過ぎ、やがて30平方ほどの空地に出る。昔の関電の鉄塔跡である。道は右にくだつて国道沿いにある「ドライブインしのはら前」に出るが、今回は駅への近道として右下へ昔の巡視路を利用する。

くだり切った所は、水分をたっぶり含んだ野球のグラウンドほどの広場。長年放置されて一面スキの原っぱである。小道はないが山際の水路沿いに国道に向かってくだり、三笠電機の南側に出る。

国道を300で敦賀寄りに歩いて渡り、右に流れる谷川沿いの道を深坂集落に向かう。この道は、昔山中峠へ向かう名残の道か、やがて深坂古道への交点に出る。あとは、集落を抜けていったん国道に出ると、すぐ左手にログハウス調の新正田の駅舎が目に入る。

※駄口コースは、以前本誌87号(68ページ)特選コースガイド①前半部分で、逆方向から登った様子を紹介している。(平成21年10月31日歩く)

#### △コースタイム▽

JR新正田駅(10分)大岩大権現(10分)支尾根(20分)見晴台(20分)岩の点在地(5分)涼風の尾根(35分)展望台(5分)点標追分(1時間15分)インディアン平原(往復40分)岩籠山(10分)鞍部のブナ林(25分)667の手前の鞍部分岐点(20分)二枚大岩(10分)点標奥野(15分)鉄塔跡(15分)三笠電機前(20分)新正田駅

△地形図▽  
2万5千・敦賀・駄口

濃尾平野の展望台

# つがお 継鹿尾山と犬山城 いぬやま

尾張

藪木伸人

連れ合いが、犬山城に行こうと言うので、近くで登れそうな山を探してみた。すると、東海自然歩道が通っていて、山頂からの展望も良さそうな継鹿尾山が見つかったので、この二ヶ所を訪ねることにした。

10月10日、天気は良好。7時30分松阪駅発の名古屋行き近鉄特急に乗車。8時52分、名鉄の快速特急新瀬沼行きに乗り換え、9時24分、犬山遊園駅に着いた。

駅東で自然歩道の案内板を見たが、そちらには行かず、事前に最短コース

と考えていた、ツインブリッジ（犬山城）のたもとから木曾川左岸の車道をたどる。

日本ラインと呼ばれる流れに沿って急崖が続き、岸辺には、チャートの奇岩やポットホール（窟穴）が見られる。尾張パークウェイへの分岐、氷室のT

動願で、654（白雉五）年、南都元興寺道昭和尚により創建。本尊千手観音は、日本武尊の御神魂作とされ、県下最古の霊刹」という。

古刹の中にあつて新しい石段には、七福神の名が付けられている。斜面のそここちに、二体並んだ石仏が安置されている。三百段を登り、10時10分、本堂裏手に到着（駅から約40分）。本堂は大修理の最中だった。

自然歩道の道標に「三角点まで30分」とあるのを見て、明瞭な山道を進む。

後方からモンキーパークの猿たちの声が響いてくる。足元の露岩は層状に割れていて、おもしろい模様を描いている。

ネジキ・アクシバ・ドウダンツツジ、ナツハゼ・ミツバツツジ等、ツツジ科の木が多い。ネズミサシは、しかもつ面のように見える小さな実をたくさん付け、ママコナがいたる所で咲いている。山頂の東屋が望める平坦部では、ナンキンナナカマドの赤い実も揺れていた。

類繁に足を止める私達は、例によつて標準コースタイムよりも時間がかかり、10時47分継鹿尾山山頂に着いた。三つの保護石に囲まれた二等三角点（点名、栗橋村）に触れる。

山頂展望台からの眺めの良さは、想像以上だった。蛇行する木曾川の左右に広がる街並。犬山城たもとの城山。モンキーパークの白い観覧車越しに犬山城。夕暮れ富士の名でも知られる伊木山。遠くには、岐阜金華山、伊吹山、養老・鈴鹿の山々。目を凝らすと、二



継鹿尾山から名駅方向を望む



犬山城から継鹿尾山を望む



字路を過ぎると、寂光院への登り口が見えてきた。「もみじ寺」とも呼ばれる紅葉の名所らしい。

すぐに自然歩道と合流し、幅広い階段道を登る。なるほど、カエデの木が多い。千体観音堂前で説明板を読む。要約すると、「寺号は継鹿尾山八葉蓮台寺寂光院。通称継鹿尾観音。真言宗智山派（総本山 智積院）。孝徳天皇の

宮市のツインアーチ138も見え、JRセントラル・タワーズの姿から、名古屋市中心部の方向もわかった。

三角点から自然歩道を東方にくぐると、大洞池畔に至り、善師野駅から名鉄広見線を使えば犬山に戻ることが出来る。展望を満喫し、11時10分に下山開始。往路を戻ること25分で再び寂光院に到る。

本堂の正面に廻って見たが、工事用フエンスが張り巡らされていた。樹齢四百年といわれるラカンマキ(樹高18m)を見上げる。弘法大師像が立つ展望台で景色をうかがうと、犬山城が何とか見えていた。振り返ると、山頂の東屋が確認できる。急崖に立つ桜が返り咲きの花を見せていた。

木曾川沿いの車道を戻る途中で「犬掃り」と記された標識を読む。「その昔、道のなやー頃、犬も引き返さずぐりやー、険しい崖でした。犬は帰って人も人は引き返さないでねー」と、ユーモラスに紹介してある。

ライン下りの船が、さかんに行き来している。行きは景色ばかり見えていて気づかなかつたが、川沿いにオニグルミの木がたくさんあり、枝々に実をおら下げていた。ツルウメモドキの実やキハギの花も、久しぶりに見ることができた。

お昼過ぎに犬山橋のたもとまで戻ると、ライン下りの乗船場が賑わっていた。橋の下を通過して犬山城に向かう。川辺

に船も停まっている。川から見上げる天守閣は高い。

登城口に至る公園坂を上りかけた所で、「ひつまぶし(徒歩3分)」の看板を認め、城を訪ねる前に腹ごしらえすることにした。先の台風で痛んだ様子のエドヒガン並木を見ながら郷土川沿いに歩き、目当ての店に着く。

ひつまぶしに満足し、13時15分、再び城への道(城見歩道)をたどった。登城口で500円×2人分を払い、天守閣へ。木曾川左岸の断崖上に白亜の天守が建つ犬山城は、亀甲城・白帝城とも呼ばれている。天守下層、一・二階は、1537年頃、織田信康が木ノ下城を移築したもので、上層、三・四階は、1620年に、尾張徳川家の付家老、成瀬正成が増築したものという。国宝の四城(犬山城・彦根城・姫路城・松本城)中最古のものであり、その主要部分は、現存する全ての城の中でも最古のものであろう。1871年の廃藩置県による廢城の危機や、1891年の濃尾地震による被害、その後の伊

勢湾台風罹災、解体修理を経て今に至っている。唯一の個人所有の城として有名だったが、2004年、財団法人犬山城白帝文庫の所有となった。

天守閣前に、犬山出身で芭蕉の弟子だった内藤丈草の句碑がある。

「涼しさを見せてやうく城の松」  
登山靴を脱いで天守閣の急階段を上がると、野面積みの石垣や太い梁が目をはびく。頭を打たないよう注意して、まずは最上階へ。

望楼からの眺めは、360度ささぎるものなくすばりしかった。南を望むと、正面に尾張三山(尾張富士・本宮山・白山)があり、少し右に小牧山や名駅ビルが見える。東へ廻ると、氷室山と白山平の間、観覧車の先に、継鹿尾山の展望台が見え、午前中にちょうど反対側から城を眺めていたことを思う。成田山名古屋別院の威容も目をひいた。

犬山橋のはるか北方には、木曾川源流の山並の先に、信仰の山、御嶽山が眼く。滔々と流れる木曾川の対岸は各

務原市街。後日、中学の同窓生が、春の犬山城から桜の花びらに覆われた川面を見るのが好きだったとのメールをくれた。市街地背後の山稜、八木山、愛宕山も、いつか歩いてみたい所だ。西には、ライン大橋と伊木山、遠くに花の名山伊吹山。

展望を楽しんだ後は、天守閣内を見学した。歴代城主の肖像画、武具、古



犬山城から尾張三山を望む

文書、幕末の犬山藩校敬道館の教授だった儒学者村瀬太乙の所持品、城の構造模型など、展示は多彩だ。板の間に寝そべり、連子窓から外を眺める。一階納戸の間は龍城時の城主の居間で、武者隠や猿頬天井(天井板を細長い椽で支えた板張天井で、椽縁に大きな面取りを施したもの)が特色となっている。周りの武者走り、付櫓、石落としの間といった構造も興味深かった。城を辞して犬山駅まで歩く。総歩行距離は約11km。15時24分発の内海行き急行に乗り、15時56分に名古屋着。16時10分発賢島行き特急に乗り継ぎ、名古屋着は17時16分だった。

犬山観光は、桜の頃がよいという。4月初旬の土日には、高さ8mの山車が揃い見事な人形からくりを奉納する犬山祭が行われる。これは犬山城に隣接する針綱神社の祭礼である。

犬山駅から名鉄広見線に乗って可児方面へ向かえば、カタクリ群生地や有名な鳩吹山がある。花の頃にぜひ行っ

てみたいと思っている。鳩吹山、継鹿尾山間は縦走も可能だが、2時間半程かかるようだ。

(平成21年(犬山市のマスケットキャラクター、犬山丸の誕生日)10月10日歩く)

《コースタイム》

名鉄犬山遊園駅(40分)寂光院(35分)  
継鹿尾山三角点(1時間)犬山橋(25分)  
犬山城(20分)名鉄犬山駅  
△地形図・地図▽  
2万5千:犬山  
△費用▽

名鉄名古屋駅→犬山遊園駅 590円  
名鉄名古屋駅→犬山駅 540円

(問い合わせ先)

犬山市観光交流課  
☎0568 (61)1800  
犬山観光案内所  
☎0568 (61)6000  
犬山城管理事務所  
☎0568 (61)1711



新ハイ関西 111号	
標高△△ 11mの山	
雲取山 (911m)	京都北山)
日計山 (411m)	湖北)
奥大日岳 (2611m)	北アルプス)

雲取山

一般的には近郊の山に登ってから徐々にステップアップして3000m峰へと足を踏み入れる順序かと思われるが、私の場合、小さい頃家族に連れられて山に登ったという素地はあるものの、大学生から社会人への10年間で、南アルプスの高峰と北アルプスの一部の山への夏山登山以外は、ほとんど山へ行くことはなかった。

はまっていた次第である。雲取山は最初に登った北山だ。北岳や赤石岳、鯉岳や水晶岳などに登った後で、こんな美しい感動の瞬間が身近にもあるのかと思ったことを鮮明に覚えていいる。それは早春の光に輝く一ノ谷のキラキラした流れであり、斑に残る雪の優しいあたたかな表情であり、その間から芽はえるフキノトウのあとけない姿だった。その後、皆子山、天ヶ森、峰床山へたて続けに登り、春の北山の美しさを堪能した。花背別所町から寺山峠を越えて一ノ

日計山

天気もあまり良くない厳冬期に、山の近くまで車を入れて、雪山の楽しさを手軽に楽しめる、そんな山が日計山だった。山門集落から北へ1.5kmあまり進んだ東へ林道が分岐している地点で下車し

た。スパッツを着け、日計山の三角点峰の少し南の標高400m峰から南西にのびる尾根を登る。地形図で予想した通り、広葉樹の多い明るい尾根だ。歩き始めはラッセルというほどの積雪ではなかったが、たった200mの高度差ながら山頂近くはラッセルも楽しめたし、山頂では青空が広がったかと思えば急に雪が降り出してツェルトをかぶったりと、冬山らしき雰囲気も味わえた。



登りに越えたピークまで戻って南東の尾根をくだる。三角点に登り返す手

前（昭和56年7月25日）で小さな西への尾根をくだり、雪がいったばい積もった誰も歩いていない田圃に下り立った。最後は田圃の大雪原を歩くロマンチックなエピソードだった。（平成20年2月24日歩く）  
 ▲コースタイム▼  
 山門集落の北林道分岐点（2時間）日計山（2時間）車止  
 ▲地形図▼2万5千1木之本  
 奥大日岳

私が勤めていた高校のワンダーフォーゲル部が団体に出場することになり、その年だけ美術部の顧問と兼任することになったので、夏合宿にも同行した。夜行列車で富山へ行き、バスを乗り継いで称名滝入口から大日平に入ってテント泊した。翌日は大日連峰を越えて観沢の予定だったが、夜行列車内で制してはしゃぐ部員がいて、案の定大日平への登りで熱を出してしまっ

霧の大日連峰を歩いたのだが、彼の容態が悪化して急きよ変更して雷鳥平に着いたときには動くことすらままならず、空室から担架を借りて病人を運び、救急車で富山へ下ろすはめとなった。体調管理がいかに大切なことか、また山行グループの統率の仕方難しさを思い知らされた山行だった。  
 その後奥大日岳には行きたいと思いつつも、鯉の姿をぜひ描きたいと思いつつも、大日平にテント場がなくなり、小屋泊まりのみのコースになってしまったから、その思いは遠ざかったままの状態である。  
（昭和56年7月25日）26日歩く  
 ▲コースタイム▼  
 称名滝バス停（3時間30分）大日平（7時間）奥大日を経て雷鳥平  
 ▲地図▼昭文社「『嶺・立山』」

富士見山行

釈迦ヶ岳・竜ヶ岳・パノラマ台・王岳

御坂山塊

田中 明

外輪山から富士山を展望しながらの山旅を続けている私にとって、やはり、北側から見る富士の眺めはすばらしい。

両サイドに山麓を長くのはし、どっしりとした山体の山頂から左下に流れる吉田大沢が目立つ姿がとくにお気に入りだ。

JR中央本線の山々を歩いていると、西南方向に頭を傾げるようにした円錐形の鋭鋒が目につくが、あれが御坂山塊の釈迦ヶ岳だと知ってから、脳裏から離れなかった。

竜ヶ岳からの富士



写真家白藤史朗の「甲斐山歌」に次のようなエッセイがある。「御坂山塊中には釈迦ヶ岳が2山ある。ひとつは三方分山から北北西に分岐する山稜の1271mの釈迦ヶ岳と、もうひとつは主峰黒岳を起点に北西から西方にのびる山稜上の釈迦ヶ岳である。こちらの方は1641mとはるかに高い釈迦ヶ岳で本来は嵯峨ヶ岳と呼ぶのが正



しいと言われており、地図の間違ひから発した山名混同がそのままとなっているのである。」  
しかし、嵯峨ヶ岳という名は今では消えてしまったのだろうか？ もちろんはるばる足を運ぶのだから何だか日くありげなこの一塵だけの山旅ではない。  
今回は御坂山塊を総仕上げとしたいので、西端の王岳・パノラマ台、さらには本栖湖畔のお正月のダイヤモンド富士で名を馳せる竜ヶ岳もやっつけよう。

まずは釈迦ヶ岳だが、関西のマッターホルンの高見山に負けないピラミダルな尖りに取り付くにはアクセスが極めて悪い。選んだのは、神戸の新ハイ仲間のMさんから聞いた、JR石和温泉駅から路線バスで上芦川バス停まで1時間弱、これより登りの舗装道路を延々と歩こうというものだ。  
山と高原地帯には登山口まで1時間とある。暑い日となったが、上芦川諏訪神社の目通り樹幹約6mもある大ケヤキ群を見物し、とんどん行くと、35分で釈迦ヶ岳入口の道標がある。  
よし、これなら予定コースと反対の日向坂峠から周回できそうだと単独行のよしみで早速予定を変更し、そのまま舗装道路を歩き続けた。ほどなく「すずらんの森」南入口、やがて北入口の大きな看板を見る。すずらんが大群生する見頃は5月下旬らしい。  
二本目の釈迦ヶ岳への登山口を左に見送り、右にすずらん峠分岐を見送ると、前々から気になっていた日向坂峠に到着した。  
本来なら自然が豊かで静かな峠のはずだが、燕入沢上芦川林道が走っている、がちりと立派なゲートが閉まっております「冬期は閉鎖です」と赤字で書

かれた大きな看板が目障りだ。ここは通称「どんべえ峠」で、私はその名の響きにずっと惚れ込んでいた。木陰を探して昼食をとる。念願の「どんべえ峠」に来て、心なしか嬉しさがこみ上げてくる。

「そうだ、まだ釈迦があるのだ」感傷にひたつていられないとわれに返り、さっさと出発した。

稜線歩きが心地好い。一つ目のピークは府駒山で、目指す釈迦の尖った頭が見下ろしている。木の間越しに小金沢連嶺も覗いている。何度か小ピークを片付けると岩稜からロープが下がる崩れそうな岩の登りとなり、ひと汗かけばばつと明るくなり、小ぶりで可愛らしい夫婦地蔵が並ぶ釈迦ヶ岳到着である。「どんべえ峠」から1時間弱の歩きだった。

ところが、肝心の富士は空振り。「頭を雲の上に出し……」でなく、すっかり隠して白い裾野が見えるだけである。それに北東の大菩薩嶺から流子山までの小金沢連嶺から南大菩薩はきつちり

見えるものの、西の南アルプス、北西の八ヶ岳、北の金峰山は霞んでいてやや苦しい。露岩の目立つ頂だが、多くの登山者が来るらしく岩は相当汚れている。それでも1時間あまり富士を待っていたが思わしくない。

やむなく腰を上げ、切れ落ちる西側の屏風岩方向の岩稜をくだってバス便の早い槍峰神社への北側の下り道を選ぶこととした。参道沿いにわずかにキブシやアブラチャンの花を見るくらいで神社からの参道歩きは長く、つまらないコースをとってしまった。

観光客で賑わう石和温泉駅からいつもの定宿、初狩駅前の旅館へは予定より早く着いた。夕食を待つ間にゆつくり長風呂に浸かりながら、鋭鋒釈迦からの富士は駄目だったが、初夏のすずらん群生地の様子を知り得ただけでもよかったと思っているのであった。

明けてすばらしいお天気。富士急で河口湖駅へ行き、本栖湖入口までバス移動し、キャンプ場内から竜ヶ岳登山

口へ向かった。本栖湖畔からたおやかな竜ヶ岳の頭が見える。移動の途中、富士吉田あたりでは白銀の富士が大きく見え、きょうの富士見山行は保障付きだからとルンルン気分だ。

ゆるやかに登り、第一ベンチ、東屋石仏あたりでも富士を撮り放題で、登山口より1時間20分で、ササ原が10年程前に刈られて整備されたという、竜ヶ岳頂上に到着した。東南東の目の前にてっかい富士が鎮座している。これが富士見山行の醍醐味だと、誰もいない山頂で思わず万歳三喝をしてみた。

南に雨ヶ岳にタカデツキがそばにあるが、奥の天子山塊の雄である毛無山は見えない。西には南アルプスの面々が白々と化粧してずらりと層並ぶ。真北は樹林で展望は苦しいが、その北東には御坂山塊のパノラマ台、三方分山、王岳、鬼ヶ岳、十二ヶ岳と、さらには尼和田山の峰々がしっかりとわかる。頂上で山々を見てすっかり気分がよくなり、「よしパノラマ台よこれから

行ってやるから、それに王岳はあす登ってやるから待ってろよ」と気合を入れてしまう始末である。

山頂はすっかりササが刈り払われてきれいに整備され、お正月の頃に富士山頂上真上から日の出が見られるというダイヤモンド富士で観光地ともなっ

パノラマ台からの富士



ているようだ。アセビ二本が残され、ベンチも三ヶ所設置されていて憩いの広場は居心地満点である。

次の山が待っており、富士との対面はそこそこにして本栖湖へ北側の道をくだる。さすがに北向きのため道はぬかるみ気味だが、ブナ林越しに青々とした本栖湖を眺めながらの登山道は素敵であった。

くだった後は日差しのきつい県道300号を足早に駆け抜け、本栖隧道バス停登山口からまた登りである。次のパノラマ台は13000以上と言いつても標高差わずかに4000ほどと言いつても、これまた誰もいない昼下がりの出発だ。道はよく踏まれ、ほどなく最初の展望台である烏帽子岳ですばらしい富士が待ってくれていた。

「いや、ここではない、次のパノラマ台からの富士がきつとすばらしいに違いない」と思い歩き出すと、やがて広く整備された、これぞ富士の展望台にふさわしいパノラマ台に到着した。

明るい山頂から真正面に富士山を見

て、左下方に精進湖、右下方に本栖湖が青く広がっているのが見えてすばらしい。今は時間的に誰もいないが休日には家族連れで人氣が高いことだろう。写真を存分に撮り終えてくだる。精進峠から三方分山や三ツ沢峠への道を左に分け、石のゴロゴロとした道や立派すぎるほどの橋をくだると、最後の富士展望地となる松の木広場だ。

きょうは最高の富士見日和でこの場所でもまた秀麗な富士を眺めた。その後もなめしのきいた歩きやすいハイキング道をトントンとくだり、精進湖畔のホテルへ到着した。

京都新聞の夕刊で紹介された屋上露天風呂からの富士見の激ビューポイントで、知る人ぞ知るホテルだ。早速下ボンと浸かって富士を見る。極楽だ。

最終日は以前に足和田の三湖台から木曾馬を見ながら西湖越しに眺めた王岳へ、女坂峠から鏡掛峠へと歩こうと準備した。この女坂峠も三方分山に登る時に取り付いていたので安心であり、



王岳山頂

もちろん二等三角点埋まる小広い王岳山頂からの富士もすばらしかった。心に一点の迷いのない山行で、驚愕とも思えるほどの幸運、心は舞い上がってしまった。

最後は西湖いやしの里根場へくだつてゆつくりと茅葺集落のいろいろな館を覗きながら、歴史文化や地元の人達とのふれ合いを楽しんだ。「桑留尾いずみの湯」で山旅の汗を流し、3日間を二勝一敗とした富士見山行の有終の美を飾った。

さあ富士見山行をまだまだ続けよう。次の目標は大菩薩の南の小金沢連嶺だ。(平成21年4月7日〜9日歩く)

《参考タイム》

(7日)JR石和温泉駅8:03(朝食)9:25(バス)上芦川バス停10:18―とんべえ峠11:45(昼食)12:05―府駒山12:45―釈迦ヶ岳12:58―13:52―檜峰神社14:55―15:00―神社前バス停15:53―16:41(バス)石和温泉駅17:20―40(電車)初狩駅18:15(駅前旅館泊)

(8日)旅館8:00(電車)JR大月駅8:35(電車)富士急河口湖駅9:40(バス)本栖湖入口バス停10:15―キャンパス場登山口10:40―東屋11:30―竜ヶ岳12:00―30―本栖湖ゲート13:05―本栖湖登山口13:35―鳥帽子岳14:15―25―パノラマ台14:40―15:05―三ツ沢峠分岐15:12―パノラマ台バス停登山口15:40(ホテル泊)

(9日)ホテル6:50―女坂峠7:36―42―五湖山8:10―王岳9:45―11:05―鍵掛峠11:53―12:00―登山口12:43―根場いやしの里―根場入口バス停13:22(バス)「桑留尾いずみの湯」13:25(入浴)16:00(バス)富士急河口湖駅

△地形図▽

2万5千Ⅱ河口湖西部・市川大門・精進

紀行

きょうも静かな心休まる時であった。五湖山、横沢頭などがやや岩つばいものの、しつかりとした踏跡のある道に迷うことなく、わずかなアップダウンはほどよい歩きだ。さすがに平日とはいえ、最後まで6時間30分、誰ひとりとして出会わないガイドブックと通りの静寂の山城であった。

三舞谷左股北方尾根から

武奈ヶ岳西南稜第二隆起登高

比良

小山 誠 次

前回、本誌110号では平成21年3月21日、三舞谷左股・右股の両股間尾根に取り付き、武奈ヶ岳西南稜第一隆起に登したことを報告した。

その中で、「本日は第一隆起直登だったので、その内に第二隆起直登を計画したい」との思いを書いていたので、本日それを実行に移すことにした。

(写真1) 西南稜上のケルンと左武奈ヶ岳



5月2日、前日の天気予報では、近畿地方全域でおおむね晴れ、また乾燥注意報が発令されていて、降水確率は南部の午後で10%となっている以外は全て0%である。滋賀県北部の最高/最低気温は23/10℃で、花粉の飛散も少ないとのことである。当日朝の降水確率は近畿地方全域で午前・午後共に0%と、絶好の登山日和となった。

本日は連休の初日で混雑が予想されたので少し早い目に出町柳の朽木学校前行きの京都バスのりばへと急いだ。すでに20人程が列をつくっている。筆者の後ろにも続々と並ぶ人が増えた。7時47分、増便を伴っての発車となったが、それでも立ち席の人が多かった。

川端通りからは、高野川の水辺にセイヨウカラシナがまだまだに花期を誇り、歩道には白・ピンク・紅色のヒラドツツジが今まさに満開で、その道端にはボビーの可愛い橙色の小花が、遠慮しながら風に揺れている景色を楽しんだ。

本日は川端通りのバス停からの乗客も多いようで、各駅停車だ。窓から眺める空模様は曇りつつないとは言い難く、全天に薄っすらと巻層雲がかかり、その中で巻雲が彌引いている。風はそこそこあるようだが、気持ちのいい程度だ。

山間に差しかかると、淡い新緑が濃緑色の山のなかで斑模様を織りなすのも今の時期ならではのこと。また、フジの花が満開で、他の木に絡まって咲く紫色の花は風に揺れながら、纏われる立木の大きさに比例して雄大な外観を呈している。

大原では15℃。八重桜もまだまだ見事で、やはりこのあたりまで来ると、都会の中での花期から外れていることがよくわかる。田圃はこれから田植えのようで、一面に水が張ってある状態だ。途中を過ぎて登りにかかると、シヤガの花が目立つようになるのも例年通りである。

坊村に到着すると、増便の乗客がこちらのバスへ乗り移って来たのもいつ

も通りである。なお、出町柳で買った新しい京都バス時刻表では、比良線が出町柳発8時45分坊村行きが5月11日以後廃止になるとのこと、その他に雲ヶ畑線、花背線でも変更がある。8時55分、葛川梅の木に到着した。そのすぐ手前は目下、道路の拡幅工事中である。高度計を2700にセットして、石楠花山荘のトイレを借りる。

大声で御礼を言い、9時4分、普濟禪寺横の三舞谷登山口に到着した。登山準備を整えて、同11分に1ヶ月半振りの三舞谷道を登って行く。

やはり人はあまり入っていないようで、踏跡程度であるが、その時と比べても、新たに枯木や倒木が散乱しているようだ。幸いなことに、まだヤマビルの森く姿を見ることがない。改めて「ちょっとわかりにくいジグザグもあるなあ」と思いながら、予定通りの標高5200地点に着いた。前回よりも1分早く着いたことになる。

ここで、前回と同じくザックを下ろして飲水休憩とするが、これから先の

ことが大いに気になる。予定としては三舞谷左股・右股の合流地点で渡渉し、左股尾根を指すのであるが、谷からの直接登高なので、崖の傾斜がどの程度なのか問題であり、登高地点は現場を見てからでないとい決められないからである。

三舞谷本流左岸の道をたどり、左下方に左股・右股の合流地点を確認して、川辺まで下りて行き、先ず合流部の写真を撮る。そこで、右岸の崖の様子を観察し、あれこれと登高ルートを想定するが、結局はほかを探してみようと判断した。先のユリ道に戻り、本来の三舞谷ルートの通り、とりあえず右股を渡り、改めて左股右岸の様子を窺うこととした。

前回はここからあの急斜面を登ったのだなあと、東の方を眺めながら、左股に沿って対岸の様子を探る。すると、それほど離れていない標高5500地点で、先程の合流部と比べてだいぶゆるい斜面を見つけたので、ここならば取り付けそうだと考え、左股を渡るこ



武奈ヶ岳付近図

レ場の平行移動では靴の側面のエッジを効かせ、また足場を何回か踏み固めて確実を期し、場所によってはほとんど斜面を這うように移動しながら、安定した場所で休憩とした。ここで標高5900である。下方を見下ろしながら、下山はいつそう困難だなあと感じた。ここさえクリアできれば、後は問題ないはずである。

さて、出発するが、いまからは比較的たどりやすそうな斜面だ。すると、しばらくしてから、何となく古道が風化したような跡と共に、昔の炭焼き窯跡を見た(写真2)。ここは単に浅い陥凹地というだけでなく、石垣が残っているのですぐわかった。なるほど、それで先ほどの青

(写真2) 旧炭焼き窯跡



いテープも、恐らく昔の古道跡を示すものであろうと判断した。ならば、筆者がたどったルートよりもっと容易にたどりうるルートがあるはずだが、今回は全く独自のルートとなった。

このあたりからは普通に注意を払いながら、目の前の高みを目指した。10時43分、ついに左股北方尾根に到達した。標高6900である。きょうの



(写真4) 旧ロープウェイの出発地点

りとカップブラーメンを食べ、食後のコーヒーを楽しんだ。食事をしながら、前回の記録を読み返すと、三舞谷右股を渡る地点から第一陸起まで3時間11分を要しているが、本日は第二陸起まで2時間5分である。やはり前回は足が鈍っていたのであろう。

さて、昼食後は北方に足を向ける。たいていの人は武奈ヶ岳から南方ルートをとるので、少し振りに北方ル

トで下山してみようと思った。13時28分、北稜へと出発する。下りが連続するなか、周囲の木々はようやく冬枯れの枝に新芽が萌えてたばかりである。同45分に細川越に着き、右にルートをとり、間もなくスゲ原の湿原を歩くが、今の時期はだいぶ水が少ないようだ。何回か溪流を渡り、広谷小屋の横を通過して広谷に到着し、飲水休憩をとる。「比良山系のなかを歩いているのだなあ」との思いにかられながら、八雲ヶ原に向けて出発する。もう何回ともなく通っているはずだが、改めて新鮮な気分させてくれる雰囲気がある。

八雲ヒュッテ跡の石製テーブルと椅子はそのまま残っている。腰を掛けてひとときの飲水休憩後、目の前の比良スキー場跡をたどり、ほぼ登り切った所で武奈ヶ岳と八雲ヶ原を望む写真を撮る。それから比良ロジック路を横目に見て何も無くなった北比良峠に到着し、旧ロープウェイの出発地点から進行方向を望む写真を撮っておく(写真

にとるようにはわかるし、桑谷山の送電線鉄塔も確認できる。また、皆子山の起伏のない山並も同定できた。

さあ、あと少しだが、第一陸起登高の際は頂上直下の低木のやぶに散々悩まされたので、やぶへの突入を覚悟して進んだが、第一陸起直下と異なって単に草地が続くのみである。しかも、先ほどのマーキング通り、ここに至ってようやく草地のなかに踏跡が明瞭となった。

そして、12時13分に西南稜着、目の前にはケルンが立っていて(写真1)、1分後に第二陸起に到着した。第二陸起から今の登路を望む写真も撮った(写真3)が、実際に登るまでは気づかない尾根で、やはり西南稜の派生尾根の一つである。3分間休憩した後、12時28分、武奈ヶ岳に到着した。きょうもやはり人が多い。

たつぷり1時間の昼食休憩時、筆者はいつも湖面を眺める位置に坐ることにしている。本日も鳥影が少しぼんやりとしている風景を眺めながら、お堀

4.) 北比良峠ではちょっと調査しておきたいことがあった。実は以前に確認したことがあるのだが、北比良峠から角倉太郎著「比良連嶺」(昭和16年再版)にいう「水汲道」をたどり、湧水の量をチェックするためである。現在濡れてはいないが、水量は明らかに減少している。時期的なものであってほしいが……。

後はダケ道をくだるだけである。15時6分に出発したが、途中でシヤクナゲ・イワカガミ・ショウジョウバカマの花を眺めながらの下山である。シヤクナゲはまだ蕾のもの、満開に近いものまで、今が一年間で最も目立つ時であるが、筆者にとつてやぶ漕ぎをするときには避けた木のひとつである。

50分後に大山口に到着した。金翼峠からの下山者と合流した後、16時10分にイン谷口を経て、そのまま比良川に沿うルートをさらにくだり、樹下神社のそばを通過してJR比良駅に16時40分到着した。同53分発の京都市行き普通電



(写真3) 第二陸起から登路を見下ろす

山行のうち半分以上は達成した思いで風に吹かれながら、ここまでのルート写真を写真に撮ったり尾根の下方を眺めたりした。しかし、風が少々強い。今は気持ちいいが、だんだんと寒くなりそうなので、早い目に出発した。いまからはもう迷うことはないはずだ。

ひたすらに高みを目指す尾根歩きの中で、藍紫色の紐が地面に落ちている

のを二回見かけた。特に尾根芯は踏跡のような形跡もなく、疎林帯のなかに芽吹いたばかりのクロモジの黄色の花を目にするだけで、11時10分、標高840mで休憩とした。すると、たまたま木々の隙間から一軒の家の屋根だけを見ることができた。

11時17分に出発したが、まだ周囲はあまり見渡せないなあと思いつながら歩いていると、同40分、標高1010mで、前回登高した第一陸起が低木の上に顔を覗かせている。後方を振り返ると、鎌倉山もよくわかるようになってきた。ここで何と、先ほどの藍紫色の紐が木に巻いてあるではないか。これでやっとマーキングだったことがわかった。といつても何の形跡もなかったのになあと思いついた。

8分後に出発したが、11時56分、がぜん眺望が良くなり、周囲は南方から北西方向まで思いのままに望めるようになった。標高1060mである。第一陸起に向けて西南稜を歩いている人もわかるし、白倉岳峰も全景が手

にとるようにはわかるし、桑谷山の送電線鉄塔も確認できる。また、皆子山の起伏のない山並も同定できた。

さあ、あと少しだが、第一陸起登高の際は頂上直下の低木のやぶに散々悩まされたので、やぶへの突入を覚悟して進んだが、第一陸起直下と異なって単に草地が続くのみである。しかも、先ほどのマーキング通り、ここに至ってようやく草地のなかに踏跡が明瞭となった。

そして、12時13分に西南稜着、目の前にはケルンが立っていて(写真1)、1分後に第二陸起に到着した。第二陸起から今の登路を望む写真も撮った(写真3)が、実際に登るまでは気づかない尾根で、やはり西南稜の派生尾根の一つである。3分間休憩した後、12時28分、武奈ヶ岳に到着した。きょうもやはり人が多い。

たつぷり1時間の昼食休憩時、筆者はいつも湖面を眺める位置に坐ることにしている。本日も鳥影が少しぼんやりとしている風景を眺めながら、お堀

# 極上の山歩き

〜関西からの山12ヶ月〜

【新刊】  
草川啓三・文・写真 A5判 二四〇頁 一五七五円  
春夏秋冬ひとの心をとらえる珠玉の山の  
中から、達人が薦めるランキング上位の  
30山を新スタイルでガイドする。

# ◎喜寿になっても山のぼり！ 春夏秋冬山のぼり

【新刊】  
増永迪男 著 A5判 二四〇頁 一五七五円  
福井の山の最近の紀行26編と、六十余年  
にわたる山行をふり返り、山と人との関  
わりや山のぼりの恵みを綴る。

表示の価格は5%税込です  
ナカニシヤ出版  
http://www.nakanishiya.co.jp/  
京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
tel 075-723-0111 〒606-8161

車に乗って帰宅したが、本日は登山開始からずっと半袖だったので、帰宅後よく見れば、右腕のほうに左腕よりも日焼けしていた。

本日のチャレンジ・ルートは、三舞谷左股を渡る地点から尾根芯に達するまで（標高550m→690m）がメインであった。後は順調な登路をたどることができたが、第二隆起直前の踏跡にはいささか驚いた。

最後に、本日の山行詩情を七言絶句に託す。葛川梅の木までの風景がよく印象に残っていた。揺蕩は風に揺れること、天籟は風の音で、颯颯は涼しい風がさつと吹く様をいう。

【意】  
新緑が濃緑色の山にあつては斑模様  
の色彩のようだ。紫色の花が風に揺れ  
ているのは、古木となった藤が他の高  
木に纏っているからだ。さて、谷から  
のルートは壁に取り付くようで攀じ登  
り難いが、途中で人達を発見したのは  
存外だ。涼しい風が音を立ててさつと  
吹くので心地好く、湖の鳥影も煙って  
いる有様だ。（平成21年3月21日歩く）

【意】  
新緑が濃緑色の山にあつては斑模様  
の色彩のようだ。紫色の花が風に揺れ  
ているのは、古木となった藤が他の高  
木に纏っているからだ。さて、谷から  
のルートは壁に取り付くようで攀じ登  
り難いが、途中で人達を発見したのは  
存外だ。涼しい風が音を立ててさつと  
吹くので心地好く、湖の鳥影も煙って  
いる有様だ。（平成21年3月21日歩く）

△コースタイム▽  
葛川梅の木バス停（4分）三舞谷道登  
山口（27分）標高520m地点（7分）  
三舞谷左股・右股合流部（12分）三舞谷  
左股渡溪（15分）標高590m地点（16  
分）左股北方尾根芯（22分）標高840  
m地点（23分）標高1010m地点（8  
分）標高1060m地点（11分）西南稜  
（1分）第二隆起（11分）武奈ヶ岳（17  
分）細川越（23分）広谷（17分）八雲ヶ原  
（17分）北比良峠（50分）大山口（14分）  
イン谷口（30分）JR比良駅  
△地形図・地図▽  
2万5千：比良山・北小松  
昭文社「比良山系」（1989年版）

## 研究

### 旗振り通信の新研究⑫

# 連 載 伊賀市で新発見の旗振り山Ⅱ

柴田 昭彦

【地名研究会によるケント山の調査】  
さて、平成17年11月に「忍者熱中人」として出演している池田裕さんの紹介で、平成21年4月には、NHKのBS2とハイビジョンで放映されている「熱中時間」「忙中・趣味・あり」へ、筆者は「旗振り山熱中人」として出演することが決まり、担当ディレクターも山田郁夫さん（NHKエンタープライズ）に決まった（放映は7月）。

4月27日、滋賀県の旗振り山（岩戸山）で、山田さんと打合せを行い、5月17日のイベントにおけるケント山登りは、リハールと位置付け、屋外口は6月中旬に二回行い、6月28日に東京のスタジオ録音を行うことに決定した。二回のケント山登りには、先祖が旗振りをしていた坂本仁文さん（才子さんの息子）に同行してもらおう運びになった。

ケント山（下阿波）山頂（標高500m地点）



筆者は、初踏査の感動を5月17日にリアルに伝えたいと考え、下阿波ケント山の現地調査は事前に行わない方針でいたところ、伊賀の國地名研究会（倉元正一会長）では、新聞社や地元のケーブルテレビへ盛んに広報活動を行うこととなり、5月2日には、会長、運営委員の米澤範彦さん、会員の中平勝さん（名張市）ら計4人によって、現地踏査が行われた（池田さんには不参加）。山頂と推定した地点（標高500m）では見晴らしがないため、中平さんが樹上から苦心して上阿波ケントヤマ方

面の山並みを撮影している。5月3日の打合せで池田さんに紹介されて会った倉元会長の話では、山頂には火焚きの痕跡や土塁があったという。会長は、山頂まで50分かかると、午前中に二ヶ所を巡る時間的余裕があるのかどうかを心配されていた。その時点で登っていないので答えようがなく、準備の1時間が設けてあることを伝えて、日程プランを納得してもらった。

5月10日には米澤さんからメールがあり、中平さんの写真にケントヤマの場所を示した解説が添えられ、翌朝、地元の新報社に記者会見して、この写真を示して、大山田地区で新たに発掘された旗振り山二ヶ所をアピールし、17日の登山への参加を呼びかけ、筆者による旗振り山についての講演も紹介したいとのことであった。

米澤さんのHP「巫氏春秋」に写真やデータが掲載され、その記者会見の記事は、平成21年5月12日付、産経新聞、読売新聞、伊勢新聞の伊賀版の紙面に掲載された。その中で、下阿波ヶ

頂に登り、途中の展望所で津方面を眺望して、見学の行程を無事終えた。帰りに林道を車で移動する時に小雨が降り始め、ラッキーなタイミングであった。

「ケント山のフィールドワークと講演」  
5月17日午前、伊賀の國地名研究会と伊賀暮らしの文化探検隊の共催による「旗振り山」を調査するフィールドワークが実施された。坂本仁文さんが、母の才子さんと一緒に5月1日に整備しておいた山道を先導して登り、総勢25人が参加して、盛況であった。心配していた雨も午前中は降らず、予定通り実施できた。仁文さんが案内してくれたケント山の一角は、最初の急な尾根筋を北へ登り切って、左手に少し上がった地点で、東側に少し山並みが見える地点であった。所要時間はゆっくりペースで40分であった。ここが、才子さんが父からケント山と聞いていた辺りであるという。ただし、こ

子孫に伝えていきたいと考えたからだという。  
会長からは、今回、野外で到達した地点が旗振り地点であるのかどうかについての疑問点が出された。

私自身が今回初めて現地踏査に臨んだこと、今回は坂本さんに案内してもらうことを頼んでおり、坂本家での情報をもとにした場所を訪れることが目的であったことを伝えた。さらに、実際の旗振り地点はもつと上にあると思われるので、後日、改めて現地調査することを約束した。

フィールドワークを終えて、午後は、伊賀市ゆめが丘のゆめほりすセンターで、「伊賀の旗振り山」と題して、講演を行った。内容は、筆者のHPからまとめなおした旗振り通信の概要の説明と、ケント山、ケントヤマ、長田の見遠山、横平山の発見の経緯を述べた。また、中友生の旗ヶ峯は旗振りと無関係な小字で、燧ヶ峰の意味の可能性が高いことなどを資料をもとに説明したりした。

「ケントの歌の発見」  
5月18日付の産経新聞、読売新聞の伊賀版には「旗振り山調査」の記事が掲載された。  
5月24日、坂本才子さんに電話したところ、ケント山の新聞記事を読ん

これは西側が連なっていて、高旗山との中継は難しそうである。

仁文さんの「ここから上には持ち山で見晴らしのよい場所ももうありません」というコメントもあり、参加人数が多く、スローペースであること、参加している新聞社やケーブルテレビの取材の人の様子や後のプラン（上阿波ケントヤマに向かう）を考慮し、この地点で、前日に急遽思い立って筆者が作った手縫いの赤旗（長さ2m、幅1.1m）を、仁文さんが鎌で削ってくれた竹竿に通して掲げ、米相場の旗振りの説明を行った。

急坂のくだりは滑りやすく、尻餅をつく子どもがいたのも可愛く、楽しく、無事に麓の寺坂橋バス停に降りることができた（実際には、グニの被害に遭った人が何人もいて、筆者もその一人であった）。

その後、車で移動して、トチノキ峠の茶屋跡を歩き、鉱物などに詳しいという中平さんが採集した陶器片などを確かめた後、上阿波のケントヤマの山

だとのことで、富水に住む知人である奥求さん（大正13年生まれ、85歳）から連絡があったという。同日夜、求さんに電話で聞くことのような話であった。坂本宅のすぐ近くの神領寺に、狸がたくさん、腹鼓を打って出てきて、「ケントのトチノキはこゝわいの、曾い私のフークもこゝわいの」と歌っていたと

### 伊賀の「旗振り山」で野外調査



## 「元祖」通信拠点に感動

伊賀の旗振り山で野外調査を行った。旗振り山の発見の経緯を述べた。また、中友生の旗ヶ峯は旗振りと無関係な小字で、燧ヶ峰の意味の可能性が高いことなどを資料をもとに説明したりした。



いう話が伝えられているという。坂本家にいたボスの存在の旗振りのトクさん(本名不明)が、ケント山に鹿の皮で作ったモンペみたいな下衣と、鹿の皮で作ったわらじのような履き物で登って、旗振りをしていたという。これらの話は、姉の旦那さん、川口定吉(故人)という人から聞いていた話だといふ。

また、求さんの父親は堂島の相場師で、自分が小学校の頃まで、家に米相場の暗号電報(ウナ電、至急電報)の残骸が20センチの高さぐらい残されていたという。父親は、相場師仲間三人の一人で、大儲けした時には大阪の歓楽街の新地で豪遊していたが、昭和初頃、米相場で損をってしまったという。そのため、求さんは、母親から、株をしたらあかんと言われていたといふ。

曾我のフクさん(本名不明)というのは、坂本宅の川向こうの名門の家で、旗振りとは関係ないが、名高い二人を並べて歌い込んだらしいという。今の川向こうの家は曾我隆清さん宅である。

てみた。その結果、5月17日のイベントで到達した地点が、標高420〜430メートル地点であることを携帯電話の地図表示(GPS利用)で確認した。尾根をたどって行くと、見晴らしのない500メートル地点に到着した。ここには多数の踏み跡が見られ、地名研究会の倉元会長らが5月2日に調査した地点と思われた。さらに、北へ向かい、鞍部からは北西へ登り返して、510メートル地点まで到達したところ、北西方向は伐採によって開けていて、高旗山の山並みもよく見えていた。

煽りには、くだり道で迷ったが、何とか日没までに下山でき、ほっとした次第であった。この時点でも、展望の開けた510メートルピークがケント山の有力な候補地であった。

6月7日、前日用意できた赤風船とヘリウムガスボンベを車に積んで、上阿波ケントヤマの頂上で、風糸を結んだ七〜八個の風船を20メートル以上も高く樹上まで上げることに成功した。ただし、風が強いので、割れないで長く維持す

坂本才子さんの話(5月31日、6月7日)では、坂本家の旗振り師の名前は藤左衛門、その父は善七、善七の父は藤右衛門であり、トクさんには心当たりがないという。曾我家も藤左衛門の頃は、ソウジロウ(漢字不明)であり、三郎、四郎、隆清と続くという。下阿波で、神僧寺を本拠に曾我氏が古くから勢力を誇ったことはよく知られている。

早朝3時からまめに働いていたので、縁起をかついで「福」や「徳」を歌に入れたとか、犬の名前だろうかなどといった雑談もあった。

結局のところ、創作という疑いも残る。旗振りに関係する歌は、研究史上初めてなので、興味深い、その真偽の見極めは難しい。

#### 「ケント山の調査の進展」

6月1日、筆者は、旗振り再現実験を想定して、高旗山の頂上に白旗、上阿波ケントヤマの頂上に赤旗を設置した後、下阿波ケント山の調査を実施し

ることは難しそうであった。下阿波ケント山の山頂に到達した際に、風船が上がっているかどうかは微妙であった。池田さんと寺坂橋バス停で合流し、ケント山の調査に出発した。半袖の池田さんを見て、前にかまれたタニのことが脳裏を横切った。

完全武装の筆者は、先週の教訓から、くだり道で迷わないために、赤いリボンとテープを用意して、目印とすることにした。

池田さんと共に三ヶ所の地点を踏査し、500メートル地点の火焚き跡と土塁らしきものを確認し、中平さんの登った樹木も確認できた。510メートル地点での展望も確認した。二つのピークでは、ケントヤマで掲げた赤旗や上空の風船を双眼鏡や望遠鏡で確認しようとしたが、その痕跡すら確認できなかった(後の実験で、緑の森の中で、赤色は埋没して見分けにくいということがわかった)。樹木によじ登った上忍の池田さんはタニ被害に遭うのだが、それはさておき、下山すると、坂本才子さんが

イモック山登行くらぶ  
 登山靴、手袋を貸します。  
 登山・登山・名山を訪ねます。  
 お気軽にご参加下さい。



IMOCK.  
 KOBE

〒650-0228 神戸市東灘区日蓮寺1丁目183番  
 カナノビル3F  
 TEL (078) 621-5851  
 FAX (078) 621-3528  
 営業時間 10:00-20:00 日曜日定休

オリジナルザック & 登山用品専門店  
**神戸ザック**  
<http://www.h2dion.ne.jp/~kobezac>

従来のテクリの大型です。  
 タウンユースからフィールドに小ぶりのディザック。  
 しつかりした二本縫いの設計。蒸れも強いケミカル  
 パーを使用しています。雨風が大きくなり、山登りの  
 本場仕様になりました。

- ★20L★
- カラー レッド×チャコール・マゼンダ×チャコール
- ブルー×チャコール・ライム×チャコール
- ブルー×チャコール
- 重量 700g
- 素材 高強度ナイロン
- 価格 ¥8,000+消費税



人気商品紹介  
 ◆テクリ・エル◆

出迎えて下さり、お茶を戴くことができたのは有り難かった。

この時に、ケント山の旗振り地点の確認が話題となり、坂本家の土地の範囲は、登り道の谷である皿上谷、東側から北西に突き上げる寺谷、602メートルピークから南下してぐる北山尾根の三つの交わる地点までなのだという。その交点とは、500メートル地点と510メートル地点の中間の鞍部に他ならない。従って、510メートル地点は北山であって、坂本家の土地ではないことがはっきりした。また、500メートル地点からいったんくだって登り返すことになり、不自然だという疑問も氷解した。

以上の材料から、ケント山の山頂の旗振り地点は500メートルピークであることが確定できたことになる。ここには細長い溝状の部分があり、火振りで用いた松明を入れておく場所にふさわしい。コの字に見える部分が土塁で、溝が火焚きの場所なのであろう。

坂本家を辞した後、池田さんと、その知人の福岡礼子さん(テーブルネット



ト鈴鹿の制作担当とで、喫茶店で少し話をした後、上阿波ケントヤマに向かった。その結果、7月上旬頃に「米相場と旗振り通信」の話をケーブルテレビで録画することが決まったのであった(時の散策①②)の放映は8・9月)。

6月8日、下阿波ケント山(500m)と上阿波ケントヤマ(585m)がお互いに見通しがきくかどうかを確か

6月20日、第二回目のロケを実施した。筆者は上野城の広場に行き、望遠鏡を設置し、赤旗を用意して待機した。広場では、アリのキリギリスの石井正則さんとの共演ということで、わりとリラックスして撮影に臨むことができた。その後、石井さんとロケ隊は高旗山に向かつて出発した。

高旗山の頂上は、終始、ガスに覆われていて、再現実験が可能になることは全くなかった。残り時間で撮影可能なタイムリミット直前で、山頂での実験を断念して、ロケ隊は移動を開始した。向かったのは、林道の中腹にある、上野城が見える地点であった。

ところが、上野城広場からは、双眼鏡で探しても、赤旗の位置を見分けることが非常に困難となってしまった。緑の森をバックにした赤旗は埋没してしまい、白い車が移動して、白をバックにした赤旗が浮き上がって初めてその場所が判明したのであった。この体験から、バックの暗さ・明るさが、旗の色の選択に決定的な役割を果たすこ

めるために、カシミール3Dという地図ソフトで断面図を作り、その中のカシバードという俯瞰用ソフトを起動して展望図を描いた結果、山並みの中の位置が明らかとなった。これによって、地名研究会の中平さんが写した写真で米澤さんがケントヤマと推定したピークは、全く別の山であり、手前にある640mのピークであることが明らかとなった。実際には山並みの中のやや低い位置にあり、見分けが難しい。

#### 【旗振りの再現実験】

6月14日、熱中時間のロケを実施した。午前には、伊賀上野駅前と坂本家の道を、坂本仁文さんと共に登り、要所ごとに撮影し、池田さんと仁文さん

とを実感することができた。

こうして、準備が完了し、林道から石井さんが送る旗信号を、上野城広場に設置した望遠鏡で筆者が覗いて、数字を読み取るという再現実験に取り組み始めるようになった。

当初、石井さんの旗振りの特徴がつかめず、送っている信号回数を多めに数えてしまったり、四つの数字を順に記憶しておくということが結構難しいことに気付かされた。

振り方の特徴にだんだんと慣れてきて、記憶するのではなく、数字を順に唱えて、左右交代する毎に1からスタートさせて、立会人が記録するという方法で、再現実験が軌道に乗った。何回チャレンジしたか、記憶にないくらいだったが、実質、再現実験が初めてであった私にとって、貴重な体験となった。

実験を行う中で、旗は下から後ろへ動かし、回すように上下させること、回転は速すぎないこと、右から左、左から右へ移行する際に、低くゆっくり

の息子さんは、カメラに入らないように注意しながら行動することになった。下山の途中には、マムシに遭遇した。筆者は気付かないで通り過ぎたが、踏んでいたら大変であった。足下にはくれぐれも用心!

午後には、次回の再現実験のためのプレ実験ということで、まず、一緒に上野城の石垣の上の広場に向かい、赤旗を持って池田さんに待機しておいてもらった後、筆者とロケ隊は高旗山に向かった。山頂へ登る時に撮影を行い、山頂では望遠鏡を設置して、ケント山方向を確認する場面の撮影と、池田さんの振る赤旗の動きが判別できるかどうかを確かめる実験に取り組んだ。

望遠鏡で覗いて、旗の動きがよく見えたときには、生まれて初めての旗振り再現実験ということで、とても感動した。担当者の手違いで赤旗を山頂に運ばなかったため、山頂から旗信号を送れなかったのは残念であったが、明治時代にタイムスリップする体験を味わうことができたのは幸いであった。

水平に移動させること、などによって、相手が回転数を見分けやすいことがわかるようになった。

#### 【NHKスタジオ収録】

6月28日、東京のNHK放送センターにスタジオ入りした。出演者の都合で、午後の収録となり、新幹線利用の日帰りとなった。

個室で用意された弁当を食べ、スタジオ見学の後、リハーサルを実施した。この時は、井上あさひアナウンサーと私を除く3人は代役の制作スタッフ(山田さん、牛久保明子さん他)であった。完成台本は最初見せてもらっただけで引き上げられ、思ったことをそのまましゃべって下さいという流れとなった。わずかな休憩の後、すぐに本番に入った。ゲートインして挨拶し、薬丸裕英所長、井上あさひ副所長、平山あや研究員、黒崎政明教授(東京女子大学、哲学者)ら、ベテラン陣に囲まれて、著書の紹介が始まって、質問に答え、赤旗を振ったり、旗振り場分布図(5

月24日に所要8時間で作成。50万分の1地図を三枚貼り合わせたもの。横204×縦79センチを前にコメントしたりしていたら、あつという間に収録が終わっていた(備前市の岡家から借りた旗振り用望遠鏡で、桑丸さんが井上さんの持つマークを答える場面の収録もあったが、放映時にはカットされていた)。

教授が話していたように、石井さんで行った再現実験では、いろいろな発見があった。

とりわけ、旗振りが、共通でわかる手旗番号ではなく、数字を暗号化して送っており、なおかつ、慣れないと読み取りが難しいという点では、盗まれないための、用意周到な予防手段になっており、生活の知恵なのだと思えることができた。

7月1日、NHK編成局、衛星放送センターのチーフ・プロデューサーの吉田直久さんから次のような便りをいただいた。

「熱中時間としては大変珍しいテーマで出演者も台本そっちのけで夢中に

なって質問してしまいました。今のコンピュータのネットワーク管理に必要な「確実性」と「セキュリティ」が

旗振り通信にとっても肝要だったというお話が私には印象に残りました。」  
出演に当たって、いくつものラッキーな出来事があったので、それを紹介しよう。

まず、平成21年2月に、ノマドのリーサー部の牛久保さんから「熱中時間」出演の打診を受けた段階で、伊賀市のケント山は発見されておらず、5月の講演に向けての準備段階で、3月以降に新発見が続いたこと。

次に、スタジオ録音の一週間前、6月21日になって、古書店から、番組で重要な役目を果たした「相場旗振図」を収録している「風俗画報172号」の原本を安価で入手できたこと。復刻版もあるが、明治31年(1911年前)の該当原本が入手できたのは奇跡に近い。これは、蛇足であるが、スタジオ入りの前日、6月27日、映画「銀岳」の「記」を見たところ、山頂同士をお互

いに手旗番号(紅白の旗)と望遠鏡で交信している場面があり、大変、興味深かった。

収録された「熱中時間」の「旗振り山熱中人」は、BS2では平成21年7月25日(土)18時、ハイビジョンは7月26日(日)21時と27日(月)12時に放映された。

その概要については、「熱中時間」のHPで紹介されている。その「熱中倶楽部」には、次のようなブログ記事があり、見逃した人にもおすすめておきたい。

① やってみるのすこざ「旗振り山熱中人」(ブログの編集長 大山顕さんによる熱中人レポート)

② いま、伝わる有り難さ(あさひの熱中日記)

③ 初めて知った旗振り山(ミヤケンの目) (つづく)

(平成21年8月13日成稿)  
(平成21年8月22日修正)

## 紀行

### 三角点を訪ねて ⑬

恭仁京跡を見て

## 連載

# 海住山寺から三上山

南山城

磯部 純

村田さんがリーダーの「金曜里山ハイキング」例会で、海住山寺から三上山へ登った。

三上山へは、平成6年と平成16年に登っているが、いずれも山城自然公園から、JR加茂駅から海住山寺を経て三上山へ登るのは初めてだった。

山行例会のルート案内ハガキには、「三上山へ登った後、山城自然公園から鶯ヶ城の三角点を踏んで、桜峠から神童子へ向かう」とあったので、どのようなルートを歩くのが楽しみで、参加することにした。

恭仁京跡



JR小倉駅で8時20分の列車に乗る。木津駅で乗り換え、関西本線の加茂駅へ9時7分に到着する。駅を出ると、この例会に参加するとは思っていませんでした。長兄や、大兄、大阪の彼女の顔を見てビックリ。この日の参加予定者は28名だったが、ひとりの姿が見えず、1名欠員のまま出発となる。



駅前から狭い商店街の道を北へ歩き、堤防に出て恭仁大橋を渡る。始めに旧跡を見ようと、田の中の道を北東へ歩き、恭仁京跡へ向かった。

恭仁京とは、藤原広嗣が朝廷に対し反乱を起こした時、第四十五代聖武天皇が天平十二年(740)に、平城京から遷都した太政大臣橘諸兄の本拠地であったこの地を指す。遷都の翌年11月には宮殿が造られ、大嘗徳恭仁大宮と正式名が決定したが、都として完成しないまま、743年に都の造営は中止され、聖武天皇は紫香楽宮へ移った。翌744年には難波京へ遷都し、さらに745年に都は平城京へと戻された。その後、この恭仁京跡は山城国分寺として再利用され、大極殿は金堂に転用されたが、現在、その跡地は広場になり、恭仁京跡、山城国分寺跡の石碑が立っているだけだった。

この国分寺跡の広場で準備体操をし、10時5分に出発となる。恭仁京跡に咲く満開の桜を後にして、道脇のタンポポ・オオイヌノフグリ・タチツボスミ

レの花を見ながら参道に出て北へ向かって急坂の車道を登ると、25分で海住山寺へ着いた。

海住山寺は、天平七年(735)聖武天皇の勅願により、奈良東大寺の初代別当である良弁により、藤尾山観音寺という寺号で開山された。その後、保延三年(1137)に全山焼失してしまい、承元二年(1208)、笠置寺の貞慶により中興され、現在の補陀洛山海住山寺に改められた。初めは貞慶の属する法相宗に属し、近世まで法相宗の本山である興福寺の支配下にあったが、その後、真言宗智山派(本山、智積院)に転じている。本尊は重文である木造十一面観音菩薩立像で、境内には建保二年(1214)に建てられた国宝の五重塔、正和元年(1312)建立の重文殊堂がある。

この寺で休憩をとった後、本堂の北から高台に登り、眼下の展望を見た後、竹やぶの尾根に沿って北へ登って行く。やがて東西の尾根へのり、北へ二つの尾根を横切って進むと、三叉路の時へ

名全員が揃い、この山頂で昼食となった。ほとんどの人が櫓の下で食べているのに、リーダーと男性4人女性1人が、風に吹かれながら櫓の上で昼食をとっている。天候はいいが、きょうは肌寒いほどの気温だ。

三上山は、近江の三上山が「御神山」の意で「ミカミヤマ」と読むのに対し、「サンジヨウサン」と読む。山名の由来は、養老六年(722)に秦澄大師が神童寺へ登り、鷲峰山を「北山上」、神童寺を「北吉野山」と名付けたが、吉野山の奥に三上ヶ岳があることから、北吉野山である神童寺の奥にある山なので三上山と名付けた。鳴子川、不動川と天神川の三つの川の上流に位置することから三上山と呼んだ。この山の近くに高嶺山という地名の土地があることから三上山と呼んだ。と諸説あるが、どれが本命かは定かでないと思う。

山頂には櫓が組んであり、その上に立つと360度の展望。北には山吹山や飯盛山、それに並ぶように大焼山と

着く。

峠からくたると、山城自然公園の鳴子川沿いの舗装路へ下りた。この舗装路を東へ向かい、ヘアピンカーブの先端から三上山へ登る尾根道に取り付く。三上山へ登るには五つの道がある。北から「モミの小道」、棚倉から登る「かいがけの道」、自然公園から登る「長寿の道」「山頂の道」、それにこの「冒険の道」である。我々が登る「冒険の道」は、三上山へ登る五つの道のうちで、急ではあるが最も距離が短い。急な尾根を登り、勾配がゆるくなると道は山腹を東へ廻り込んで櫓の森に入っ

てゆく。そこから急斜面を北へ登ると、林道を二回横切る。林道と平行にゆるい尾根を行くと、もう一度林道に出て、ひと登りで展望台の櫓が立つ三上山山頂へ着いた。

この山頂で、朝に姿が見えなかった姫路の人の顔を見てビックリ。彼女は降りる駅を間違えて集合時間に遅れ、このまま帰るのは不本意と、神童子から登って来たのだとか。これで28

三角点は櫓の北の根元に立っている。標高473.3mで、点名「三上山」。標石は南向きだが、南から西へ10度振っている。標石の頭の角はポロポロで、見る影もない。

13時30分以下山となる。山頂から西へくだって林道へ下り、少し南へ戻って「長寿の道」に入る。山城自然公園へ下りるいちばん長い尾根道で、始めは檜林の急斜面の下りで、檜林が切れると雑木の吊り尾根。何回となく小さなコブを越えると階段の切られている急勾配の尾根の下りとなり、変化に富んだ道である。

加茂の里では桜満開であったが、三上山山頂ではまだ桜の蕾は固く、咲いていたのはアセビの花だけ。くだるにつれて、ミツバツツジが咲いているの

が目につきます。くだる間中、聞こえてきたシジュウカラの囀りは、羨しかつたが、時折間近から聞こえてくるウグイスの鳴声は、あたかも春を告げているようで心地好い。

吊り尾根を過ぎて急勾配の尾根道になると、4年前には新しかった階段は朽ちて、太い針金の頭が出ていて足を引っかけそう。35分もドンドンくだると、自然公園の舗装路へと下りた。鳴子川を渡った広場で休憩する。川辺には、華やかにレンギョウの花が咲き誇っていた。

ここから鴛ヶ城へ向かうのに、海住山寺から来た時にくだった峠へいったん登り返すのだとばかり思っていたが、リーダーは「この広場から、すぐ南の支尾根へ取り付く」と言う。どこを見ても檜林の急斜面に道など見当たらない。参加者の多くは、これまで道のある山しか歩いたことがなかったのか、戸惑った顔をしている。

取り付きの檜林にやぶは無かったが、林が切れると雑木のやぶ尾根へと変わ

が、今見ると鉄塔は無く、送電線も無くなっている。当時は鉄塔の北に三角点があり、位置を地形図で確認できたが、送電線が無ければ、三角点を探すのが難しいだろう。

ここで15分程休憩してから出発する。破線の道に下り、尾根道を西へ向かう。200メートルも行くと桜峠へ向かう破線の分岐だが、その分岐に道は無く、やぶの切れ目にテープが巻いてあるだけ。先頭はそこを通り過ぎてドンドン西へとくだって行く。400メートル程尾根の南斜面の道を歩くと、道は尾根の右手へ変わる。ここから歩く正面の低いコブへ登り、南へ向かうとすぐに送電線鉄塔の跡地へ出た。ここから竹やぶの巡視路らしい道をくだると下の谷の林道へ下り、西へ向かうと、神童子から桜峠へ向かう車道に出た。案内には鴛ヶ城跡から桜峠へ向かうと書いてあるが、桜峠は通らなかつたのである。車道を西へ下り、天神社の前を通って、神童子の集落を西へ歩くと正面が神童寺だった。

り、次が痛い。しばらくは、急斜面のやぶをかき分けての登りだったが、勾配がゆるくなり、支尾根へると踏跡が現れて歩きやすくなる。尾根を東南へ登って行くと、標高点296メートルのピークへ至り、その尾根にはしっかりとした尾根道が通っている。

ここからその道を西南へ向かう。尾根の両側にはミツバツツジが途切れることなく繁っていたが、まだ蕾が多くて花のトンネルにはほど遠い。方向を南へ振り、小さなアップダウンを何度となく繰り返して行くと、最後を受けもつサブの長兄が次第に遅れ、列と離れてしまう。長兄は下りは苦手で遅くなりがちだが、この遅れはその理由ばかりではなさそう。これまで歩いた距離が長く、足を痛めたのかも知れなかった。

尾根の方向が西へ振ると加茂町へくだる道を分け、すぐになかば廃道化した道を右に見て、次の道分岐を左へ登ると道はピークの北を捲いてゆく。このあたりでは、地形図にある送電線

神童寺は595年に、聖徳太子が千手観音像を彫刻して本尊とし、大観世音音教寺と称して開いたのが始まりで、後に役行者が来て、蔵王権現の像を彫刻して本尊としてから神童寺と呼ぶようになった。

役行者がここで行法をしている際に童子が現れ、「側にある石楠花の木で仏像を刻め」と言って空に飛び立った。それからしばらくして、蔵王権現が現れ空に飛んでいったのに感動して、蔵王権現の像を彫刻し始めると、2人の神童が現れ、それを助けたというのが寺名の由来だといわれている。

以前は広大な伽藍があったが、源平の戦、元弘の変により焼失。今では山門本堂・十三重石塔・宝物殿が残っているだけ。本尊は蔵王権現像で、木造不動明王立像・木造愛染明王座像・木造阿弥陀如来座像などが残っている由緒ある寺である。

ここから車道を西へくだり、鳴子川との出合から北の山道を通って低い尾根を横切って行くと、やがて真言宗の

が見えるはずだが全く見えない。「おかしいな」と思いながら、ピークを左に廻り込み、列について左手へ登ると石垣があり、その上に平坦な

鴛ヶ城の三角点 (点名神童子)



広場があり、いつの間にか鴛ヶ城の城跡に着いていた。ここには、以前あった送電線鉄塔は消えて無くなっていった。鴛ヶ城とは、文明二年(1470)、大内介が伊賀と山城を結ぶ需要な伊賀街道の神童子越を見下ろす山に築いた城だといわれている。

鴛ヶ城跡広場の東奥に三角点があった。標高318.3メートル、点名は「神童子」で二等三角点。標石は東向きで、東から南へ20度振っている。

14年前に、この三角点を訪ねた時には、桜峠から登って来た。山頂は北と南に展望が開けて、広場の南端に鉄塔が立っていて三角点を探しやすかった

寺らしからぬ寺、十輪寺に着く。そこでは寺を見ただけで出発し、西にあるJR棚倉駅すぐの湧出宮に着き、境内で解散となった。

湧出宮は正式名を和伎座天乃夫伎禰神社といい、天照大神の御魂を祀った神社である。称徳天皇の天平神護二年(766)に、伊勢五十鈴川の畔からこの地に御遷したもので、鳥居のすぐ後ろに拝殿があるのが珍しい。

解散後、有志の男性6名女性4名は、次の玉水駅で下車し、桜祭りたけなわの井出玉川べりの横開の桜の下で反省会をやり、帰途についた。

(平成20年4月4日歩く)

- △コースタイム▽
- JR加茂駅(15分)恭仁宮跡(25分)海住山寺(1時間5分)三上山(35分)山城自然公園(25分)標高点296メートル(40分)鴛ヶ城三角点(30分)神童寺(45分)湧出宮(3分)棚倉駅
  - △地形図V2万5千。田辺・奈良

# 赤れんがのまち舞鶴を訪ねて

松 永 恵 一

舞鶴鎮守府

二十世紀が幕を開けた明治三十四年(1901)10月1日、舞鶴鎮守府が開庁した。日本海備への軍事拠点の設置は、海軍の悲願であった。日本海から深く入りの字形に入りこんだ波静かな舞鶴湾は、軍港として格好の地形であった。舞鶴東港は、対ロシア戦略の拠点となり、軍都・海軍のまちとして歩みはじめた。日露戦争開戦の三年前だった。

初代司令長官は、東郷平八郎中将が任命された。後の日本海海戦でその名が国際的に知られることとなる戦艦三笠は、英国で竣工し明治三十五年7月17日、本籍港である舞鶴に到着した。

舞鶴市立赤れんが博物館

平成五年に開館した赤れんが博物館は日露戦争直前の明治三十六年(1903)に竣工した旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫。同時に並んで建設された水雷庫、大砲庫は取り壊された。

鉄骨煉瓦造二階建の倉庫は、現存する鉄骨構造の煉瓦造建築物としては、わが国最古級のもの。旧海軍の直轄工事で特に入念な技術的配慮がなされ、二十世紀初頭における最先端の技術水準を示している。

鉄骨には米国「CARNEGIE」社の刻印がある。煉瓦の積み方はフランス積。建物自体が展示物となるよう、内壁は当初の漆喰仕上げなどに復元。木造の柱、梁、二階の床等はそのまま活かして、展示の一部として活用を図っている。

平成二十年、赤れんが博物館・市政記念館(予備艦兵器庫)・まいづる智慧蔵(弾丸庫並小銃庫)・市や財務省所有の倉庫等、北畠・浜地区の旧鎮守府倉庫施設は国の重要文化財に指定された。

東舞鶴の漁村は海軍の鎮守府開庁に伴う都市基盤整備が行われ、格子状に町割りされた南北の道を一条から九条東西に走る通りには日露戦争に参加した戦艦六隻の名前がつけられている。

三笠・初瀬・朝日・敷島・八島・富士。北畠地区は、舞鶴海軍軍需本部地区となり、舞鶴鎮守府の軍需品などの保管倉庫として、赤れんがの建物が数多く建設された。北畠の高台には浄水場および配水池が設置され、艦艇に給水された。入り江を挟んだ向かい側には、明治三十六年海軍工廠発足を契機に数多くの造船施設が建設された。それらの地区に挟まれた旧舞鶴海兵団跡地に、昭和二年(1927)関東大震災

舞鶴引揚記念館

「スコウラ・トウキョウ・グモイ(すぐに東京に帰る)」を信じてやまなかった兵士達は、全ソ連地域に連行され、ラーゲリ(収容所)で辛くて長い抑留生活を強いられた。食べ物に口がきかず、寒さと想像を絶する重労働により、多くの犠牲者が出た。

舞鶴は昭和三十三年(1958)までの13年間に、延べ426隻、66万4531人の人々と1万6269柱の遺骨を迎え入れた。

引揚船が入港するたびに各地から駆けつけた家族が東舞鶴駅に降り立ち、再会の地舞鶴を埋め尽くす。肉親との再会、いまだ帰らぬ我が子・夫を待つ「岸壁の母」「岸壁の妻」が涙を誘った。

昭和六十三年、引揚者用の棧橋が設置されていた平地区を見下ろす丘に引揚記念公園が開設され、舞鶴引揚記念館が建設された。引揚に関わる資料を展示し、戦争の悲劇を語り継いで平和の貴さを訴えかけている。

北畠赤れんが倉庫群



で大打撃を受けた海軍機関学校が横須賀から移転し設置された。

旧海軍の軍事拠点でありながら本格的な空襲を受けなかったため、鎮守府を中核として整備された大半が今も当時の姿を残す。戦後舞鶴市や民間等に払い下げられ、あるいは海上自衛隊に受け継がれて生活の中に生きている。

甘煮(肉じゃが)

家庭料理の定番、肉じゃがは舞鶴が発祥地だという。舞鶴に赴任した東郷長官が、イギリス留学時代に食べたビーフシチューの味が忘れられず、日本風にアレンジしたらしい。ワインもデミグラスソースも無く、醤油と砂糖で味付けしたのが肉じゃがのルーツ。調理が手軽で肉と野菜の両方が摂れるバランスのよい食事としてカレーライスを採用した「海軍制菓術参考書」と甘煮(肉じゃが)を記した「海軍厨房管理教科書」は、舞鶴に残され受け継がれてきた。

明治のハイカラメニューの材料は、生牛肉、茼蒿、馬鈴薯、玉葱、胡麻油、砂糖、醤油。鍋を火にかけ、充分に熱くなったら油を入れる。3分後生牛肉を入れ、7分後砂糖を入れ炒め続ける。10分後醤油を入れる。14分後、茼蒿・馬鈴薯を入れてひと混ぜしてから、ひたひたになるまで水を注ぐ。31分後、玉葱を入れる。34分後、容器に盛りつけて出来上がり。



舞鶴引揚記念館

コース概観

天然の良港を有する舞鶴は、古くから丹後の政治・経済の中心地。西舞鶴は田辺藩の城下町として繁栄した。東舞鶴は軍港都市、戦後は抑留者の引揚港となり、その役目を終えた後は、日本海沿岸有数の港湾工業都市としての地位を保っている。赤れんが、肉じゃが、岸壁の母に誘われて、ついこの前の歴史を知ろうと訪ねた。

JR東舞鶴駅下車。神戸、大阪、東京からは高速バスもある。東舞鶴駅前からは海岸までの直線1.5ほどの三条通り。海軍城下町の東西の通りは、駅側から三笠・初瀬と英国から購入した最新鋭の戦艦の名が付けられた。  
特産品のかまぼこ板で出来た「舞鶴かまぼこ手形」(大人1000円)を京都交通の駅前案内所で購入すると、市内バス1日乗り放題、赤れんが博物館、舞鶴引揚記念館・五老スカイタワーの入場が無料、東・西舞鶴駅市営駐車場が無料、舞鶴港をめぐる遊覧船は半額、さまざまな特典が受けられる。

駅前を始発10時50分の三浜線バスに乗り、舞鶴引揚記念館に向かう。引揚船入港の地を見下ろす引揚記念公園には四季の花が咲き、「平和の群像」「異国の丘・岸壁の母の歌碑」「望郷慰霊の碑」が建つ。引揚記念館には、シベリア抑留生活に関する資料などが展示されている。ただただ涙が溢れた。

12時1分のバスで戻る。旧海軍海兵団の跡地にある海上自衛隊の舞鶴教育

隊の施設を右に見る。七条で下車。海に向かうと潮路通り。まいづるベイ・プラザの六階からの東港のビューはお勧め。前島埠頭からは北海道小樽港と結ぶ大型フェリーが周航している。海と空の青色を羨しみながらベイサイドを歩く。夕潮橋は元は海軍橋と呼ばれ、舞鶴鎮守府と町とを繋ぐ橋であった。寺川の護岸は明治三十年代初頭に完成した。ここからは舞鶴鎮守府の心臓部で一般人が立ち入ることができなかった。のぞき見ることもできないように高い板壁が建てられていた。

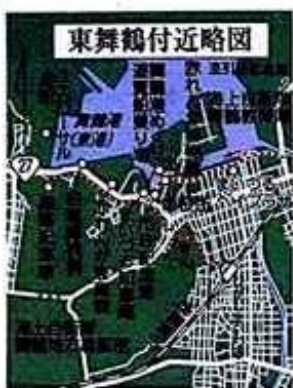
右に京都府総合庁舎、総合文化会館。左の小高い丘の周囲には海軍軍人の官舎が建っていた。交差点を渡ると右に舞鶴警察署。かつて、れんが造りの水雷団正門があった。右奥の東山の山頂には防空指揮所と東山銃機砲台があったが取り壊され、削り取られ前島埠頭の埋め立てに使われた。

左に赤れんが博物館が現れる。東体育館の所に水雷庫、大砲庫があった。舞鶴港沿いに整然と立ち並ぶ軍書本部

地区の12棟の赤れんが倉庫群。二十世紀の舞鶴の歩みを凝縮したかのような赤れんが倉庫群は、風雪を経てエキゾチックな雰囲気を感じさせている。

ユニバーサル造船舞鶴工場一帯には、旧海軍工場のれんが建造物が25棟残されている。舞鶴湾口周辺の五ヶ所の山頂付近には旧陸軍の堡壘や砲台が残る。赤れんが建造物は水道施設や、トンネルや橋の橋脚などとして使用されている。100年の風雨に耐えた旧海軍時代の赤れんがの建物には個性があり、煉瓦ひとつひとつを眺めていると、舞鶴の歴史を語りかけてくれる。

舞鶴市政記念館は、国の重要文化財



東舞鶴付近略図

に指定されている倉庫群の一つで、二階が展示やイベントのホールと喫茶店、一階には舞鶴の明治以降の歴史を紹介するコーナーがある。まいづる智恵蔵は、明治後期の雰囲気そのまま残る展示エリア。軍港引込線から物資を運んだ鉄道レールが建物内にそのまま残っている。倉庫群は今、新たな観光資源として生まれ変わりつつある。夏の舞鶴赤れんがジャズ祭は19回を数える。

赤れんが博物館前の北吸赤れんが棧橋から土・日曜、祝日に海軍ゆかりの港めぐり遊覧船が出る。南極観測船「しらせ」が建造されたユニバーサル造船所、護衛艦が目の前に迫る海上自衛隊棧橋、海沿いに並ぶ赤れんが倉庫群など、心地よい潮風を感じながら海軍ゆかりの地を約30分かけてめぐる。一便11時30分発、二便は12時30分発。

倉庫群から西へ徒歩5分の海上自衛隊北吸棧橋に向かう。ずらりと並ぶグレーの艦船を見上げながら、シャッターを押す。舞鶴は自衛隊の街でもある。舞鶴地方総監部は休日には北吸棧

橋のほか、舞鶴鎮守府の初代司令長官東郷平八郎に関する資料などを展示する海軍記念館を公開している。

軍艦に供給していた水道水を詰めた「まいづるの水東郷源水」と「舞鶴かまぼこ」をお土産に、文庫山より眺望を楽しみ、赤れんがの北吸トンネルを通過して東舞鶴駅に向かった。

コースタイム

JR東舞鶴駅(バス15分)引揚記念館(バス11分)七条(15分)赤れんが博物館・市政記念館・智恵蔵(5分)北吸棧橋(20分)東舞鶴駅

△地形図V2万5千II東舞鶴

△費用V

舞鶴かまぼこ手形 1000円

(問い合わせ先)

舞鶴市・舞鶴観光協会

☎0773 (66) 1024

舞鶴市立赤れんが博物館

☎0773 (66) 1095

舞鶴引揚記念館

☎0773 (68) 0836

## 山の地名を歩く⑥

トラゴゼン  
虎御前山(長尾山)

西尾 寿一

近江湖北地方に虎姫町(現長浜市)があり、その由来は同地にある虎御前山(224m)からの転である。と各辞典の類は言葉を描いて語る。

戦国時代、信長が小谷城攻めの折に城を築いたとされるが、虎御前山なる名称はどこからきたのか不審である。

そこで江戸時代に近江膳所藩がつくった「近江輿地誌略」という地誌をみると、「始は長尾山と號す」とあり、細長く南北にのびる山の特徴をよく現した素朴な表現の名称だったようだ。それがいつの間にか華やかな表記のよいうな女性の名を使うようになったが、

問題となる。

「近江輿地誌略」には、続いて「一人の美女忽然として現れたり容色類なし。せせらぎ長者娶り妻とす、其名を虎御前といふ。懐胎して十五筋の小蛇を産す、其之を撃ちて山東の湖に身を自投す、今の女性淵是也。爾来北山を虎御前山と號すといふ」とあって過去、この説を源として大部分の書物に転載されてきたものであろう。

この国に長年にわたって続けられてきた地名伝説の系統であり、根拠に問題のある説には違いないものだが、完全に燃殺してよいものではなく、そこには幾筋かの事実と、その伝説が導入され得た時代背景に注目しておく必要があるようである。

虎御前伝説は、関東は大磯の遊女の名で後に信州は善光寺に詣でたことから、善光寺系の念仏比丘尼が唱導したものに、他系の念仏聖の女人唱導家の活動によって会津以南の全国に拡散したものとされている。

柳田國男は「行脚の尼の名が虎又は

虎御前などと言うは、おとろは信御生活に携わる巫女の名と深い因縁ある」と言っている。

また、虎御前は曾我兄弟の兄十郎祐成の愛人だったとし、「十郎の討死の後、その菩提を弔い各地を巡り、ある地には兄弟の死後を弔うべく仏堂を留め、あるいはその出生の地と伝えるなど……」(十二支の民俗伝承)としたため、各地に「虎御前伝説」が伝播したとされているのである。

唱導比丘尼の行くところ、虎石・虎ヶ石・虎子石など呼ばれる「名石」が残され、美男が抱けば軽く、醜男が抱けば重いなどと伝えられるが、これも伝説の派生話のひとつだろう。ただ、虎石山という山があるのが多少気にかかると思うが、これも比丘尼の宣伝技法の一種だったのではなからうか。

さて、湖北の虎御前山と笠仙山の「お虎ヶ池」などは先の伝説と同一であることは明らかになったが、それではな

ぜこの地方に比丘尼の運ぶ伝説が根つき後世にまで残されてきたのか、との疑問は深く残る。

そこに単なる伝説を超えた事実が隠されていまいか、それを探索することがポイントとなる。

虎姫とは「水溜りを救う姫神」であったとする説をとるのが、「古代地名を歩く」の吉田金彦氏である。

この地方は昔から姉川と草野川(妹川)とが合流し、高時川も合流し、都合四本の川が合流し最後は琵琶湖へ入る所で、たえず洪水の起きる土地柄であり、湿地帯でもあったので治水工事が継続して行なわれた。それが水すなわち蛇であり、「蛇姫がいてその子蛇が村を治めた」という話は出雲の八岐の大蛇伝説にも通じており、水の精である蛇と稲作の女神と結びついた……とするのは説得力のある分析である。

先の「十五筋の小蛇」とは河川のことだと考えると話の筋の通り、実にたくみな設定である。

湖北地方は古代には先進地であった。

古墳もたくさんあり、「セセラギ長者」が何者かは知らずとも、この地方を治めた大王または長官クラスの人物とみることが出来る。

氾濫する河川による荒地を水稲田に変えるべく長年にわたり奮闘した指導者と庶民との姿が絵に浮かんでくるような気がする。

吉田氏は最後にアイヌ語説「トラもアイヌ語で、水溜り。を意味する語」とされ、さらに「古代、姉川流域に心やさしい原アイヌたちが居て、そんな水たまりをトライといっていたのかも知れぬ」とある。

小生は、アイヌというより、アイヌやその他の諸民族を合わせた複合縄文人というべき、原日本人達が住んでいたであろうとみているが、これが現在のアイヌ語とよく似た言語であったことを否定しないが、その説に頼るのもやや拙速にすぎないように思う。

なぜなら、虎御前伝説は湖のみでなく関東信州から西国一帯に分布してい

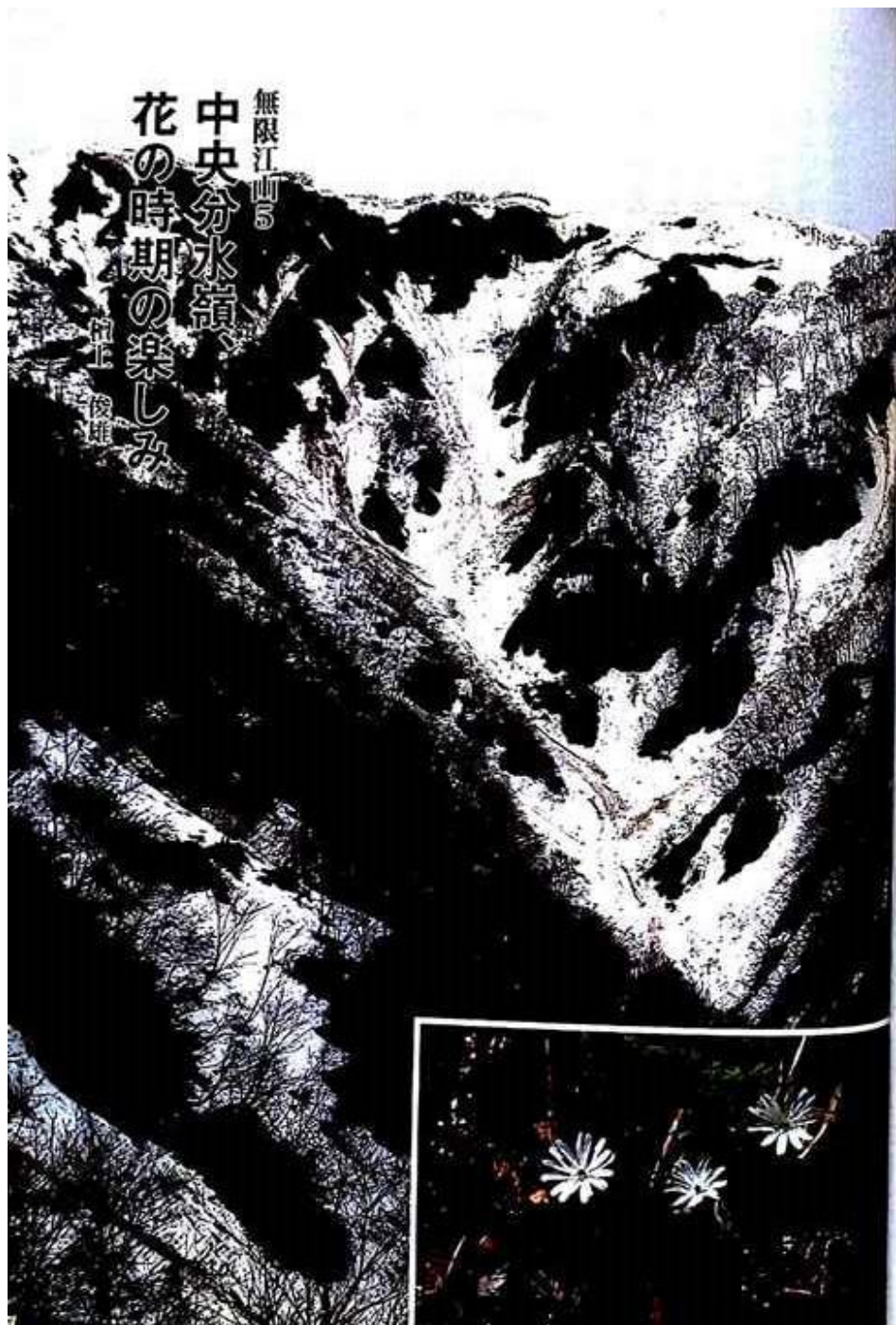
るからで、それを全てアイヌ語説でまかないきれないからである。

おそらく虎御前伝説の源流は想像もつかぬ深い歴史のスパーンのかなたにあるものと思うが、これが各種の伝説と習合し、各地方の事情に合った形で変形し、創造が加えられていったものと思われる。しかし話の骨格はゆるぎない筋として残っており、その糸筋の乱れをほぐしてゆく作業は相当の努力を必要としている。

虎御前山は登山の対象としては物足りないが、歴史と民俗としてみれば魅力充分な山である。JR虎姫駅から近く、登ってみれば小谷城が目の前にあって、昔の合戦の様子を思い浮かべることができる。

歴史と、山名由来の興味の尽きない山であり、それはこの山にとどまらず、隣の鎌ヶ岳と共に湖北山地の魅力を構成している主要な役者たちであると云ってよい。





無限江山5  
中央分水嶺  
花の時期の楽しみ

植手 俊雄

最新刊

新ハイキング選書 第30巻

## 関東周辺の やさしい雪山登山コース 57コース

A5判・196ページ  
定価1680円(税込)

植手 崇文 著

何百回かの山行を重ねた著者が、一番熱を入れて取り組んできた雪山について、その美しさ、楽しさ、充実感を、後から続く人に伝えたい。そして多数の方々が雪山に入る助けになりたいとの思いから、あらわした書。そのために、厳冬の山は、山小屋が営業し、大勢の入山する山に限り、一段と難度の高い山は、天候が安定し、雪崩の危険がほとんどなくなるゴールデンウィーク前後を選んでいる。全体的に言えば、初級・中級コースの紹介であり、また、「紀行集」の形をとり、「ガイド」とするよりも、実際に歩いた感覚が伝わるよう配慮されている。



- 〔東北・那須〕 月山、西吾妻山、猫魔ヶ岳、安達太良山、那須 茶臼岳、那須 朝日岳
- 〔会津・尾瀬 上越〕 会津駒ヶ岳、曇ヶ岳、至仏山、上州武尊山、毛猛山、白毛門、谷川岳、白砂山～佐武流山、堂津岳
- 〔志賀 浅間周辺〕 笠ヶ岳、黒雲山、高峯山、水ノ塔～籠ノ登山、湯ノ丸山、村上山
- 〔丹沢・奥秩父〕 丹沢主脈縦走、雲取山、大菩薩嶺、金峰山、瑠璃山
- 〔八ヶ岳・美ヶ原〕 蓼科山、北横岳、横結山、天狗岳～碓氷岳、赤岳、阿弥陀岳、美ヶ原
- 〔南アルプス〕 鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、入笠山 釜無山
- 〔北アルプス〕 衆務岳、上高地、焼岳、奥穂高岳、北穂高岳、西穂高岳、槍ヶ岳、権ヶ岳、燕岳、燕岳～蝶ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、唐松岳、唐松岳～五龍岳、白馬岳、立山、毛驢山、木曾駒ヶ岳、御嶽山、笠ヶ岳、猿ヶ馬場山

●本誌添付の挿入用紙で  
ご注文されると、送料当社負担

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川117-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110



根尾の淡墨桜

側にある川上岳などは開発の魔手から逃れて静かな山のままであり、最近足は向けることが増えた。

以前であればここまで行くなら北アルプスを目指すところだが、森林限界前後の高さの山の居心地のよさに目覚めてからというもの、アルプス前山というべき山に登るのが楽しみになってきたのだ。花もさることながら四季を

通じて大型動物を頂点とする生態系が維持されている自然というものが残る山は、登山者である私もその一員という感じがして心が和む。高山帯の美しさは格別のものがあって生命溢れる夏の季節はそう違和感はないが、その他の季節はやはり我らのものならぬ厳しさがあった一瞬は感動的だが、どっかりと腰を下ろして自然との会話を楽しむという日常性は乏しい。

琵琶湖畔から折々に比良を望むと、時々その高さに驚くことがある。標高はたかだか1200m前後だが、湖面が85mであることから高度差が1000mを超え、アルプスは3000mの高さを誇るが、登山口と稜線との高度差は比良の場合と大差ない。川上岳から間近に見る笠・槍・穂高・乗鞍の雄姿はここならではものだが、この場合も標高差は似たり寄ったりである。もしそれ以上の2000m、3000mになれば迫力がありすぎて、よほど体力気力が充実している時以外は登ってみたいという意欲も湧いてこないだ

ろう。こうしてみれば標高差1000m以上というのは絶妙の仰ぎ見る角度であるといえる。

ちなみに中部山岳では氷河の生まれる高さである雪線は3500m、森林限界はおおむね2400m前後だが、積雪の多いと疑似高山帯が出来ることが知れており、こうした山では2000m位にまで下がってくる。ブナ帯も同様に通常1000m前後だが多雪地帯では300m付近まで下がること知られている。山に咲く花は総じてか弱い存在であり陽の当たらない森のなかよりもその切れ間に、斜面であれば雪崩が頻繁に発生して森とならない場所が適地となることは、人工の裸地というべき登山道周辺に花が多いことから容易に想像できる。

山の花はブナ帯に対比され、高山の花は高山帯にあることから考えれば、アルプス以西の中央分水嶺にはそれぞれの高さの山があって、花をめぐる楽しみは尽きない貴重な場所ということが、おわかりいただけるだろう。

桜前線が北上して琵琶湖周辺も湖南から開花し始めると、毎年のことだがにわかには懐かしくなる。とくにこの数年程は高島トレイル12山のスノーシュー登山を行なっていて、この頃は登りそこねた山をまだ追いかけている場合が多いからだ。12山とは北から、乗鞍岳「三国山・赤坂山」「大谷山」「大御影山」「三重嶽」「武奈ヶ嶽」「二の谷山」「行者山」「駒ヶ岳」「百里ヶ岳」「三國峠」「三國岳」をいう。集中して登ればそんなに難しくはないが、いい天気の下で、それぞれ登りがいいのあるルートから日帰りでも考えるところ簡単ではなく、いつも大物が春先まで残ってしまうのだ。

スノーシュー登山では、登山口への車道が除雪されているかどうかが大きくポイントとなり、大御影山などのルートも林道からであり、雪解けまで手が出ない。かつて若狭側の松屋からノ口尾を往復して山頂に立ったことがあるが、高島トレイルという観点から琵琶湖側に限定している関係で、酒波

林道にあるピラデスト今津が開村する日待つかない。トレイル最高峰の三重嶽は、石田川ダムから雪に埋まる林道を歩き、間谷と八王子谷の間の南尾根を往復すれば何とか1日で可能となる。仮にそれがうまく行かなくても3月下旬の雪が締まってくる頃になれば行程もはかどることから、武奈ヶ嶽から中央分水嶺を経て三重嶽を往復するコースも可能となる。

余呉エリアでは、中央分水嶺トレイルを整備中ということもあり、今春はこちらの12山に登ることにしている。南から「賤ヶ岳」「音山寺山」「七ヶ頭ヶ岳」「横山岳」「行市山・樽ヶ瀬山」「妙理山」「安蔵山」「大黒山」「音波山」「下谷山」「上谷山」「三國岳」であり、こちらは高島トレイル12山以上に残雪期しか近づけない山が多い。

さらに桜が咲くこの時期には他にも登りたい中央分水嶺の山がいくつもあって、湖西・湖北以外の山にも思いを馳せることになる。高島・余呉から中央分水嶺最高峰乗鞍岳へ峰が連なる

が、こちらはトレイルなどはないから不可能だと思っているものの、分水嶺上の主な山には雪のある季節にも立ちたいと考えてきた。

とくに淡墨桜のある根尾谷にそびえる能郷白山には、八草峠のトンネルが出来て随分と行きやすくなってからというものの、手軽に登らせてもらっている。1600mの高さというのには魅力であり、桜を見て、登山口あたりでキクザキイチゲなどの山野草の花を愛で、登るほどに残雪が現れ、前山あたりでは真冬を思わせる雪景色という垂直分布の見事さを体感できるからだ。これは高島や余呉にはないことで、足のばしがいがある。

さらにその東には大日ヶ岳がそびえる姪ヶ野高原があって、ここまで来るとシラカバ林があり、春にはミズバショウが咲き、琵琶湖周辺にはない世界が広がる。とはいえ、うかうかしてしまえば、登山の興味は失われてしまった。それに代わってさらに乗鞍岳

### 早緑の茶畑からゴルフ場 柞峠から三角点(滝の谷) を経て府県境の峠へ

一般コース(★★)  
長宗 清司

茶どころといえ、宇治や静岡が定番だが、近頃は各地の名産品として地元茶を薦めるようになった。滋賀県内にも、古くから栽培されている朝宮(信楽)・政所(永源寺)、土山などが有名である。

今回はこのうちのひとつ、滋賀県南部朝宮の茶畑周辺を訪ねる。

マイカーでは、石山寺から立木親音・鹿跳橋を渡って県道422号を経て国道307号を信楽に向かい、下朝宮まで走る。公共交通機関なら、JR

貴生川駅から信楽高原鉄道に乗り換え、終点信楽駅から宮尻行きのバスに乗り、朝宮小学校前で下車する。

朝宮小学校前の駐車場から、早苗の畦に咲くアザミやキシヨウブを愛でながら右折して柞峠に向かう。峠の南斜面には見事な茶畑が広がっている。今回は滋賀・京都の府県境尾根を歩く。

最初は、関電の鉄塔を目指して時計回りに茶畑の端を行くが、小さなやせ尾根への入口は、雑草に覆われていてとても見つけにくい。なりゆきで茶畑の縁道を行くうち水槽のある所から数分のあたりを気をつけて探る。左の土手に上がる微かな踏跡を見つけ、南へ向かう巡視路に出る。落ち葉の快適な道を進むと、No125の鉄塔下に出る。さらにこの巡視路の延長線上は小高い屈曲点に出る。「く」の字に折れてく

朝宮茶畑は二番茶収穫の真っ盛り



だつて東へ、独標416の鉄塔には出発点から約1時間に到着する。

ここからは、送電線と平行にたどる高低差の少ないルンルン気分の尾根道である。木立越しに南の山並も望むこ

とができる。再び、茶畑を望む南側の高みを登り気味に東進し、左右へ二分する車道に出る。左へ行けば、この茶畑全景を見下ろす最高地に立てる。

だが、きょうのコースは先ほどのT字点に戻って右に入る。この道をこのまま南下すると鉄塔121に出してしまうのでT字点から50分あたり、左が植林の槍、右が雑木と植生の違う地点を



柞峠・滝の谷付近図

注意深く探り、雑木を分け入ると朝宮ゴルフ場の南側を迂回する山道に出る。やがて、断崖で茶畑が遠望できる地点を過ぎると、左側の木立越しに鮮やかな浅緑色のグリーン上でプレーを楽しむゴルフアが目に入る。あとは、このゴルフ場の境界線を忠実に小さな上り下りを繰り返して、伝い歩く。

おや、と一瞬いぶかるゴルフ場の構内にリボンが二つ。20分入った所に三等三角点「滝の谷」(449.9m)の標石が見つかる。滋賀岳連の創立三十周年記念の金属プレートや三つのグループの登頂の印が木にぶら下がっている。

最後は、ダム横の雑木林を少し漕いで、ダムの堰堤下に入り、県道5号(木津信楽線)に出る。道路を右へ100分以上りつめれば、京都・滋賀の府県境の峠(小峠)である。

帰路は、滋賀県側をくんだり、杉山集落を経て国道307号の杉山口バス停へ出て、信楽駅に向かう。

(時間に余裕があれば、峠から京都府側にある湯船森林公園に立ち寄るのもよい。

場合によっては、このあと、このまま和東川沿いに小杉まで行けばバス停があり、JR加茂駅へも行ける。しかし、本数が少なく、曜日によってはバス便が無いので注意したい。(平成21年5月31日歩く)

#### コースタイム

信楽高原鉄道信楽駅(バス25分)朝宮小学校前(10分)柞峠(5分)やせ尾根入口(45分)鉄塔125(30分)T字点道路(15分)植生分割地点(20分)朝宮ゴルフ場境界(30分)滝の谷三角点(15分)県道5号(小峠)(20分)国道307号杉山口バス停(バス22分)信楽駅  
△地形図V2万5千1朝宮・信楽  
(問い合わせ先)  
信楽町観光協会  
☎0748(82)2345  
和東町役場振興課  
☎0774(78)3001

信楽高原鉄道

☎0748(82)0129

奈良交通バス

☎0742(20)3100

滋賀南部の里山

ながのひがしやま どうやま

長野東山と堂山

一般コース(★★★)  
磯部 純

滋賀県の2万5千回「信楽」には、500以上の三角点峰が四座ある。このうち笹ヶ岳はガイドブックに紹介され、比較的登られているが、他の三座は三角点マニアは別にして、あまり登られていない。

三座のうちの長野西山は、車道からすぐ近くにあつて簡単に登ることができるので省くが、あまり知られていない長野東山と堂山を訪ねたので、そのコースを紹介する。  
信楽への交通は不便なので、マイカー山行とした。

長野東山

国道307号を走って宇治から信楽へと向かう。伊賀上野への分岐を過ぎて新田で右へ曲がると、正面の愛宕山の後ろにアンテナ塔が立っている。そのアンテナ塔の後ろに隠れた山が長野東山で、二等三角点である。  
車を信楽駅の駐車場に置く。駅から100メートル南へ歩いて、駅の外れから東南の道へ曲がり、そのどん突きから細い道へ入って行く。尾根を廻り込んだ最初の谷入口に社があり、道はそこで消えている。すぐ左手に谷があるが地形図の破線路の谷ではないので、右手を流れる小川を南へ渡り、若い檜林のなかを東へゆるく登ると、尾根にあるアンテナ塔へ登る巡視路がある。この巡視路を登ればよいが、実際には、滝谷にある破線路を登るつもりで右手の谷を上流へ歩き、その先の谷分岐下の堰堤まで行ったが、右手の谷には道跡が見つからず、谷を登るのは諦めて左の斜面を登って尾根にのった。  
尾根にのると、山頂のテレビアンテナ

長野東山の三角点



ナ塔から引いている電線の巡視路と思われる道が通っている。道はやぶも少なく階段が切つてあつて登りやすいが、茨がアチコチに密生しているので、注意しながら登らなくてはならない。道の両側は低い雑木の林で、春であればヤブツバキ・キブシ・ヤシヤブシの花をあちこちに見ることが出来る。下か

ら見た時にはそれほど高い山とは思えなかつたが、登るに従い信楽の町並が次第に小さくなって、下で見た以上に高い所へ登つたように感じる。やがてゆるくなり、右手斜めに登ると、二基のテレビアンテナのある平坦な場所へ出た。

ここから先の尾根には立派な道が付いている。尾根道を歩き、右手から来る道を合わせたその先で、右手へのびている尾根にのつて南に向かうと、鞍部を乗り越している。これが地形図の破線の道。その鞍部から道を離れて、正面の松林の尾根へと登り、左へ廻り込むように急登すると、長野東山の山頂へ着いた。

湾曲する細い山頂には、5分程度程頭を出した三角点が埋められている。標高559.7m。点名は、昔のこのあたりの村名から付けられた「長野村」で二等三角点である。標石は北向きで、北から西へ10度振っている。山頂の南斜面は松林で、下のやぶが伐採され、鹿避けのためかネットが張られている。

南正面には、間近に笹ヶ岳が横たわり、その左肩遠くに伊賀盆地が見えていた。下山路は、登ってきたテレビアンテナの巡視路を戻るのが無難。それでは早過ぎると思う人は、登る時に横切った地形図の破線の道を西南へくぐって、散策を楽しむのもよい。この時には、江田へ抜ける道を歩こうと、破線路の道を西南へくぐった。

破線路を西南へくぐって標高499mの北の鞍部まで来ると、そこに地形図の滝谷の破線が来ているはずだが、道らしい跡は無い。この谷をくぐれば堰堤に下りるが、道無き谷をくぐるのが嫌だったので、遠廻りになるが、鞍部から南へくぐることにする。檜林の斜面の道を250メートルくぐると幅の広い道に出合ったので、その道を南へくぐった。地形図には、林道の途中に江田へ抜ける道が描かれているが、谷には高い堰堤が建設されていて、その西の斜面はササがポウポウで道など見当たらない。斜面を登るのを諦め、広い道をそのまま南へ向かつて新田へ

**アタッテ痛い靴の中広げします**

靴底張替承ります!

通販も可能です。

TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:50~PM8:00(日曜は7:00まで)

毎週木曜日定休

OUTDOORS SHOP  
とよぎのヨシミ  
YOSHIMIスポーツ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70  
http://www.yoshimisports.co.jp/

JR天王寺駅 徒歩5分  
徒歩5分歩いてスグ

くだった。ここからは車道を歩き、長閑な田園風景を楽しみながら信楽駅へと向かった。

### 堂山

今回登る堂山は、湖南アルプスの堂山ではなく、紫香楽宮跡南の日雲神社の東にある三等三角点峰、標高521.7mの山である。

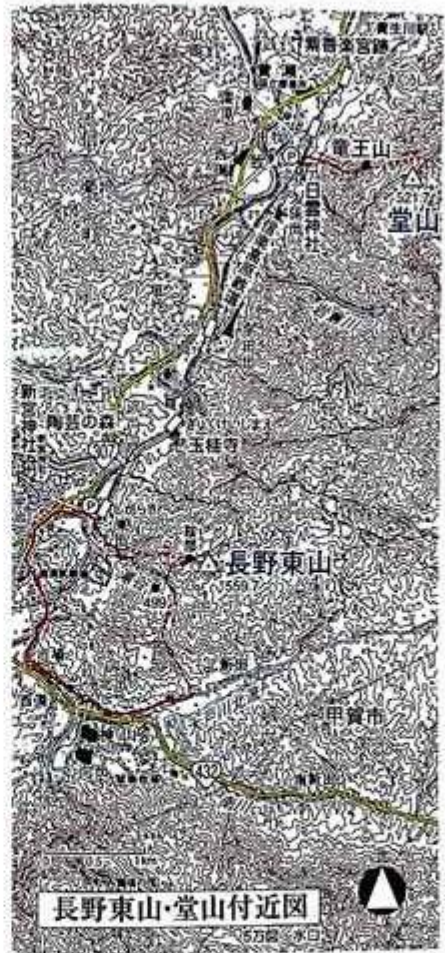
国道307号を信楽から水口方面へ走り、中牧への分岐を右にとり、日雲

神社鳥居前へ車を置く。堂山へ登る地形図の破線路は、日雲神社から東南にのびる林道の先から北にのびる谷に付いているが、道が途中で消えているうえ、谷には藪もあって荒れているので、このルートは歩かないほうが無難。堂山へは、このあたりの子供会でも登っている日雲神社裏から竜王山へ向かうしっかりした道を登り、尾根を伝って堂山へ向かうことにする。

社前の案内板によると、この日雲神

社は「崇神天皇の御世に、皇女倭姫命（ヤマトヒメノミコト）が、皇祖神天照大神を奉じ、その鎮座の地を求めて各地を順行の時に、この地に4年の間滞在されたことがこの宮の起こりである」と書かれている古い神社である。

まずは神社に参拝すべく参道を進むと、神社前の灯籠のすぐ後ろを信楽高原鉄道が参道を横切っていて、そこには踏切はなく戸惑う。せっかくだから神社本殿へ参拝した後、神社前の広い



道を北へ向かう。神社の後ろは檜林で一面にササが生えているものの、林を突っ切ってもよい。道を進むと林の北の外れに東へ向かう道があり、すぐに林道の分岐があるが、右の道を進む。その先で道は細くなり分岐があるが、そこには「左 竜王山」の標識が立っている。左の山道に登るので、右への道は、「みつえし

ろの道」と名付けられたこの神社のまわりを散策する道である。

始めはゆるい登りだが、登るにつれて尾根は急になり、階段まで切られている。何度かジグザグを繰り返して、道幅が狭くなると、やがて小尾根にのった。そこから北東へ方向を変えた尾根道をゆるく登って行くと、道が右手へ曲がる所にちよつとした広場があ



堂山の三角点

り、そこに朽ちかけた社が建っている。この社には「竜王宮社殿」と書かれた札が置かれているので、ここが竜王山と呼んでいる山で、子供会まで登って来るのだろうか。社殿のある場所は、ピークでも何でもない尾根途中の曲がり角で、山と呼べる場所ではなかった。

社から奥に、尾根上にのびている踏状の道を進む。あたりは柴木で、細い尾根を行くと林の切れ目から時折、左下に新名神の高架が見える。尾根は比較的平坦で、地形図で読むより距離が長く感じられた。小さなピークを二つ捲いて東へと進んで行くと、右手にのびる尾根が近づいてくる。その尾根の交点まで来ると、道はピークの左を捲いて左方へくたつてしまうので、間違わずにここからピークへ登らなくてはならない。ピークから方向を南へ変えて、尾根の踏跡を200mも行くと、尾根の先端に三角点立っている。標高521.7mで、点名は「牧村」、三等三角点である。標石は北西向きで、

北から西へ30度振っている。

狭い山頂広場のまわりは雑木林で展望はほとんど無かったが、わずかに西方の林の間から間近に掘木谷と、新名神の高架を見ることができた。すぐそばの木には山名標識のプラスチック板が下がっているが、山名は消えていて白い板になっている。

下山路は、地形図に三角点から南へくだる破線が描かれているが、道は消えているので安全を期して登ってきた道をくたつた。

### 《コースタイム》

（長野東山）信楽駅（1時間）長野東山

（35分）北新田府道（1時間）信楽駅

（堂山）日雲神社（1時間）堂山（40分）

日雲神社

△地形図V2万5千1信楽



コースガイド

比叡

鷲の森神社・曼殊院から

天子山

一般コース(★★)

松尾 一郎

このコースは、比叡山南稜の登山台(二本杉)から西へ派生する尾根(白鳥越)の一支峰である天子山へ、曼殊院から一乗寺川を溯って登る。下山は大鳥居から水飲対陣之跡碑に出て雲母坂途中から梅谷南尾根道を上高野へくだり、桜と紅葉の八瀬の里に出る。

叡電修学院駅を出て、北山通を右(東)へ行くと白川通との交差点に着く。信号を渡り白川通を左(北)へ進み次の交差点を右に入り、まっすぐに東進すると鷲の森神社入口(曼殊院への看板あり)に着く。

左右を楓や桜に覆われた長い参道を行くと、南面している鷲の森神社に至る。境内の右奥にある「曼殊院まで7分」の看板のある御幸橋を渡り、薄暗い杉並木の参道を南へまっすぐ行く。

一乗寺川を鉄パイプの橋を渡り、すぐ道路石垣手前で直角気味に右折(西)すると、銀杏の大木が立つ曼殊院への幅広い車道と合流する。ここを反転気味に左折(東進)し、そのまま車道を進み、曼殊院(注1)の正門(勸使門)前へ着く。拝観者は左に曲がって北側の通用門から入山する。

さて、一乗寺川へは曼殊院堀沿い(右(南)にとって、鳥居の所で左に曲がり、鉄扉が閉まる坂端林道入口に着く。鉄扉の隙間から林道(地道)に入り、一乗寺川右岸を行くと分岐(道標あり)に着く。林道は右へ橋を渡って瓜生山方向に登って行く。雨天のときなどは、この林道を迂回して瓜生山からの尾根道「東山トレイル64」(以下「東山トレイル64」)のればよい。

天子山へは比叡山方向の道標に従い、

や鷲の森神社も眼下に望める。ここからは足場もよくなり、ほぼ水平な道を5分も進めば、瓜生山からの白鳥越尾根(東山トレイルコース)の「東山トレイル65」(一乗寺川下降点)に登り着く。

ここはトレイル尾根道を左(北)にとって進むと、左側の枝に「城」(しる)と地名表示板の掛かる分岐に着く。ここが天子山登り口である。そのまま植林帯の路跡に分け入ると、カラー紐があり、確認しながら登って行き尾根に登り着く。尾根の踏跡を右へ進み、目印を頼りに何ヶ所かの倒木をやり過す。Y字状のやや不鮮明な分岐は左をとり、最後の二本の倒木を右に捲いて溝状の山道を行くと、天子山(442.3m、三等三角点)に着く。残念ながら樹木に囲まれ展望はない。

下山は元へ戻ってもよいが、山頂からさらに進み、すぐ左下に廃棄された林道が見えるので、斜面の踏跡を伝い林道に下りる。この林道の状態は芳しくないが、くだって行くとトレイル尾根道「東山トレイル66」に下り着く。ここ

天子山頂上



一乗寺川沿いの山道に入る。しばらくは右岸の谷道を進み一度沢に下り、なおも右岸を溯るとルートは沢を渡って(鉄梯子あり)左岸に移り、一乗寺川源流部の急峻な斜面のつづら折道に登って行く。

登山道は以前より手入れされ、よく踏まれているものの、道幅は狭く、片方は断崖一方は落石の危険も捨て切れず、慎重に登って行こう。やがて左側が木の間越しに開け、修学院の家並が箱庭のように見渡せ、今来た曼殊院から左へ道幅が広くなったトレイル尾根道をだらだら行けば、広場状の大鳥居(石鳥居「東山トレイル67」)に着く。大鳥居には亀裂が入っており、危険なので近づかないように。

ここは5方面に渡ってコース(注2)が集散しており、各方面にルートが選べるが、八瀬方面へは左の東山トレイル道に入る。水飲対陣之跡碑まで三つの流れを渡るが、けっこう起伏があつて骨が折れる。最初の音羽川へはジグザグの急な下り道で、コンクリートブロック伝いに川を渡り、右岸の山道を高捲く。瀬音が遠のくと淵が谷の細い流れを跨いで、支尾根を高捲き杉谷「東山トレイル68」を渡渉する。坂道を登れば雲母坂の水飲対陣之跡碑「東山トレイル69」(注3)前の狭い広場に出る。

水飲対陣之跡碑からは左へ雲母坂道をとおり、木の間越しに天子山方面を望みながらくだって行き勾配がゆるくなる頃、修学院離宮敷地の有刺鉄線境界フェンスが現れる。梅谷南尾根道分岐(道標なし)である。雲母坂はまっすぐ



水飲対陣跡碑「東山トレイル 69」

を合わせ再び橋で左岸に移る。左から赤山が迫り民家が見えだしたら、梅谷登り口の車道に出る。

八瀬へは車道を右(北)にとり、梅谷川に架かる坊山橋を渡り、道なりに上高野の住宅街を北方向にくだつて行く。やがて叡電の線路脇に着き、線路沿いに桂谷を渡れば再び地道となり、すぐに右へ御陰神社への参詣道に分ける。山道はやや登り気味になって、左に八瀬山荘の板塀が現れると再び下り道になり、板塀が途切れると舗装路となり、高折病院・宝嶺山荘(有料老人ホーム)の前に出る。左に曲がって、右に瑠璃光院をやり過すと八瀬の里に入り、木橋を渡ると叡電八瀬比叡山口駅前の広場に着く。(平成21年9月13日、20日、11月8日・16日歩く)

65(一乗寺川下降点)(10分)城(天子山登山口)(15分)天子山(5分)東山トレイル(10分)大鳥居「東山トレイル 67」(20分)水飲対陣跡碑「東山トレイル 69」(雲母坂道10分)梅谷南尾根道分岐(20分)梅谷出合(10分)梅谷登り口(13分)桂谷(9分)高折病院(6分)叡電八瀬比叡山口駅△地形図V2万5千〇京都東北部

(注1)最澄が比叡山に阿弥陀仏を安置した堂を建立したことに始まる。紅葉の名所で、意匠と庭園が見所。拝観は9時〜17時、拝観料500円。

(注2)①大鳥居をくぐり南へくだるのは地藏谷道で北白川へ。②東へ尾根に取り付く道は白鳥越で、途中で比叡アルプス道と合流し登山台(一本杉)へ。③北から東へ曲がる林道は坂端林道で比叡山ドライブウェイへ。

④西へ音羽川に下る道は「東山トレイル」で水飲対陣跡碑へ。

(注3)西へは雲母坂の下り道で修学院へ。東へは雲母坂の登り道で比叡山へ。北への下りは梅谷道で上高野へ。

有刺鉄線の右沿いをくだっているが、梅谷南尾根道(修学院離宮の巡視道)へは右へ廻り込むように、有刺鉄線左沿いの踏跡をくだる。途中所どころに「立入禁止」の立札が掛かる、有刺鉄線沿いの踏跡をくだって行き、赤山のコルで向きを北に変えて、梅谷左岸の梅谷道(道標なし)に下り着く。

その先で梅谷道は橋を渡って右岸に移り、すぐ右から雲母坂「東山トレイル」よりくだってくる梅谷右岸尾根道

《コースタイム》  
叡電修学院駅(15分)鷲森神社(2分)  
銀杏の大木(5分)曼殊院正面前(5分)  
坂端林道入口(13分)瓜生山分岐(一乗寺川道30分)見晴台(5分)東山トレ

登っておられ、同じの世代なので話も弾んだ。彼は文殊山へ12年間も登っておられ、今年はずでに45回とか。昨年は65回との話には驚いた。

二十林程の石仏、すばらしい展望も開けた。本堂に参詣後、彼に眼下を説明してもらった。彼はここで引き返したので単独で奥の院へ向かう。厳しい急下降の山道で始まっており、脇にはロープも渡されているほどである。難所の「胎内滑り」は省略したが、最後の急登を終えて奥の院に着いた時には激しい息切れが発生していた。三角点を確認し、ようやく今回の目的を果たしたのである。

# せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。  
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 故 小林波瑠三

別の筋に入ったことが原因であった。やはり苦勞し発見した時の喜びと感動は忘れられない。(本津川市 久保田 勉)

三角点探しに凝っている。訪れた点は、八年間200を超えた。三角点が高い山の頂上だけにあると思っていたが、街の中にもあることを知り、探し始めた次第である。簡単に見つかることもあれば、同じ場所を何度も訪れ探し当てたこともある。最近も、京田辺市の三等三角点「天王」「水取」では苦勞した。地形図の読み違いで、やぶのなかを迷い続けて後日の発見となった。いずれも、その先に点があるのに、やぶがひどく間違っているとつい込み引き返し、

10月下旬、越前五山のひとつ文殊山(角原富士)へ登った。小文殊、大文殊、奥の院と三つのピークで構成されている。鯖江市側の角原登山口から予定したが、間違って福井市側の二上登山口へ出てしまった。しかしそれが幸いした。話かけてきた地元男性がガイドしてくれた。全国の山に

登っておられ、同じの世代なので話も弾んだ。彼は文殊山へ12年間も登っておられ、今年はずでに45回とか。昨年は65回との話には驚いた。

12月25日、南山城の甘南備山に行った。近鉄新田辺駅から歩くこと1時間20分、二等三角点(201:60)を確認。京都市方向は霞んでいた。大津越を経て10分程で山頂、神奈備神社に到達。鳥居前に置かれた石板で、東に見える山が鷲峰山とわかった。少しく違った所にある木造の屋敷台で昼食をとる。歩いてきた麓の道も見え、標高のわりに高く感じた。帰りは車道をくだって行くと、赤い実をびっしりつけたタマミズキの大木が寄り添うように立っていた。熊鷹発祥の伝承が残る神社を通り、一休禅師ゆかりの願懸庵に立ち寄る。宮内庁管轄の廟所と、終の棲家だった虎丘庵には入れないが、方丈や宝物殿を興味深く見学した。中には、榮と親が本人のものだという一休禅師木像や、奥頂相(實)が一体等、彌勒面、尺八等ゆかりのものも多数あり、手入れの行き届いた枯山水庭園も美しかった。門長は夏土の旅の一里塚め

SHCサービスチェーン



どこへ行こうか  
新ハイキングクラブ(SHC)  
サービスチェーン

サービスチェーンには右のような  
看板が掲げてあります。

新ハイキングクラブに協力して下さる宿やバス・タクシー  
会社です。自然を大切に、ハイカーを仲間として歓迎して  
くれます。時間と体力と気持ちに余裕を持てば、安全な山行  
につながります。ぜひご利用ください。

ほとんどのチェーンがホームページをもっていて、新ハイの  
ホームページからたどれば大体の様子を見ることができ  
ます。

ご利用の際はそれぞれの宿のホームページの予約欄か、電話  
または往復はがきで必ず予約してください。予約のときに、  
料金を確認してください。

利用するときは、新ハイキングクラブの会員証を持参してく  
ださい。

さんそうもみの木  
一泊、食料別、5,000円から  
Hokuryu Inn  
〒370-0101 群馬県利根郡みなかみ町  
三田新井(利根大橋) (利根大橋)  
TEL 0286-22-2200

彩りの里 紅彩館  
一泊、食料別、5,000円から  
Hokuryu Inn  
〒370-0101 群馬県利根郡みなかみ町  
三田新井(利根大橋) (利根大橋)  
TEL 0286-22-2200

自然の宝庫 尾瀬ヶ原見聞  
〒020-0100 栃木県日光市  
〒020-0100 栃木県日光市  
TEL 0286-22-2200

大黒沢ヒュッテ  
〒020-0100 栃木県日光市  
TEL 0286-22-2200

秋田朝霧山基地  
石塚旅館  
〒020-0100 栃木県日光市  
TEL 0286-22-2200

あみはじロケット  
〒020-0100 栃木県日光市  
TEL 0286-22-2200

大雪山山麓ロープウェイへ徒歩5分  
2009年グループ別  
6名以上で1名無料(9.8.10月のみ)  
5月連休お休み(6月からは営業)

知床若尾別ユースホテル  
(知床国立公園内)  
〒099-4000 北海道網走市  
TEL 0156-22-1423

大雪山山麓ロープウェイへ徒歩5分  
2009年グループ別  
6名以上で1名無料(9.8.10月のみ)  
5月連休お休み(6月からは営業)

あみはじロケット  
〒020-0100 栃木県日光市  
TEL 0286-22-2200

でたくもありめでたくもなし  
(松阪市 飯木伸八)

今私がいちばん楽しんでる  
里山は、三上山・希望ヶ丘・鏡  
山である。

鏡山山系から南は竜王町の普  
光寺川、北は野洲町の家棟川が  
流れている。低山ながらほとん  
どが自然林で裾野が広く、二つ  
の川の流域には池や湿原が多く  
貴重な植物の宝庫でもある。

その中でもトキノウ・カラキ  
ン・イワナシ・スイラン・ワレ  
モコウ等が絶滅の危機に瀕して  
いて心配している。

それ以外にも珍しい植物があ  
る。落葉低木のサルマメ・ヘビ  
ノボラス、そしてヒカゲカズラ  
科の貴重なミズスギ、そして絶  
滅危惧種で熊本と長野では天然  
記念物に指定しているヒモズル  
を今回発見した。ヒカゲカズラ  
のように地を這って木に登き付  
いて三〜四尺の高さからしなや  
かな紐状の枝を広げている。デ  
リケートな植物でサンプルのた  
めに枝を切ると、ショックで枯

れることもあると聞いた。  
特に鏡山山系には雨の温暖な  
地方の植物をかなり見ることが  
できる。

皆さんも身近な里山を歩き  
廻ってください。いろいろと発  
見できると思います。

(近江八幡市 岩野 明)

10月1日、大笠山に行く。紅  
葉がきれいだった。四度挑戦し  
て三度山頂に行けた。

3日、例会で水無山に行くが、  
林道の状態が悪く、ソウレ山に  
行く。山頂のブナには熊糞が多  
数見られた。

4日、金剛堂山へ行った。

10日、美濃の屏風山へ行った  
が、どの山よりも急な登りだっ  
た。

11日、明神山を予定するも、  
中電の管理道路が長すぎてタウ  
ン。洞の天井まで終わった。

14日、岐阜市の百ヶ峰と眉  
山(総岐阜百山)に行った。

17日、大白木山へ行った。

18日、高屋山へ行った。

20日、岐阜・富山県境の水無

山に向かうが、牛首林道・水無  
林道共に通行止めで入れなかつ  
たので、ソウゾウ山に行った。

21日、山県市伊自良の釜ヶ谷  
山と本栗市の格向山に行った。

24日、オゾウ山へ行った。

25日、猿ヶ馬場山に行く。三  
角点も山頂にも登りかけたが16人  
と大勢だ。林道終点からは藪や  
ぶだった。

27日、無伏山に行った。長野  
県最南の一等。

28日、奥茶臼山に行った。先  
日の台風で多くのシラビソが倒  
れて歩きにくかった。

31日、越山に行った。急な尾  
根には踏跡があった。

11月3日、田和良村の堂塚山  
に行き、2時間で往復できた。

7日、東洞岳は東の尾根から  
で1時間で山頂。山頂から東に  
くだり、35分で林道だった。午  
後は大洞山に行った。

8日、例会で三國山に行った。  
ササは枯れて歩きやすく、鞍掛  
峠から30分だった。白草山へも  
峠から1時間余りで行けた。

12日、金生山に行った。石灰

石の採掘で山頂部はすでに無く、  
虚空蔵のお寺近くの最も高い部  
分に行ったが、表示は無かった。

14日、尾崎権現山(208m)  
と岐阜権現山(316.5m)に  
行った。

15日、奥美濃の鳥帽子岳は雨  
で中止し、武儀の権現山に行っ  
た。お昼に登れたので、各務ヶ  
原権現山にも行った。

18日、サンノの高に行けた。

21日、藤巻山とナガザコに  
いった。ナガザコの東に人口重  
心のモニユメントがある。

22日、岳山と黒岳に行った。

23日、相戸岳と古城山(408  
m)に行った。

26日、御池谷のネコマサノク  
ラとクヌギクワに行った。新た  
な鍾乳洞と岩クラである。

28日、夕森山(1597m)  
へ行った。北夕森山とも言う。  
夕森山は二つあり南の夕森山  
(1521m)と区別している。

29日、高天良山と大山白山に  
行った。(海津市 山田明男)



**山行計画**  
(3・4月)  
新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一枚)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認の上申し込み込んでください。電話・FAXでの申し込みもお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後参加できなくなった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日にわたり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

- ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
- ・入院保険金 日額 5000円
- ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

**例会申込み書**

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号

(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL

(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

3月	地域	対象の山	定員	リレーリーダー
6(出)	播磨	小野アルプス		狩野
7(出)	六甲	七兵衛山		古賀
7(出)	鈴鹿	雨乞岳	*	岩野
9(出)	台高	長山・大焼山・方灯籠山	26	神谷
11(出)	三河	高見山・差形峠		西上
13(出)	比叡	吉祥山	10	鷺見
13(出)	比叡	修学院・大比叡	10	中
13(出)	比叡	武奈ヶ岳		村田
14(出)	比叡	奥草山・政子	24	森脇
14(出)	比叡	蓬萊山・小女郎ヶ池・権現山	26	秦
17(出)	大峰	天竺山		西上
20(出)	飯高	三峰山	*	稲垣
20(出)	朽木	横谷峠・水坂峠	24	狩野
20(出)	南勢	総門山・高峰山・姫越山	25	村田
20(出)	飛騨	六郎洞山	10	山田
21(出)	台高	シヨウジ山・点名「切原」	26	西上
21(出)	鈴鹿	御池岳・奥の平	*	岩野
21(出)	京都東山	ケール比叡駅・鏡閣寺		仲谷
24(出)	大峰	石仏山	26	西上
25(出)	湖西	箱館山		村田
27(出)	湖西	烏帽子岳		高島
27(出)	湖西	愛宕越・黒河峠	24	狩野
28(出)	奥播磨	日ノ原山	25	須磨岡
30(出)	鈴鹿	御池岳	10	山田
31(出)	京都東山	蔵上・琵琶湖疏水		金谷

\*リレーリーダー

**山行計画の実施と申し込みについて**

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込み込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があるかもしれません。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ずご記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはつきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込みされた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐにお断りします。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断してください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
  - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3・4時間コース)
  - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
  - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6・7時間コース)
  - (やや難向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6・7時間コース)
  - (難向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください(屏から連絡はしません)。降雨山行の難い方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようお願いいたします。

4月	地域	対象の山	定員	リレーリーダー
3(出)	三河	雨乞山	10	鷺見
3(出)	室生	室生寺・兜岳・鏡岳		村田
4(出)	鈴鹿	墨仙山西南尾根	*	岩野
6(出)	南山城	大河原・笠置山		村田
10(出)	六甲	六甲最高峰	8	中
10(出)	湖西	武奈ヶ嶽・水坂峠	24	狩野
10(出)	伊賀	雲山		村田
11(出)	比叡	岩阿砂利山・岳山		秦
11(出)	鈴鹿	綿向山・竜王山	24	森脇
14(出)	大峰	勝負塚山	26	西上
14(出)	六甲	高峯の滝・ロックガーデン・魚屋道		仲谷
17(出)	朽木	横谷峠・駒ヶ岳西尾根	24	狩野
18(出)	台高	小佐倉山・紅梅矢塚	26	西上
18(出)	鈴鹿	横根連峰	*	岩野
18(出)	湖北	刀根越・大黒山	40	村田
20(出)	六甲	逢ヶ山・権茶茶屋		神谷
22(出)	湖北	伊吹山	10	山田
22(出)	台高	江馬小屋谷・野江股の頭	26	西上
24(出)	南紀	熊野古道・観音道・大吹峠	*	稲垣
24(出)	飛騨	八尾山	10	山田
24(出)	敦賀	三内山		高島
25(出)	湖北	横山岳	40	村田
26(出)	朽木	おにゅう峠・地蔵峠	22	寺井
29(出)	台高	岩屋口山・千秋峠	26	西上
5/2(出)	八ヶ岳	碓氷岳・天狗岳・八方台	25	村田

\*各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

週末ハイイク100  
播磨・小野アルプス縦走  
(一般向き)

3月6日(出) 日帰り  
集合 JR小野町駅9時40分  
(加古川駅9時11分発西  
陽行きに乗車)

行程 小野町駅―白雲谷温泉  
ゆびか―高山―前山―  
愛宕山―安場山―筋畑  
峠―総山―アンテナ山  
―惣山(小野富士)―  
紅山―福でん峠―小野  
町駅(解散16時頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千〃社・三木  
係 ◎狩野東彦  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
惣山(小野富士)に連なる  
2000m未満の里山をアップ  
ダウンを繰り返して歩きます。  
岩山もあるため、低山と侮っ  
てはけませんのでご注意ください。  
雨天中止

六甲・七兵衛山(一般向き)  
3月7日(日) 日帰り  
集合 阪急岡本駅8時55分  
行程 岡本駅―七兵衛山―風  
吹岩―荒地山―芦屋川  
駅(解散15時頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千〃西宮  
係 ◎古賀慶二  
申込 〒675-0112  
加古川市平岡町山之上  
684-33 17A 403 古賀  
慶二まで  
春浅い六甲を歩いてみま  
しょう。後半は手を使う楽し  
さがあります。雨天中止

鈴鹿を歩く328  
残雪の雨乞岳(健脚向き)  
3月7日(日) 日帰りマイカー  
集合 大原(かもしか荘)  
広場8時30分  
行程 かもしか荘(車)清水  
平谷林道広場―清水の  
シャクナゲ尾根―林道

広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社〃「御在所・雲  
仙・伊吹」

行程 〇岩野 明〇山田敏三  
〇後藤康幸  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
毎年恒例の残雪の雨乞岳で  
す(62号78ページ参照)。  
小雨(雪)決行

火曜ハイイク68  
南山城  
良山・大焼山・万灯籠山  
(一般向き)  
3月9日(火) 日帰り  
集合 宇治田原郷ノ口バス停  
9時15分  
\*京阪宇治駅・JR宇  
治駅から京阪宇治バ  
スに乗車(約25分)  
行程 郷ノ口―農道終点―手  
平峠―良山―大焼山―  
万灯籠山―JR山城多

費用 交通費各自  
地図 2万5千〃田辺  
係 ◎仲谷礼司〇沖 伸  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

行程 新ハイキング関西まで  
「牛」から「虎」年へ。語  
呂合わせで「うしとら(良  
山)への計画。前雨で中止  
したので少々のやぶ漕ぎをしな  
がら良山から大焼山へ廻りま  
す。ややロングコース。  
雨天中止

高尾・高見山から差杉峠  
(一般向き)  
3月11日(木) 日帰り貸切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
高見峠―高見山―カヤ  
ノ山―天狗山―船峯山  
―黒石山―差杉峠―西  
杉谷林道―井出集落

(バス) 橿原神宮前駅  
(解散17時30分)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千〃高見山・菅  
野

係 ◎西上利和  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員26名  
昨年歩いた東尾根から天狗  
山に続く北尾根を歩きます。  
岩場のトラバースや急坂と変  
化のあるコースです。  
小雨決行

自然観察山行276  
三河・吉祥山(一般向き)  
3月13日(日) 日帰り  
集合 JR岐阜駅7時30分  
行程 岐阜駅(車)吉祥山市  
民ふれあいの森駐車場  
―吉祥山―シイの大木  
―市民ふれあいの森駐  
車場(車)岐阜駅(解散)  
費用 約6000円(岐阜駅

からレンタカー代等)  
地図 2万5千〃新城  
係 ◎鷺見守康  
申込 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1  
の19の5  
鷺見守康まで  
\*定員10名(申込状況  
により減員あり)

比叡・修学院から大比叡  
(一般向き)  
3月13日(日) 日帰り  
集合 観音修学院駅8時30分  
行程 修学院駅―雲母坂―大  
比叡―無道寺道―JR  
比叡山坂本駅(解散)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千〃京都東北部  
係 ◎中 照行  
申込 〒610-0121  
陽市寺田大群10の10

標高3000以上が愛知県  
自然環境保全地域に指定され  
ている貴重な天然林内を歩  
きます。小雨決行

新ハイキング関西まで  
\*定員10名  
一等三角点大比叡(雲母坂  
から登る。雨天中止

比良・武奈ヶ岳(中級向き)  
3月13日(日) 日帰り  
集合 JR堅田駅8時40分  
行程 堅田駅(バス)坊村―  
御殿山―武奈ヶ岳―細  
川越―釣瓶岳―ナガオ  
―アカサカ道―八洞瀧  
―ガリバー旅行村(バ  
ス)―近江高島駅(解散  
17時頃)

費用 交通費各自  
地図 昭文社〃「比良山系」  
係 ◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
武奈ヶ岳を越え、細川越か  
ら釣瓶岳に登り、ナガオをく  
だつて八洞瀧へ下山する。  
雨天中止・雪決行

近江の山シリーズ31  
鈴鹿・奥草山から玖子  
(一般向き)  
3月14日(日) 日帰り貸切バス  
集合 JR京都駅八条口7時  
40分  
行程 京都駅(バス)大河原  
―林道終点(登山口)  
―奥草山―玖子―大河  
原(バス)―京都駅(解  
散17時頃)

費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社〃「御在所・雲  
仙・伊吹」  
係 ◎森脇貞義  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名  
奥草山から三角点玖子へ登  
ります。残雪の綿向山や御在  
所山を美しく望むことができ  
るでしょう。  
雨天中止・雪決行

費用 交通費各自  
地図 昭文社〃「御在所・雲  
仙・伊吹」  
係 ◎森脇貞義  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名  
奥草山から三角点玖子へ登  
ります。残雪の綿向山や御在  
所山を美しく望むことができ  
るでしょう。  
雨天中止・雪決行

比良を歩く81  
蓮葉山から小女郎ヶ池・  
権現山 (中級向き)

3月14日(日) 日帰り  
集合 JR志賀駅9時00分  
(9時02分発びわ湖パレ  
イ前行バスに乗り)  
志賀駅(バス)びわ湖  
パレイ前(ロープウェ  
イ)打見山―蓬萊山―  
小女郎ヶ池―ホツケ山  
―水分神社分社―権現  
山―スゴノパン―雲仙  
山(カットする場合あ  
り)―妙道会聖地また  
は栗原(バス)和邇駅  
(解放)  
費用 約2700円(京都か  
ら)  
地図 2万5千―比良山  
昭文社「比良山系」  
係 ◎秦 康夫  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大畔10の10  
新ハイキング関西まで  
適度の残雪があれば、快速

な後線歩きが楽しめます。  
雨天中止

大峰・天竺山 (中級向き)  
3月17日(水) 日帰り 前夜バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
―奥里―ザレ場―天竺山  
―旧花瀬道―尾根出合  
―内原橋(バス)―橿原  
神宮前駅(解放17時30  
分)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千―風屋  
係 ◎西上和  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大畔10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員26名  
昨年、雨予報で中止になり  
ました。今回は晴天を期待し  
てのりベンジ山行です。  
小雨決行

三重の山107  
飯高・三峰山 (二校向き)

3月20日(日) 日帰り マイカ  
集合 飯高町道の駅(飯高駅)  
9時00分  
行程 飯高駅(車)ゆりわれ  
コース登山口―ゆりわ  
れ―八丁平―三峰山―  
新道峠―ワサビ峠―  
月出登山口(林道)―  
ゆりわれコース登山口  
(車)飯高駅(解放16時  
頃)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千―菅野  
係 ◎稲垣逸夫  
申込 〒519-0311  
鈴鹿市大久保町206  
5 稲垣逸夫まで  
大洞山、俱留山等が一望  
できる。下山後、有志で山荘  
「無酔庵」で一泊。泊希望の  
方は「宿泊希望」と記してく  
ださい。雨天決行

週末ハイク101  
高島トレイル⑧  
朽木・横谷峠から水坂峠  
(二校向き)

3月20日(日) 日帰り 前夜バス  
集合 JR京都駅八条口7時  
40分  
行程 京都駅(バス)横谷峠  
―行者山―椋川―桜峠  
―一の谷山―水坂峠  
(バス)京都駅(解放17  
時30分頃)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千―嬰庭野  
係 ◎狩野東彦  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大畔10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名  
横谷峠から分水嶺を縦走し  
ていったん椋川へ下山し、桜  
峠から分水嶺の二の谷山へ登  
ります。二の谷山から水坂峠  
への下山は急勾配のためス  
トックが役立ちます。  
雨天中止

南勢  
総門山・高峰山・姫越山  
(二校向き)

3月20日(土) 22日(祝)  
2泊3日 前夜バス  
集合 (20日) JR京都駅八  
条口7時40分  
行程 (20日) 京都駅(バス)  
奥伊勢フォレストピア  
―北総門山―総門山―  
フォレストピア(泊)  
(21日) 宿(バス)イ  
ワナの里(バス)東尾  
根登山口―東尾根―高  
峰山―(往路)―イワ  
ナノ里(泊)  
(22日) 宿(バス)錦  
―登山口―尾根出合―  
芦浜分岐―姫塚―姫越  
山―芦浜分岐―芦浜池  
分岐―浅間神社―錦  
(バス)京都駅(解放19  
時頃)  
費用 約29000円(バス  
宿泊代等)  
地図 2万5千―江馬・間弓

尾鷲・嶮  
◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大畔10の10  
村田智俊まで  
\*定員25名

花の総門山、近畿百名山の  
高峰山は東尾根コースから、  
太平洋を展望する姫越山へ、  
三山を巡る。雨天決行  
展望の山66  
飛騨・六郎洞山(二校向き)  
3月21日(日) 日帰り  
集合 JR西岐阜駅6時50分  
行程 西岐阜駅(車)鈴蘭高  
原スキー場―六郎洞山  
―(往路)―鈴蘭高原  
スキー場(車)西岐阜  
駅(解放)  
費用 交通費各自(車代30  
00円)  
地図 2万5千―高山  
係 ◎山田明男  
申込 〒503-0535  
海津市南邊町松山624の

19 山田明男まで  
\*定員10名程度  
スキー場から歩きます。雪  
山歩きの準備で。雨天中止

合高シヨウジ山から点名  
「切原」 (中級向き)  
3月21日(日) 日帰り 前夜バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
神之谷橋詰―780坪  
峰―大岩―シヨウジ山―  
切原―シヨウジ山―  
神之谷橋詰(バス)橿  
原神宮前駅(解放17時  
30分)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千―大和柏木  
係 ◎西上和  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大畔10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員26名  
秀麗な白嶺岳の頂きを望み  
ながら、残雪の尾根歩きを楽

しみます。小雨決行

鈴鹿を歩く329  
残雪の御池岳・奥の平  
(健脚向き)  
3月21日(日) 日帰り マイカ  
集合 御池林道小又谷分岐広  
場8時30分  
行程 広場(車)小又谷林道  
池ノ谷出合―土倉岳―  
奥ノ平―ボタンブチ―  
南峰―T字尾根―御池  
林道―広場(解放)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・霊  
仙・伊吹」  
係 ◎岩野 明◎山田景三  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大畔10の10  
新ハイキング関西まで  
毎年恒例の残雪の奥ノ平を  
楽しむ御池岳山行です(24号  
49ページ参照)。  
小雨(雪) 決行

ゆつくり歩こう3  
京都東山トレイル  
ケーブル比叡駅から銀閣寺  
(初級向き)

3月24日(水) 日帰り  
集合 叡電八瀬比叡山口駅9時15分  
行程 ケーブル八瀬駅(ケーブル) ケーブル比叡駅  
—水飲対陣碑—石鳥居—瓜生山—銀閣寺道バス停(解散14時頃)  
費用 交通費各自  
地図 京都一園トレイル「東山」  
係 ○仲谷礼司○沖 伸  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大町10の10  
新ハイキング関西まで距離は短くゆつくり歩きます。長い登りを避けてケーブルで上り、初級向きに下りのみの歩きました。

雨天中止

大峰・石仏山 (中級向き)

3月25日(木) 日帰り 貸切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス) 滝谷橋—尾根出合—石仏山北峰—石仏山南峰—尾根出合—滝谷橋(バス) 橿原神宮前駅(解散18時)

費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千 風屋  
係 ○西上和  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大町10の10  
新ハイキング関西まで登山口から急登ですが、美しい天竺山を望みながらゆつくり歩き、山頂を往復します。小雨決行

3月27日(土) 日帰り  
金曜里山ハイキング26  
湖西・箱館山 (初級向き)

集合 JR近江今津駅9時10分

行程 近江今津駅(タクシー) ビラダスト今津—箱館山スキー場—ロープウェイ山上駅—箱館山三角点—箱館山登山口 駐車場(バス) 近江今津駅(解散17時頃)

費用 交通費各自(タクシー代約1000円)  
地図 2万5千 海津  
係 ○村田智俊  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大町10の10  
村田智俊までいち早く咲く陽春の花を見ながら、ゆつくりたどる。雨天中止

3月27日(土) 日帰り マイカー  
集合 岐阜県田上石津町役場 9時00分  
行程 役場(車) 細野登山口

—細野コース—鳥帽子宿—(往路)—登山口(解散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千 篠立  
係 ○高島伸浩  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大町10の10  
新ハイキング関西まで昨年出来た新コースを登る。南濃の展望よし。雨天決行

週末ハイク102  
高島トレイル①  
湖西・愛発越から黒河峠 (二級向き)

3月27日(土) 日帰り 貸切バス  
集合 JR京都駅八条口8時00分  
行程 京都駅(バス) 国境スキー場—愛発越—乗鞍岳北尾根—乗鞍岳—電波塔—芦原岳—猿ヶ馬場—黒河峠—黒河林道 駐車場(バス) 京都駅(解散17時30分頃)

費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社「比良山系」  
2万5千 駄口

係 ○狩野東彦  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大町10の10  
新ハイキング関西まで\*

高島トレイルの始点愛発越からのコースを歩きます。過去二回雨天中止しているので三度目の正直をねらいます。雨天中止

3月28日(日) 日帰り  
集合 JR姫路駅南口バスターミナル9時15分  
行程 姫路駅(バス) 日ノ原登山口—日ノ原山—音水湖畔(バス) 波賀温泉(入浴・バス) 姫路駅(解散)

費用 約2500円(バス)

昼弁当・入浴代共)  
地図 2万5千 音水湖  
係 ○須磨岡 輔  
申込 〒671-1262 姫路市余部区上余部50の2の11  
須磨岡 輔まで\*

音水湖を眼下にする唯一の山塊。小雨決行

平日お花見山行①  
鈴鹿・御池岳 (二級向き)

3月30日(火) 日帰り  
集合 JR米原駅8時00分  
行程 米原駅(車) 御池谷—ヒルコバ—鈴北岳—丸山—御池谷(車) 彦根駅(解散)

\*定員10名  
御池岳のフクジュソウを確認に行く。平日お花見山行の初回、ゆつくりとお花見を楽しみましょう。

\*同日参加できる方のみ申し込みください。  
雨天中止(雨天時31日に顺延)

(後) 北山ちよつと歩き  
京都東山  
蹴上から琵琶湖疎水 (二級向き)

3月31日(水) 日帰り  
集合 京都地下鉄蹴上駅9時00分  
行程 蹴上駅—日向宮—七福思案処—鉄筋混泥土橋—山科疎水—普門寺—小関越—長等公園—三井寺—琵琶湖疎水取入口—京阪三井寺駅(解散15時00分頃)

申込 〒610-0121 城陽市寺田大町10の10  
新ハイキング関西まで

桜で有名な山科疎水を蹴上から琵琶湖取入口まで全コースを歩きます。桜満開か? 雨天中止

自然観察山行277  
三河・雨乞山 (二級向き)

4月3日(日) 日帰り レンズカー  
集合 JR岐阜駅7時30分  
行程 岐阜駅(車) 泉福寺駐車場—ミハリ山—雨乞山—ミハリ山—タコウド—泉福寺駐車場(車) 岐阜駅(解散)

により減員あり)  
尾根から太平洋と三河湾を同時に望む縦走路を歩き、海洋性の暖帯常緑樹を観察します。小雨決行

**春のロングコース**  
養生・養生寺から兜岳・鐘岳  
(中継向き)

4月3日出 日帰り  
集合 近江養生口大野駅9時  
00分  
行程 養生口大野駅(バス)→養生寺→宇野川橋→マクワ→清浄坊溪谷→日無橋→メナシ地蔵→兜岳(解散17時30分)→新宅本店前(バス)→名張駅(解散16時30分)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千:大和・大野・俱利伽羅山  
係 ○村田智俊  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 村田智俊まで

年末ロングコースの延長多きとして、養生寺から兜岳・鐘岳へ出る。コースは渓谷沿いが多い。雨天中止

**花の霊仙山西南尾根**  
(中継向き)

4月4日出 日帰り  
集合 河内親鳳穴寺院広場  
8時30分  
行程 広場→寺→合領→時時→西南尾根→岩ノ時→西市尾根林道→行者谷→一の橋→鐘岳→尾根(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社・(御在所・霊仙・伊吹)  
係 ○宮野 明 ○山田 豊  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで  
毎年例年の花の霊仙山西南尾根、スハマソウ・フクジュ

ソウ・イワウチワなどが待っています。雨天中止

**花見山行**  
南山城・大河原から笠置山  
(二較向き)

4月6日出 日帰り  
集合 JR大河原駅9時30分  
行程 大河原駅→岐阜路一駅→六甲山→笠置山→一ノ宮→大橋→笠置山→一ノ宮→笠置山(解散15時30分)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千:笠置山  
係 ○村田智俊  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 村田智俊まで  
桜の名所笠置山に登る。山頂や霊石、平等宮を見学し、広場で花見を楽しむ。下山後笠置駅近くの「わかさぎ温泉」で目を洗す(更衣はシャワー)。雨天中止

六甲・六甲最高峰  
(やや難向き)

4月10日出 日帰り  
集合 JR甲南山手駅8時30分  
行程 甲南山手駅→昭内橋→針岩→風吹岩→本庄橋→針岩→六甲最高峰→魚屋道→有馬温泉(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社・(六甲・摩耶)  
係 ○中 朋行  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで  
●定員8名  
風吹岩から六甲最高峰へ登り、下山は有馬温泉へ。雨天中止

**高尾トレイル③**  
西園・武蔵ヶ嶽から水坂峠  
(二較向き)

4月10日出 日帰り  
集合 JR京都駅八条口8時  
00分  
行程 京都駅(バス)→石田川→タム→登山口→北尾根→武蔵ヶ嶽→水坂峠→京師→水坂峠(バス)→京都駅(解散17時30分)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千:熊川・費庭野  
係 ○狩野東彦  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで  
●定員24名  
高尾トレイルの大日尾根から三重峠へ南下する尾根道を旧国道303号の水坂峠へとくだります。雨天中止

**金剛山ハイキング⑦**  
伊賀・霊山  
(二較向き)

4月10日出 日帰り  
集合 JR柘植駅9時20分  
行程 柘植駅→登山口→林道

1 雲山→雲山寺→鹿島公園→柘植駅(解散15時)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千:甲賀・上野・鈴鹿峠・平松  
係 ○村田智俊  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 村田智俊まで  
一等三角点の山で大バノクマが広がる。下山は雲山寺で桜並木の下では食タイム。あとはのんびりと公園や池畔を歩く。小雨決行

**比良を歩く②**  
鹿ヶ瀬から岩阿沙利山・岳山  
(二較向き)

4月11日出 日帰り  
集合 JR近江高島駅9時00分(9時03分発)旭行バス(乗車)  
行程 近江高島駅(バス)→鹿ヶ瀬→神前寺前→登山口→湖川越→岩阿沙利山

1 鳥越峠→鳥越→岳山  
1 岳山→大伏神社  
1 近江高島駅(解散)  
費用 約1800円(京都から)  
地図 2万5千:北小松  
係 昭文社・(比良山系)  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで  
新ハイキング関西までオウム岩、仏岩(岩阿沙利山)からの展望が楽しめます。雨天中止

**近江の山シリーズ②**  
鈴鹿・綿向山から龍王山  
(二較向き)

4月11日出 日帰り  
集合 JR京都駅八条口7時40分  
行程 京都駅(バス)→公園駐車場→登山口→三合目→行者堂→綿向山→後線分岐→龍王山→水木林道→公園駐車場(バス)

スー 京都駅(解散18時40分)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社・(御在所・霊仙・伊吹)  
係 ○森脇貞義  
申込 〒610-0121 陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで  
●定員24名  
鈴鹿では人気の高い綿向山に登り、龍王山を越って下山します。雨天中止

**大峰・勝島山(中継向き)**

4月14日出 日帰り  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)→伊坪谷合合→掛小屋跡→一五合目→尾根出合→七合目→勝島山→七合目→一五合目→伊坪谷合合(バス)→橿原神宮前駅(解散17時30分)  
費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千川  
係 ◎西上利和  
申込 〒61010121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで

山頂の展望はあまり良くないが、大峰の前衛峰として岳人に人気があり、近年訪れる人が増えています。小雨決行

ゆつくり歩こう4  
六甲・高座の滝・ロック  
ガーデンから魚屋道  
(初級向き)

4月14日(火) 日帰り  
集合 阪急芦屋川駅9時40分  
行程 芦屋川駅→高座の滝→  
ロックガーデン→ピ  
ラロック→風吹岩→  
魚屋道→会下山遺跡→  
芦屋川駅(解散14時30  
分頃)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「六甲・座那」  
係 ◎仲谷礼司○沖 伸

申込 〒61010121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで

岩からの展望を期待します。コバノミツバツツジは咲いているでしょうか。雨天中止

週末ハイイク104  
高島トレイル⑦  
朽木・横谷峠から駒ヶ岳  
(一般向き)

4月17日(日) 日帰り 貸切バス  
集合 J.R.京都駅八条口8時  
00分  
行程 京都駅(バス) 横谷峠  
→池原山分岐→南尾根  
→駒ヶ岳→駒ヶ岳→西  
尾根→木地山バス停  
(バス) 朽木てんくう  
温泉(入浴・バス) 京  
都駅(解散17時30分頃)  
費用 約3000円(バス代  
地図 昭文社「京都北山」  
2万5千川 古屋・婁庭

野  
係 ◎狩野東彦  
申込 〒61010121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで

ブナ林の狭くコースです。高島トレイル中、比較的距離が短いコースなので下山後入浴します。雨天中止

台高  
小佐倉山から紅梅矢塚  
(一般向き)

4月18日(日) 日帰り 貸切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
大豆生バス停→小佐倉  
山→紅梅矢塚→984  
峰→杉谷川林道→林  
道ゲート前(バス) 橿  
原神宮前駅(解散17時)  
費用 約3000円(バス代  
地図 ◎西上利和

申込 〒61010121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで

東吉野村の静かな里山から取り付き、高見山麓の杉谷にくだります。山頂は展望はありませんが、残雪の消えた自然林の芽吹きは十分に目を爽しませてくれるでしょう。小雨決行

鈴鹿を歩く331  
横根連峰(やや健脚向き)

4月18日(日) 日帰り マイカー  
集合 河内線風穴手前寺院広  
場8時30分  
行程 広場(車) 権現谷林道  
→ツツロ坂峠→横根最  
高峰→西横根→横根→  
五僧→広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・靈  
仙・伊吹」  
係 ◎岩野 明○山田景三  
◎後藤康幸

申込 〒61010121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで

大君ヶ畑の奥、ツツロ坂峠から横根連峰を踏破し、県境稜線を五僧へと歩く。新緑と花々を楽しみます(35号44、45ページ参照)。雨天中止

湖北・刀根越から大黒山  
(中級向き)

4月18日(日) 日帰り 貸切バス  
集合 J.R.京都駅八条口7時  
40分  
行程 京都駅(バス) 柳ヶ瀬  
登山口→刀根越→玄蕃  
尾城跡→中央分水嶺→  
岩掛山(△559.3)  
→椿坂峠→大黒山→椿  
坂峠(バス) 京都駅(解  
散18時頃)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千川 木ノ本・中  
河内  
係 ◎村田賢俊  
申込 〒61010121

城陽市寺田大野10の10  
村田智俊まで  
\*定員40名

玄蕃尾城跡から北方へのびる尾根をたどって大黒山へ登る。椿坂峠までは、ほぼ平坦な尾根で余興トレイルとして拓かれたコースを歩く。小雨決行

火曜ハイイク69  
六甲・逢ヶ山から榎葉茶屋  
(中級向き)

4月20日(火) 日帰り  
集合 神鉄有馬口駅9時10分  
行程 有馬口駅→東山橋→  
逢ヶ山→仏谷峠→高尾  
山→香匠屋煙尾根→榎  
葉茶屋→山上駅(ケー  
ブル) 六甲ヶケール下  
駅(解散16時30分頃)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「六甲・座那」  
係 ◎仲谷礼司○沖 伸  
申込 〒61010121  
城陽市寺田大野10の10

新ハイキング関西まで  
エイザンスミレが見られる  
ことを期待して逢ヶ山へ登り  
ます。少しロングになります  
ので帰路はケーブルを利用し  
ます。雨天中止

平日お花見山行②  
湖北・伊吹山 (一般向き)

4月20日(火) 日帰り  
集合 J.R.関ヶ原駅8時30分  
行程 関ヶ原駅(車) 伊吹山  
ドライブウェイ七合目  
→旧道→伊吹山→遊歩  
道一周→山頂駐車場  
(車) 関ヶ原駅(解散)  
費用 交通費各自(車代15  
00円)  
地図 2万5千川 美東・関ヶ  
原  
係 ◎山田明男  
申込 〒50310535  
海津市南濃町松山624の  
19 山田明男まで  
\*定員10名  
伊吹山の古道をたどります

が、七合目まで車で上ります。  
秋まで同コースで何回か歩き  
ます。4月はカククリと山頂  
でアマナが見られるでしょう。  
\*同日参加できる方のみ申し  
込みください。  
雨天中止(雨天時2日に順延)

合高・江馬小屋谷から野  
江股の頭 (中級向き)

4月22日(木) 日帰り 貸切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
江馬小屋谷→赤い橋→  
ナンノ木平→尾根分岐  
→野江股の頭→尾根分  
岐→ナンノ木平→赤い  
橋(バス) 橿原神宮前  
駅(解散17時)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千川 七日市・宮  
川野水池  
係 ◎西上利和  
申込 〒61010121  
城陽市寺田大野10の10

新ハイキング関西まで  
\*定員26名  
台高山脈の池木屋山から迷  
岳の縦走路の中間に位置する  
鋭角的な山容の山です。  
小雨決行

三重の山108  
南紀・熊野古道観音道・  
大吹峠コース  
(中級向き)

4月24日出 日帰りマイカー  
集合 JR大泊駅10時00分  
行程 大泊駅→大泊登り口→  
比音山清水寺→波多須  
登り口→大吹峠→大泊  
駅(解散15時30分頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千円 賀田  
係 ◎稲垣逸夫  
申込 〒519-0311  
鈴鹿市大久保町206

熊野路の春をのんびりと歩  
きます。下山後、有志で民宿  
に泊まる予定です。泊希望の  
係

方は「宿泊希望」と記して  
ださい。雨天決行

展望の山67  
飛騨・八尾山 (一般向き)

4月24日出 日帰り  
集合 JR西岐阜駅8時15分  
行程 西岐阜駅(車)→柿坂峠  
→八尾山(往路)→  
柿坂峠(車)→西岐阜駅  
(解散)

費用 交通費各自(車代25  
00円)  
地図 2万5千円 下呂  
係 ◎山田明男  
申込 〒503-0535  
海津市南濃町松山624の  
19 山田明男まで

春の花は見られるでしょう  
か? 雨天中止

敦賀の山  
三内山 (一般向き)

係 ◎西上和利  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

登山口から尾根取付までは  
少しキツイ登りですが、どこ  
までも続く原生林の尾根歩き  
は訪れる者を魅了します。  
小雨決行

八ヶ岳  
硫黄岳・天狗岳・八方台  
(中級向き)

5月2日(日)5日(祝)  
3泊4日 日帰りバス  
集合 (2日)JR京都駅八条  
口7時40分  
行程 (2日)京都駅(バス)  
美濃戸口→美濃戸→北  
沢→赤岳鉱泉(泊)  
(3日)宿→赤岩の頭→  
硫黄岳→夏沢峠→オ  
ーレン小屋(泊)  
(4日)宿→榎石岳→東  
天狗→西天狗→展望台

費用 3000円(バス代)  
地図 2万5千円 七市

集合 JR敦賀駅9時00分  
行程 敦賀駅(車)→清掃セン  
ター→日本庭園→三内  
山(往路)→清掃セン  
ター(車)→敦賀駅(解散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千円 敦賀  
係 ◎高島伸浩

12月に激やぶで頂上を断念  
しましたが、整備して再チャ  
レンジします。雨天決行

湖北・西尾根から横山岳  
(中級向き)

4月25日(日) 日帰り日切バス  
集合 JR京都駅八条口7時  
40分  
行程 京都駅(バス)→音並→  
ケヤキ広場→天狗の森  
→横山岳→三高尾根→  
島崎→小市谷道→音並  
(バス)→京都駅(解散18  
時頃)

費用 約40000円(バス・  
宿泊・入浴代等)  
地図 昭文社「八ヶ岳」  
係 ◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

残雪を踏んで八ヶ岳の核心  
部をゆつくり歩く。泊まる小  
屋では全て入浴できます。  
雨天決行

韓国山旅シリーズ③  
智異山登山 (中級向き)

6月1日(祝)4日(祝) 4日間  
集合 (1日)関西空港9時50  
分(日時50分免)  
行程 (1日)関西空港(飛行  
機)釜山(バス)晋州(ホ

費用 約30000円(バス代)  
地図 2万5千円 横山・敦賀  
係 ◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

新しく拓かれた横山岳西尾  
根を登る。春の花がいっぱい  
の三高尾根コースをくだつて  
の周囲ルートを歩く(110号14  
ページ参照)。雨天中止

朽木  
おにゅう峠から地蔵峠  
(一般向き)

4月26日(月) 日帰り日切バス  
集合 JR京都駅八条口7時  
40分  
行程 京都駅(バス)おにゅう  
峠→803峠→峰→  
ちくは峠→三國峠→地  
蔵峠→ゲート(バス)  
京都駅(解散18時)

費用 約30000円(バス代)  
地図 昭文社「京都北山」

テル泊  
(2日)晋州(バス)内  
大理→細石山荘(泊)  
(3日)細石山荘→智異  
山最高峰・天王峰→中  
山理(バス)釜山(ホ  
テル泊)  
(4日)釜山(飛行機)  
関西空港(解散13時)

費用 約12万円(決定後送金)  
地図 申込者に配布(資料共  
◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の  
10 村田智俊まで  
\*定員15~20名  
\*4月20日まで

手配 アルバインツァーサー  
ビス納 大阪支店  
韓国の山旅3回目、韓国第  
二の高峰天王峰を目指す。帰  
路は釜山で韓国海鮮料理を楽  
しむ。4日間専用バスで移  
動。日本語の話せる現地ガイ  
ドが案内します。  
\*参加者には詳細を連絡。  
雨天決行

係 ◎寺井恒夫  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員22名  
おにゅう峠までバスで上り  
ます。そこから県境尾根を三  
國峠へと歩きます。きつと新  
緑がきれいでしょう。  
雨天中止

台高山脈口山から千秋峰  
(中級向き)

4月29日(祝) 日帰り日切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
青田発電所→P648  
→登山口→ヤキ尾山→  
岩屋口山→千秋峰→尾  
根分岐→スタハラ出合  
→千石平登山口ポスト  
前(バス)橿原神宮前  
駅(解散17時)

費用 3000円(バス代)  
地図 2万5千円 七市

**山行報告**  
(11・12月号)  
新ハイキングクラブ関西

横根運峰 (鈴鹿を歩く320)  
11月1日(日) ○岩野 明  
\*雨天のため中止しました。

比良・堂瀧岳から八雲ヶ原  
11月3日(日) くもり時々雪  
(集合) JR比良駅9:00 (タクシー) イン谷口9:10 | 20 | 桜の谷 | 9:25 | ノノタノホリ10:00 | 谷 | 出合10:30 | 40 | 南壁11:30 | 40 | 堂瀧岳12:30 (昼食) 12:50 | 金峯峠13:20 | 奥の深谷出合13:25 | 40 | 八雲ヶ原14:20 | 30 | 北 | 比良峠14:45 | タケ道 | 大山口 | 16:30 | 比良駅17:15 (解散)

突然の寒波襲来、昨夜来の雪で比良山系は上半分が真っ白。堂瀧岳直下の急登は積雪で難儀した。まるで冬の雪山歩きとなり、紅葉の木々に雪が積もるめずらしい光景を楽しんだ。積雪10 | 15はあ

三河・善徳山  
(自然観察山行275)  
11月7日(日) 晴れ  
(集合) JR岐阜駅7:30 (車) 西納庫登山口10:15 | 木戸洞峠10:30 | 善徳石山10:40 | 45 | 富士見岩 | 天狗の庭 | 富士見岩11:10 | 登山12:15 | 善徳石山12:40 | 木戸洞峠12:50 | 西納庫登山口13:00 (車) どんぐりの湯14:10 (入浴) 14:50 (車) 岐阜駅17:40 (解散)

通行人の無料となった茶臼山高原道路脇の西納庫登山口から30分程度で山頂に。山頂から南にくだった所に富士見岩や天狗の庭があり、この山の「売り」がある。もう一つ、登山口から木戸洞峠付近

までのブナ林が美しい。  
(参加者) 久保田玲子 山崎みよ子 中澤美香子 ○岩野明 (計3名)

京都北山  
(金曜山ハイキング22)  
11月7日(日) 晴れ  
(集合) 飯沼町駅9:00 (電車) 鞍馬駅9:30 | 50 | 由岐神社10:00 | 鞍馬寺10:15 | 40 | 大杉権現 | 広場11:00 (昼食) 11:50 | 木の根道 | 西門 | 貴船神社12:30 | 13:00 | 古事の森 | 入口丸木樋13:05 | 展望エリア13:35 | 45 | 貴船神社奥宮14:00 | 料理旅館「兵衛」 | 14:10 | 50 | 貴船口駅15:25 (解散)

鞍馬寺本殿で休憩後、木の根道を伝って貴船神社へ。火祭の炎が上がっていた。「古事の森」の進歩道は始め急登だったが、展望エリアから貴船山が望めた。帰路サリーブスチェーンの「兵衛」に立ち寄ってビールなどでくつろぎ、紅葉のなか、貴船口駅まで歩いた。(参加者) 河内正治 中嶋日出男 小林 桂 小林博子 守田光太郎

鈴鹿・鍋尻山  
(近江の山シリーズ27)  
11月8日(日) 晴れ  
(集合) JR京都駅7:26 (バス) 河内寺院広場9:20 | あげん原登山口9:31 | 40 | タケノ峠10:56 | 鍋尻山11:34 (昼食) 12:30 | 保月集落12:53 | 13:00 | タケノ峠13:47 | 14:00 | 地蔵14:22 | 35 | あげん原登山口14:58 | 河内寺院広場15:10 | 25 (バス) 京都駅18:15 (解散)

ダケノ峠から急登すると鍋尻山に着いた。雲仙山やソノドが手にとるように見えた。保月へくだり、神社の裏からの権き道はよく踏まれている歩きやすく、ダケノ峠に戻った。すばらしい天気だった。(参加者) 仲谷礼司 塚本忠次 須藤浩子 渡部和美 入江 勲 山根弘美 岩村春子 稲津謙治 長沢佑美 林 正義 大園加代子 森村 守 岡崎知子 村田はる江

高島トレイル①  
湖西・愛発越から黒河峠  
(週末ハイキング97)  
11月14日(日) ○狩野東彦  
\*雨天のため中止しました。

道無き道を落石に注意しながら白谷橋からの急斜面をよじ登る。その昔、イヌワシが餌場としていたというリョウウシの岩峰には、原始の姿が残っている。雲仙山西南尾根が姿を見せる頃、山もみじが一層紅葉し、今秋最後の姿を惜し気もなく見せてくれた(美香子)。(参加者) 服部 勇 中澤美香子 森村 守 木下朝子 中澤美香子 武村千鶴 稲津謙治 奥野太一郎 蒲川 登 栗本敏夫 白木やす子 水戸鉄治 一芝義雄 一芝美知子 岩本彩子 奥田明美 居原田幸弘 櫻田勝利 大西修郎 谷 守 小林 修 池田繁美 ○後藤康幸 小山田豊三 ○岩野 明 (計25名)

湖北の山・布達岳  
11月14日(日) くもり一時雨  
(集合) 朽木支庁10:00 (車) 天増川口登山口10:25 | 44 | 1 | 基準点11:35 | 布達岳12:00 (昼食) 12:45 | 天増川口登山口13:55 (解散)

稲井集落5分前が登山口。高鳥城の探石場までは急登。あと頂上まではナツエビネが散見されるなどらかな登り。若狭湯も見え、見事な紅葉に目を奪われた。(参加者) 磯部 純 神谷恵美子 西田俊治 堀江房雄 草野卓郎 加藤園計 谷 守 木下朝子 石原君子 小林 修 ○高島伸浩 (計11名)

リョウウシ (鈴鹿を歩く321)  
11月15日(日) 晴れ  
(集合) 河内線風穴手前寺院広場7:50 (車) 白谷橋広場8:20 |

打見山から堂瀧岳 (比良を歩く79)  
11月15日(日) 晴れ

小池一郎 三野 旭 安田文美江 富松雅子 金森節子 武部美美子 狩野東彦 竹内正子 船本裕巳子 川田位子 松村雅子 吉岡うた子 岩本健二 岩本彩子 若林文夫 金谷 昭 夏山春子 奥田則夫 渋谷義光 岩嶋健司 ○村井寿和 ○森脇貞義 (計36名)

台高・伊勢辻山から地蔵谷頭  
11月8日(日) ○西上利和  
\*バス定員未満で中止しました。

東濃・三国山と白草山 (展望の山62)  
11月8日(日) 晴れ  
(集合) JR勝川駅7:00 (車) 鞍掛林道車止9:00 | 05 | 鞍掛峠 | 10:05 | 三国山10:35 | 鞍掛峠 | 11:10 | P154 | 1 | 11 | 40 (昼食) 12:05 | 白草山12:40 | 13:30 | 登山口14:40 (車) 西岐駅17:10 (解散)

ササやぶと思われた鞍掛峠からの尾根は列られていて、30分で三国山に登れた。午後の白草山へも峠から1時間余で到着でき、山頂でゆっくりできた。白草山頂には、

御料局の三等三角点があった。(参加者) 広瀬重見 砂原恵美子 小林一世 高橋洋子 伊藤恵美子 萩野暢子 長坂佐知子 ○山田明男 (計8名)

台高・両佛山から峰山  
11月12日(日) くもり  
(集合) 近鉄権原神宮前駅8:05 | 10 (バス) N T T 中継局ゲート前9:50 | 10:00 | 地蔵辻 | 両佛山10:25 | 大天狗岩11:55 (昼食) 12:30 | 峰山13:00 | テレビケーブル中継柱 | 中奥集落14:25 (バス) 権原神宮前駅16:00 (解散)

霧が立ち込めて展望もきかなかつたが、冬枯れの尾根道は幻想的な世界をつくってくれ、むしろ曇天のほうが晩秋にはふさわしかった。(参加者) 沖 伸 佐藤優美子 田畑吉雄 古山幸男 松上美代子 今泉 勲 木内範文 大園加代子 小谷和子 竹村英樹 船本裕巳子 三井敏一 三野 旭 小川富士雄 川俣 勲 堀内預智 守田光太郎 上田裕子 奥田則夫 中島 隆 ○竹田勝英 ○西上利和 (計22名)

打見山から堂瀧岳 (比良を歩く79)  
11月15日(日) 晴れ

中西 昭 沖 紀子 高岡富美子 佐野信江 葉子衣代 近藤恵美子 兼田幸子 巻田 晃 ○村田智俊 (計14名)

鈴鹿・鍋尻山 (近江の山シリーズ27)  
11月8日(日) 晴れ  
(集合) JR京都駅7:26 (バス) 河内寺院広場9:20 | あげん原登山口9:31 | 40 | タケノ峠10:56 | 鍋尻山11:34 (昼食) 12:30 | 保月集落12:53 | 13:00 | タケノ峠13:47 | 14:00 | 地蔵14:22 | 35 | あげん原登山口14:58 | 河内寺院広場15:10 | 25 (バス) 京都駅18:15 (解散)

ダケノ峠から急登すると鍋尻山に着いた。雲仙山やソノドが手にとるように見えた。保月へくだり、神社の裏からの権き道はよく踏まれている歩きやすく、ダケノ峠に戻った。すばらしい天気だった。(参加者) 仲谷礼司 塚本忠次 須藤浩子 渡部和美 入江 勲 山根弘美 岩村春子 稲津謙治 長沢佑美 林 正義 大園加代子 森村 守 岡崎知子 村田はる江

高島トレイル①  
湖西・愛発越から黒河峠  
(週末ハイキング97)  
11月14日(日) ○狩野東彦  
\*雨天のため中止しました。

道無き道を落石に注意しながら白谷橋からの急斜面をよじ登る。その昔、イヌワシが餌場としていたというリョウウシの岩峰には、原始の姿が残っている。雲仙山西南尾根が姿を見せる頃、山もみじが一層紅葉し、今秋最後の姿を惜し気もなく見せてくれた(美香子)。(参加者) 服部 勇 中澤美香子 森村 守 木下朝子 中澤美香子 武村千鶴 稲津謙治 奥野太一郎 蒲川 登 栗本敏夫 白木やす子 水戸鉄治 一芝義雄 一芝美知子 岩本彩子 奥田明美 居原田幸弘 櫻田勝利 大西修郎 谷 守 小林 修 池田繁美 ○後藤康幸 小山田豊三 ○岩野 明 (計25名)

湖北の山・布達岳  
11月14日(日) くもり一時雨  
(集合) 朽木支庁10:00 (車) 天増川口登山口10:25 | 44 | 1 | 基準点11:35 | 布達岳12:00 (昼食) 12:45 | 天増川口登山口13:55 (解散)

稲井集落5分前が登山口。高鳥城の探石場までは急登。あと頂上まではナツエビネが散見されるなどらかな登り。若狭湯も見え、見事な紅葉に目を奪われた。(参加者) 磯部 純 神谷恵美子 西田俊治 堀江房雄 草野卓郎 加藤園計 谷 守 木下朝子 石原君子 小林 修 ○高島伸浩 (計11名)

リョウウシ (鈴鹿を歩く321)  
11月15日(日) 晴れ  
(集合) 河内線風穴手前寺院広場7:50 (車) 白谷橋広場8:20 |



(集合) JR志賀駅 9・00→02 (六) スびわ湖パレイ前 9・10→15 (ロ) ブウエイ 打見山 9・20→35 (木) 峠 9・48→二休地蔵 10・10→15 (比) 良岳 10・25→葛川越 10・38→45 (鳥) 谷山 11・07→15 (展) 望地 11・33 (昼) 食 12・15 (荒) 川峠 12・17 (南) 比良峠 12・33 (堂) 漢岳 登り口 12・55 (堂) 漢岳登山道出合 13・00 (堂) 漢岳 13・15 (30) ノタノホリ 15・00 (10) 別荘地 15・33 (40) 比良駅 16・10 (解散)

最新式のロープウェイは早い。あつという間に、1108mの打見山に着いてしまった。あとはゲレンデ下りから始まるダウンリターン、アップが四回の快適な連続歩き。堂漢岳からの下りは長かったが、しつこいほどにどこまでも続くシロモジの黄葉が気分を和らげてくれた。

(参加者) 金森節子 福本愛子 中島 隆 兼子衣代 松井明志 平塚明美 巻田 晃 柳 良雄 貴堂雅路 吉野榮子 市井ユリエ 大野宣子 高岡富美子 (計14名) ◎ 藤 康夫

紅葉に包まれた毛受の森から別所山の広い岩跡で憩い、行市山に登った。南東側が開けていて余興方面の向こうに伊吹山を展望した。昼食後、余興トレイルとして整備された、深いササやぶも切り開かれた快進の尾根道を刀根越へくだった。玄蕃尾城は柴田勝家の居城で広大な城跡が広がっている。ゆつくり見学し、古道のプロムナード橋ヶ瀬道をくだった。

(参加者) 白鳥忠子 渡部和美 長沢佑美 多賀久子 緒方由子 里見輝生 木村 豊 中嶋日出男 小池一郎 宮崎清久 宮崎由美子 三野 旭 松見 昭 池田美恵子 大根一夫 松村穂子 渡部百合江

11月15日(日) 晴れのちくもり (集合) JR京都駅 7・40 (バス) 毛受兄弟墓 9・25→45 (中) 行市山 10・15→20 (別) 所山岩跡 10・40→50 (行) 市山 11・30 (昼) 食 12・15 (興) 尾根山刀根越 13・40→50 (柳) 瀬山三角点 13・45 (玄) 蕃尾城 本丸跡 14・00 (30) 刀根越 14・40 (柳) ヶ瀬 15・15 (30) 京都駅 17・30 (解散)

11月18日(水) くもりのち晴れ (集合) JR甲西駅 9・10→45 (バス) ひばりヶ丘 10・07 (笠) 笠岩 10・50→57 (主) 稜線 11・02 (八) 大竜王 神 11・27 (十二) 坊面上 12・15 (昼) 食 13・00 (十二) 坊温泉ゆらら 13・35 (應) 徳仏・不動明王 13・55 (14) 00 (岩) 根西口 14・21 (甲) 西 15・00 (解散)

出発頃の曇天が昼近くになると澄みきった晴天となり、笠岩、八大竜王神と十二坊面上ではすばらしい展望が得られ、晩秋の低山歩きを満喫した。

(参加者) 平田輝美 松上美代子 山本真司 木村 豊 砂原恵美子 狩野東彦 後藤康幸 西田俊治 梶原泰彦 市岡晴美 岡本正明 寺田久広 緒方由子 小川富士雄 島田 廣 吉野榮子 西谷真実子 奥比裕美 宮野穂子 ◎ 宮野哲郎 ◎ 村田智俊 (計39名)

11月19日(木) 晴れ (集合) 近鉄橋原特宮前駅 8・50 (バス) 9・00 (岩) 本谷 9・50→10・00 (黒) 文字尾根取付 11・20 (柳) 村ヶ岳 13・00 (昼) 食 13・30 (山上) 13・55 (レン) ケ 辻 14・40 (清) 浄 大橋 16・00 (バス) 橋原特宮前駅 17・30 (解散)

尾根への急登は辛かったが、黒文字尾根から霜の大日岳岩峰を眺めながら快調に登った。山頂展望台では、眺望と昼食を楽しんだ。

(参加者) 多田 徳 水本加津榮 森藤哲良 小栗大直 栗飯原通弘 楠垣君子 別所 英 栗飯原幸子 石田里美 志水明美 船本裕巳子 志水明美 金谷 昭 久保田玲子 宮崎紀正 妹尾一正 守田光太郎 大和 祐 小谷和子 大東 哲 ◎ 青木一雄 ◎ 沖 伸 ◎ 仲谷札司 (計29名)

11月21日(日) 晴れ (集合) 備杖湖畔「ふれあい公園」駐車場 9・00→10 (杖) 立橋下之堀内 (東) 登山口 9・25 (林) 道終点 9・45 (備) 杖ヶ岳 11・00 (昼) 食 11・50 (本) 法寺 (西) 登山口 13・00 (東) 登山口 (杖) 立橋「ふれあい公園」 13・30 (解散)

天気がよし。紅葉よし。展望よし。頂上直下の樹の実が見事だった。本法寺境内にはすでにヤブツバキが咲いていた。

(参加者) 宮村信夫 武藤由美子 亀井悦子 相沢正二 石田真由美 平 麗一 平 幸子 ◎ 楠垣逸夫 (計8名)

中山谷山・奥の谷山 (京都北山歩き135)

11月22日(日) 晴れのちくもり (集合) JR京都駅 7・40 (バス) 五波峠 10・00→15 (若) 丹園境尾根 分岐 10・35 (中) 山谷山 11・00→10 (尾) 根広場 11・15 (昼) 食 11・55 (P) 7 6 6 (12) 30 (40) P 7 4 3 (1) 先の林道終点 12・50→55 (奥) の谷山 13・15→30 (往) 路 林道終点 13・50→14・00 (ツ) ヲ 水谷林道 五波林道 若谷出合 14・45→15・00 (バス) 京都駅 18・45 (解散)

プナ林の尾根をたどり、二つの三等三角点を踏んだ。すでに落葉したプナ林越しに背栗山が見えた。ササが消えた尾根に落ち葉が積もり、歩きやすい道だった。ツバク水谷林道はジグザグにくだった。瀬音を聞き、橋を渡るとバスの待つ五波谷林道はすぐだった。

(参加者) 和田直樹 塚本忠次 須藤浩子 野間越夫 平田和子 渡部和美 岩村春子 松上美代子 志水明美 多賀久子 木村 豊 中川光郎 松尾一郎 中嶋日出男 鮎田二郎 岡崎知子 山崎みよ子 朝倉松雄 三野 旭 武部美英子 藤井 謙 藤井順子 梅島 昭

11月24日(火) 晴れのちくもり (集合) 叡電鞍馬駅 9・10 (扶) 桑橋 9・45 (百) 井谷 (百) 井峠 11・25 (天) ヶ岳 11・40 (昼) 食 12・30 (祝) 光院道 P 5 6 6 分岐 13・25 (谷) 筋道 焼杉山 14・30→35 (尾) 根道 大原バス停 16・15 (解散)

今の時期の百井谷は歩きやすく、鉄塔からの展望は秋色濃い山差がすばらしい。焼杉山の北面の道は荒れていた。植林ばかりの道だが楽しめたコースだった。

(参加者) 入江 薫 高木忠夫 木内龍文 竹田勝英 浅野 剛 加藤浩二 鮎田二郎 川上久堅 岩本彰子 夏山春子 福島 昭 渡部和美 本岡 隆 加納由紀子 木下朝子 小松志信 小川富士雄

11月26日(木) ◎ 西上和利 \*バス定員未達で中止しました。

11月28日(日) 晴れ (集合) JR近江長岡駅 9・10 (ク) シー 三宮神社登山口 9・20→33 (三) 合目 11・04 (伊) 吹山 13・06 (昼) 食 13・40 (登) 山口 15・55 (16) 10 (六) 近江長岡駅 16・20 (解散)

三合目までの車道が通行止で、三宮神社から往復した。伊吹山のセメント工場は現在休業し、植生の復元・緑化が進められているとか、ぜひ遊んで欲しい。山頂の大和武尊像の前で記念写真を撮って、スリーブをつくって体を暖めた。

(参加者) 石井照雄 松上美代子 大嶋 勉 川島勝英 ◎ 中 照行 (計5名)

教員の山・三内山

12月5日(出) くもり一時雨
(集合) JR教員駅 8・50(車) 清
掃センター登山口 9・20(四等) 三
角点花城 9・45(第一) 反折板 10・
30(第二) 反折板 10・45(三内山頂
上) 手前にて引き返す 11・35(第一)
反折板 11・50(昼食) 12・20(清
掃センター) 13・15(解散)
新ルート(東尾根) 教員湯や日
本三大松原(氣比の松原)が常に
眼下に見える。頂上手前の激やぶ
は合羽が破れるので引き返した。
4月にもう一度再行する。激やぶ
を整備してお待ちしています。
(参加者) 西田俊治 宮城勝江
○高島浩治 (計3名)

忘年山行

湖北・己高山 (週末ハイキング)
12月5日(出) 雨のちくもり
(集合) JR京都駅 7・20(バス)
己高庵 9・20(30) 仏供谷登
山口 9・55(10) 00(六地蔵) 10・
45(50) 止屋展望台 11・10(尾尾
寺跡) 11・40(己高山) 12・05(昼食)
12・30(第一) 鉄塔 12・55(第二) 鉄
塔 13・05(15) 高時小コース登山

伊賀・雲山

(金曜山ハイキング)
12月5日(出) ○村田智俊
\*雨天のため中止しました。
忘年山行
三角点(水準点) 探し
(麓望の山)
12月6日(出) 晴れ
(集合) JR関ヶ原駅 8・30(三
岐鉄道西野尻駅 8・30(三組に

静ヶ岳・セキオノコバ

12月6日(出) 晴れ
(集合) 茶屋川林道へリポート 8・
00(車) 文治谷広場 8・20(1P
814) 11・50(1P) 1014(1
10・50) 11・50(1P) 11・セキオノ
コバ 11・40(昼食) 12・35(静ヶ
岳) 13・00(西尾根の池) 13・40(茶
屋川林道) 14・40(文治谷広場) 15・

分かれてそれやれ三角点(通る)

12月12日(出) 晴れ
(集合) JR岐阜駅 8・30(車) 伊
吹の流石車場 10・10(20) 白山神
社 11・30(各務原権現山) 12(30(昼
食) 13・30(伊吹の流石車場) 15・
30(車) 各務原美人の湯 15(20(入
浴) 16・20(車) 名鉄六軒駅 16・
52(電車) 名鉄岐阜駅 17(12(解散)
集合時間を1時間遅らせ、(麓望
の里山を汗ばむほどの陽気のなか、
常緑樹を観察しながらゆつたり歩
いた。下山後、岐阜駅付近の
居酒屋で忘年会を行った。
(参加者) 佐々木三千代
田中善雄 堀田輝子 ○鷺見守康
(計4名)

伊沢の里 14・15(入浴) 15・30(バス)

12月12日(出) 晴れ
(集合) JR京都駅 7・30(バス)
坂口バス停 9・13(坂口登山口) 9・
20(香山寺分岐) 10・05(10) 香山
寺 10・15(10) 香山寺分岐 10・47
(55) 田上山分岐 11・10(10) 奥松ノ
峰 11・15(25) 四等三角点 11・45
(木ノ本配水池) 12・08(木ノ本駅)
12・22(バス) マキノ高原 13・00(忘

25(解散)

落ち葉が積もり、吹く風は冷たい。
茨川林道からの急登はキツイけれど、P1041(1)過ぎのずんぐりブナは微笑をくれ、山頂から竜ヶ岳の姿は優しかった。下りはイワカガミの群生尾根をP861(1)より文治谷へ。里は名残の紅葉が彩っていた(美香子)。
(参加者) 磯部 純 中澤興司 藤村 守 隈部 純 中澤美香子 武村千鶴 滝川 登 吉岡うた子 山内玄次 岩本彩子 居原田幸弘 林 正義 木下朝子 栗野太一郎 高橋昇治 一芝義雄 一芝美知子 栗本敏夫 緒方由子 石田真由美 永戸鉄治 櫻田勝利 多田 健 大西精郎 小林 修 福津謙治 ○後藤康幸 ○山田辰三 (計29名) ○岩野 明 (計29名)

12月12日(出) 晴れ

12月12日(出) 晴れ
(集合) JR岐阜駅 8・30(車) 伊
吹の流石車場 10・10(20) 白山神
社 11・30(各務原権現山) 12(30(昼
食) 13・30(伊吹の流石車場) 15・
30(車) 各務原美人の湯 15(20(入
浴) 16・20(車) 名鉄六軒駅 16・
52(電車) 名鉄岐阜駅 17(12(解散)
集合時間を1時間遅らせ、(麓望
の里山を汗ばむほどの陽気のなか、
常緑樹を観察しながらゆつたり歩
いた。下山後、岐阜駅付近の
居酒屋で忘年会を行った。
(参加者) 佐々木三千代
田中善雄 堀田輝子 ○鷺見守康
(計4名)

12月13日(出) 晴れ

12月13日(出) 晴れ
(集合) JR京都駅 7・30(バス)
坂口バス停 9・13(坂口登山口) 9・
20(香山寺分岐) 10・05(10) 香山
寺 10・15(10) 香山寺分岐 10・47
(55) 田上山分岐 11・10(10) 奥松ノ
峰 11・15(25) 四等三角点 11・45
(木ノ本配水池) 12・08(木ノ本駅)
12・22(バス) マキノ高原 13・00(忘

00(解散)

青山寺境内を一周して奥松ノ峰
に着いたが、展望は無い。下山途
中の四等三角点から己高山が大きく
見えた。マキノ高原へ移動して
の忘年会で一年を振り返った。
(参加者) 仲谷礼司 磯部 純
沖 伸 中川光郎 高橋登治
須藤浩子 福津謙治 武部美香子
林 正義 三井純一 船本裕巳子
岡崎知子 岩城豊子 砂原恵美子
竹内正子 松村雅子 加納由紀子
金谷 昭 岩田健司 村岡雄志郎
岩本彩子 岩本健二 山高多恵子
三野 旭 岩田育士 市井エリエ
狩野東彦 長沢祐美 辻中 貢
大嶋 勉 若林文夫 川島勝英
夏山春子 ○村井寿和
○藤原貞義 (計35名)

忘年山行

大輪・天竺山
12月10日(出) ○西上利和
\*雨天のため中止しました。

忘年山行

大輪・天竺山
12月10日(出) ○西上利和
\*雨天のため中止しました。

忘年山行

大輪・天竺山
12月10日(出) ○西上利和
\*雨天のため中止しました。

忘年山行

大輪・天竺山
12月10日(出) ○西上利和
\*雨天のため中止しました。

12月16日(木) くもりの晴れ  
 (集合) 松尾大社9・15・25―若  
 寺―松尾谷林道京都トレイル取付  
 点9・50―55―松尾山10・45―展  
 望所11・30―嵐山城址11・40―45  
 ―展望所11・52(昼食)12・40―  
 松尾山分岐13・05―嵐山13・35(解  
 散・忘年会)

今冬一番の大寒波襲来となった  
 が、昼前より日も差し、冬枯れの  
 雑木林のなかを歩き、所どころで  
 京都市の大展望を楽しんだ。下山  
 後は例年通り、渡月橋公園で有志  
 多数による忘年会。大いに盛り上  
 った。

(参加者) 入江 勲 中嶋日出男  
 三井絃一 今泉 勲 宮路ちへ子  
 沖 伸 沖 紀子 仲谷礼司  
 栗栖孝子 富田満子 岡本佳子  
 矢谷豊子 宮西和子 加藤浩二  
 武村千鶴 柳 良雄 坂井久光  
 岩本健二 岩本彩子 久保田順一  
 木下朝子 巻田 晃 中澤ちず子  
 本間昭恵 村上嘉子 鉄田トシエ  
 宮崎紀正 木村太郎 松上美代子  
 小松忠信 川上久堅 原 みとえ  
 松本忠雄 友田 毅 友田美保子  
 白鳥忠子 後藤智之 加納由紀子

安良陽子 中尾博子 本家洗子  
 塚本忠次 本間 隆 本間斐子  
 夏山弘子 後藤純子 森 康夫  
 山引敏 青木一雄 山盛加奈子  
 須藤浩子 武田和巳 船本裕巳子  
 加藤園計 山縣勝美 呉山繁三  
 ○谷 守 ○磯部 純  
 ○金谷 昭 (計59名)

大峰・高野辻から唐笠山  
 12月17日(木) くもり

(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05  
 120(バス) 高野辻10・10―20―  
 1106(峠) 唐笠山12・40(昼食)13・15  
 30―唐笠山12・40(昼食)13・15  
 1高野辻14・55(バス) 橿原神宮  
 前駅16・45(解散)  
 初冬の雪景色に迎えられ、10時  
 程の新雪を踏みながらのんびりと  
 歩いた。山頂で突然吹雪になり寒  
 えながらの食事となったが、縦走  
 路に戻った頃はすっかり天候も回  
 復し、冠雪の大峰の山々の眺望を  
 楽しんだ。

(参加者) 岩村春子 佐藤優美子  
 志水明美 長沢佑美 大岡加代子  
 渡部和美 森藤哲良 前川和佳子  
 石田里美 朝倉裕雄 成川みさお

忘年山行  
 台高・白崖岳  
 12月24日(木) 晴れ

(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05  
 1東南尾根取付9・50―白崖岳  
 11・40(昼食)12・20―尾根分岐  
 12・25―足ノ越越12・50―バス停  
 機地13・10(バス) ホテル杉の湯  
 温泉(入浴・バス) 橿原神宮前駅  
 15・10―寿司屋「まるみ」15・40  
 (忘年会) 18・00(解散)  
 林道式木根の凍結でバスが足ノ  
 越越登山口まで行けず、コース変  
 更して下山口から登り、山頂を目

古山幸男 岩城豊子 北川きゆり  
 三井絃一 竹村英樹 三野 旭  
 緒方由子 上田裕子 奥田則夫  
 中島 隆 三輪直文 ○小栗大直  
 ◎西上利和 (計24名)

忘年山行  
 西山・丸茅山  
 (鈴鹿を歩く322)

12月20日(日) 晴れ  
 (集合) 国道477号蔵王ダム広  
 場8・10(車) 鹿見峠8・30―西  
 山9・20―丸茅山10・35―広場  
 11・20(車) 水無山ロッジ12・10(昼  
 食忘年会) 14・40(解散)  
 持ち寄りのご馳走で飲みや歌え  
 の大宴会を前に、展望広がる西山  
 に登る。焼筋の尾根がのびてい  
 る丸茅山の登降は、地形図やGPS  
 S片手に「こちだ」「これは違う」  
 と口々にやかましい。これも山の  
 楽しみ。そんな我々を尻目に山は  
 いよいよ冬支度だ。空の酒ビン何  
 本かを背に、今年も鈴鹿山行忘年  
 会・山のレストランは閉店した(美  
 香子)。

(参加者) 金谷 昭 中澤與司博  
 武村千鶴 仲谷礼司 中澤美香子

納山山行  
 年末にロングコースを歩く  
 室生・長谷寺から室生寺  
 12月27日(日) 晴れ

(集合) 近鉄長谷寺駅8・30―40  
 1初瀬ダムまはらば湖畔9・10―  
 20―高東城跡10・10―20―鳥見山  
 公園11・00(昼食) 11・40―王立  
 首途寺12・20―30―山部赤人墓  
 13・20―室生湖赤人橋手前13・45  
 14・05―北津道―下山橋14・50  
 1―竜鎮橋15・10―室生ダム15・20  
 17―室生峠16・30―室生寺16・55―  
 17・05(バス) 室生口大野駅17・  
 20(解散)  
 湖畔道や鳥見山・新井佐の山麓

山田明男 岩本彩子 奥野太一郎  
 高橋舜治 一芝義雄 一芝美知子  
 宮村信夫 水戸朝子 石田真由美  
 神野孝夫 木下朝子 白木やす子  
 谷 守 福津謙治 居原田幸弘  
 小林 修 樫田勝利 友田美保子  
 栗本敏夫 炭田明美 大西精郎  
 ○後藤康幸 ○山田景三  
 ○岩野 明 ○山田景三 (計29名)

愛宕山シリーズ21  
 滝谷から愛宕山  
 (火曜ハイイク65)

12月22日(火) 晴れ  
 (集合) J R八木駅8・36(バス)  
 越知口9・00―越知9・25―芦見  
 峠10・05―芦見谷林道―滝谷取付  
 11・00―童の小屋11・45(昼食)  
 12・30―芦見谷―社務所14・00―  
 つつじ尾根―保津峡駅16・35(解  
 散)  
 昨今の寒波の影響で芦見谷は凍  
 てついた雪に覆われていて、岩場  
 をへつるのが危険と判断し、芦見  
 谷へコース変更する。白く薄化粧  
 した芦見谷は風情があり、愛宕山  
 頂からは久しぶりに北山の全貌が  
 眺められた。

道をたどって予定通り歩いた。参  
 加49名全員が、予定の17時にビッ  
 タリと室生寺へ到着できたのには  
 びっくり。約の25分あった。最終  
 コースの門森峠への石畳道は、先  
 の台風で荒れていて難航した。納  
 山忘年会には30名が参加し、  
 2009年度の新しい例会を締め  
 くくった。

(参加者) 岩崎健司 中嶋日出男  
 三井絃一 後藤康幸 宮路ちへ子  
 小栗大直 武村千鶴 加藤浩二  
 柳 良雄 南 利恵 川戸せつ  
 宮村信夫 妹尾鏡行 吉岡うた子  
 福津謙治 堀内預智 大平 漸  
 教野 豊 湯浅次男 後藤智之  
 志水明美 林 信男 小尾末吉  
 岡崎知子 狩野東彦 森 康夫  
 三野 旭 小田潤子 久保田玲子  
 小池一郎 太田裕幸 西村静子  
 川田洋子 呉比呂美 大嶋 勉  
 石井照雄 渡部和美 松上美代子  
 市岡晴美 高橋舜治 川北忠美子  
 加藤園計 谷 守 高岡富美子  
 岩本彩子 宮野祐子 ○宮野有郎  
 ○安倉正勝 ○村田智俊(計49名)

新ハイキング関西 ◎山行係(リーダー)紹介

氏名	例会名	〒	住所	電話(FAX)	申し込み	サブ
稲垣逸夫	三重の山	519-0311	鈴鹿市大久保町2065	0593-71-0246	本人	
岩野 明	鈴鹿を歩く	523-0041	近江八幡市中小森町666-15	0748-33-7215	関西本部	山田景三 後藤康彦
金谷 昭	(続)北山ちよっと歩き	607-8166	山科区梅辻番所ヶ口町3	075-581-7947	関西本部	磯部 純 谷 守
狩野東彦	週末ハイク	617-0006	向日市上植野町高瀬9-9	075-933-1458	関西本部	
古賀慶二	兵庫周辺の山	675-0112	加古川市平岡町上之山684-33 17A-403	0794-26-1890	本人	
阪上義次	神戸北部の山	574-0017	大東市津の辺町9-15	0720-78-6818	関西本部	
須磨岡精	兵庫周辺の山	671-1262	姫路市余部区上余部50-2-11	0792-73-3037	本人	
鷺見守康	自然観察山行	504-0828	各務原市藤原村園町1-19-5	0583-83-3973	本人	
高島伸浩	若狭周辺の山	914-0076	敦賀市元町14-29	0770-23-2443	関西本部	
寺井恒夫	平日ふれあいハイク	604-8874	中京区壬生天池町30	075-811-5231	関西本部	
中 照行	関西の名山	500-2134	大津市瀬田3-33-6	0775-45-7017	関西本部	
仲谷礼司	火曜ハイクほか	617-0817	長岡京市路ノ町1-6-4	075-952-1577	関西本部	沖 伸
西上利和	奈良周辺の山	586-0043	河内長野市清見台4-19-1-409	0721-637196 (0721-63-9881)	関西本部	
秦 康夫	比良を歩く	603-8211	北区紫野上石巻町22	075-491-2373	関西本部	
村田智俊	金曜ハイクほか	610-0121	城陽市寺田大野10-10	0774-53-2754	本人	安倉正勝 宮野哲郎
森脇貞義	近江の山	520-1602	高島市今津町植454-1	0740-22-5088	関西本部	村井寿和
山田明男	展望の山ほか	503-0535	海津市南濃町松山624-19	0584-56-1466	本人	

◎留意事項 (新ハイ例会を円滑に運営実施するため、下記の事項を厳守してください。)

- ① リーダー紹介欄は、各リーダーの山行例会の「問い合わせ」のみにご使用ください。
- ② 山行申し込みは、計画欄の「申込」先へ必ず「往復はがき1枚ずつ」に記入して投函してください。
- ③ キャンセルされる場合は、案内はがきを見て必ず「申込先」へご連絡ください。
- ④ 参加メンバー表(保険適用・登山届に利用)・申込はがき等は、山行日の5日前にリーダーに届けますので、必ず一週間(7日前)までに投函してください。
- ⑤ 定員制は、満席になった場合すぐに「お断り」の返信をします。無い場合は定員内で受け付けていますので、返信案内が到着するまでお待ちください。山行日の10日前頃には案内します。
- ⑥ 「会員に限る」と特記のある計画には会員外の方の申し込みはできません。特記のない場合はどなたでも参加できます。
- ⑦ サブ記名の無い山行は、当日参加者の中からリーダーがサブを指名しますので、よろしくご協力ください。
- ⑧ 山行前後にはストレッチを必ず行ってください。ケガをされた場合は解散時までに必ずリーダーに報告してください。後日の報告では、傷害保険の適用外になることがあります。
- ⑨ 山行時は、笑顔と絶やさず元気な歩みで元気に歩きましょう。体調の優れないときは、早目にリーダーに申し出てください。

新ハイ 会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西」の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動してまいりました。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には「新ハイキング関西」の山を毎月お届けします。係リーダーはすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例会に参加されるときは、山行運営費として400円を支出していただきます。四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも

持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円(ワッペン共)  
年会費 3300円(送料共)  
入会の申し込み(随時)は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。第何号からの送本かを忘れずに記入ください。なお、定期購読を希望される方も会員になっていただけます。お友達の住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集  
係は2ヶ月に1〜2回程度山行例会を実施していただきます。経験のある方、やってみたいと思われ方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「新ハイ関西リーダー必携」を(参考)にお送りします。

○新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5503番から5513番まで(敬称略)。

- 【滋賀】 木村 登 木村恵子  
坂口裕彦
- 【京都】 堀家正則 長谷川和子  
松本はつみ
- 【大阪】 川島榮子 中江南海雄  
川舟潮恵
- 【奈良】 池田繁子 高常啓子  
松本政子 井上まき子
- 【兵庫】 小林 正 (14名)

訂正とお詫び

- 109号(敬称略)  
\*55ページ上段四行「歌舞伎台帳集」→「歌舞伎台帳集」
- 110号(敬称略)  
\*14ページ下段13〜14行「歩きやい」→「歩きやす」
- \*15ページ上段12行「挟ん七ヶ頭ヶ頭」→「挟んで七ヶ頭ヶ頭同ページ中段21行「から」→「から」
- \*16ページ下段23行「水を溶かし」→「水に溶かし」
- \*35ページ中段20行「米生駅10」→「米生駅9」
- \*42ページ上段3行「水を溶かし」→「水に溶かし」
- \*44ページ下段4行「フロレス」

「フロレス」同段8行「ジエ

- スト」→「ジエスト」
- \*47ページ中段12行「許されず」→「許されず」、同段24行「書き山」のルビ「しよしよさん」→「しよさん」
- \*59ページ中段3行「雲山」→「雲山」
- \*61ページ上段写真の説明は「三ヶ峠」が正しい
- \*72ページ上段11行「採り入れられる」→「取り入れられる」
- \*75ページ下段22行「(12ページ参照)」→「(14ページ参照)」
- \*76ページ中段22行「(脚注)」→「(脚注)」
- \*78ページ上段9行「しかり」→「しかり」、同ページ中段23〜24行「(2)の時」→「(3)の時」
- \*79ページ上段付近箇中「(下)阿坂」→「(小)阿坂」
- \*81ページ上段付近箇中「岩清水八幡宮」→「石清水八幡宮」
- \*86〜90ページ下段の「新ハイ」→「新ハイ」
- \*109号「新ハイ」→「新ハイ」
- 書店でお求めになりたい方へ、前もって番号はしいと「購読予約」をされませんか、どこの書店でもお買います。ただ、関西の山は偶数月の20日頃(隔月刊)の発売